

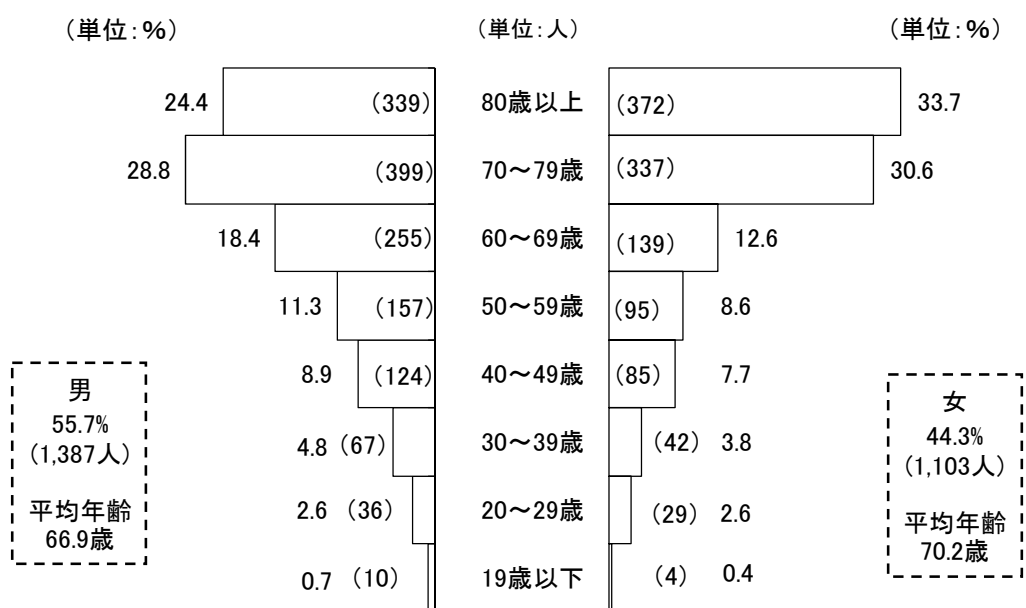
第2章 身体障害者の状況

1 基本的属性

(1) 性・年齢階級

回答者を性別にみると、「男性」は55.7%(1,387人)、「女性」は44.3%(1,103人)となっている。年齢階級別にみると、男性では「70代」が28.8%、女性では「80歳以上」が33.7%となっている。(図Ⅱ-1-1)

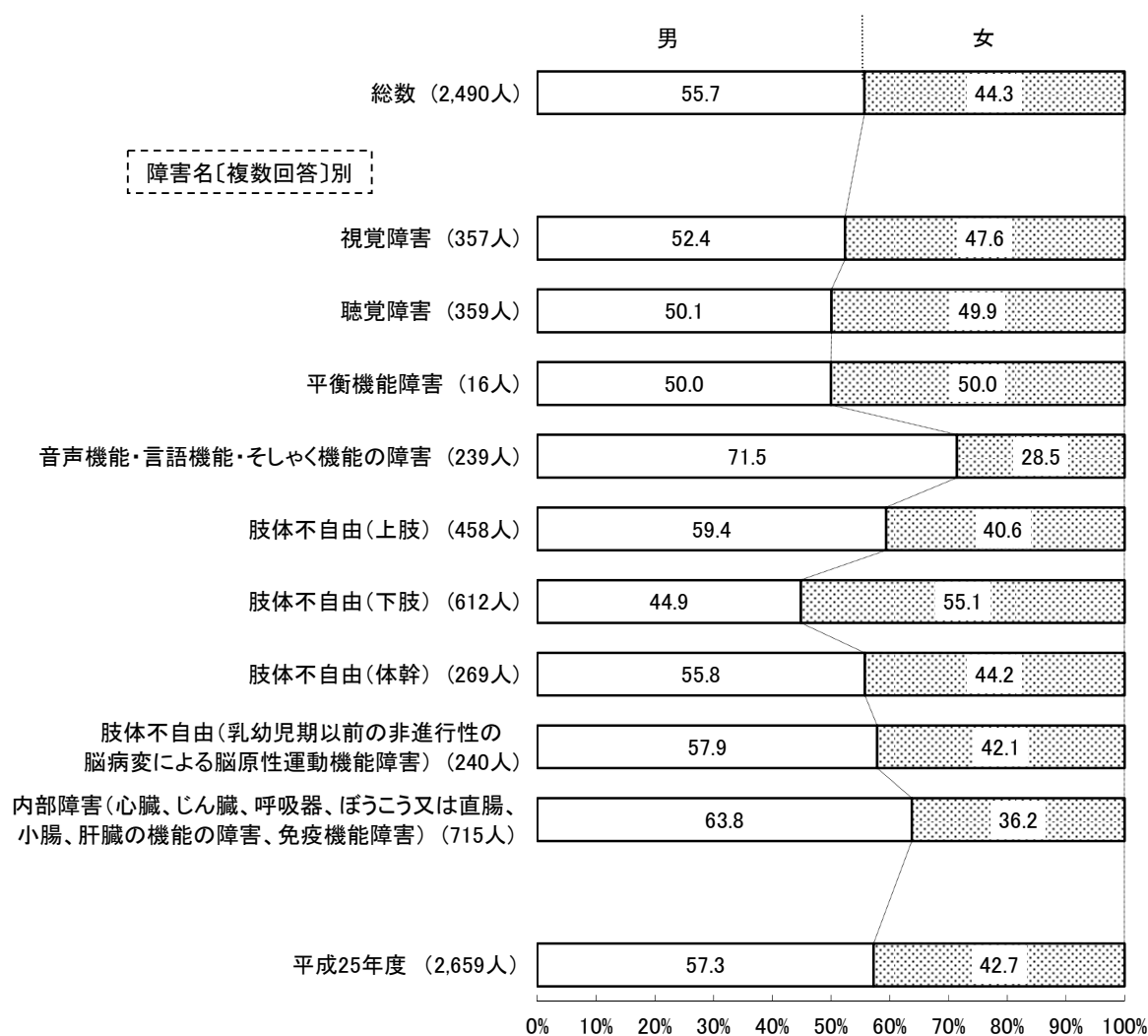
図Ⅱ-1-1 性・年齢階級



(2) 性別－障害名〔複数回答〕別

性別を障害名別にみると、男性の割合は、「音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害」では71.5%、「内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害）」では63.8%となっている。（図Ⅱ-1-2）

図Ⅱ-1-2 性別－障害名〔複数回答〕別



(3) 年齢階級－障害名〔複数回答〕別

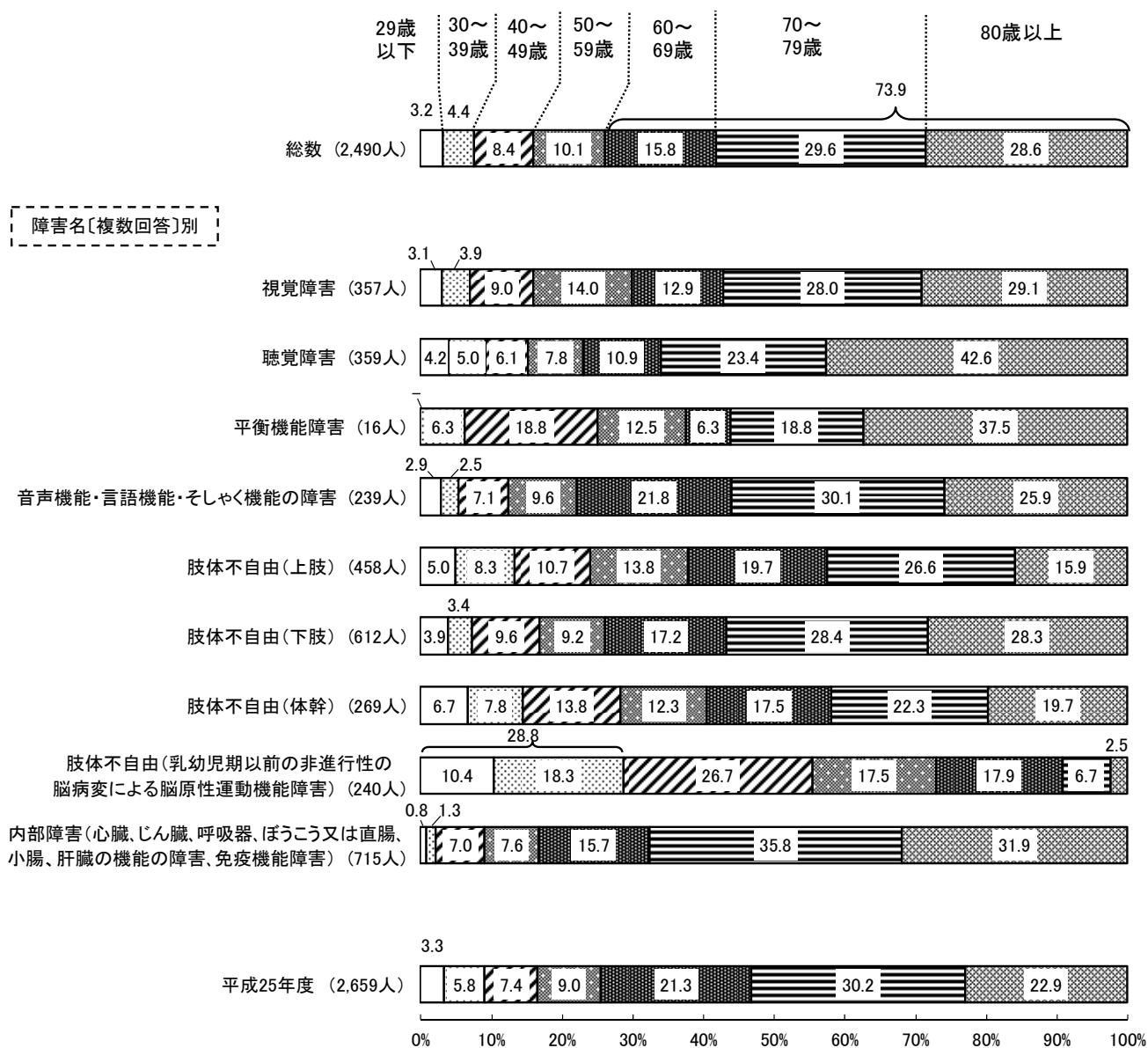
年齢階級別は、「70代」の割合が29.6%、「80歳以上」が28.6%、「60代」が15.8%となっており、これらを合わせた60歳以上の割合は73.9%となっている。

年齢階級を障害名別にみると、聴覚障害では「80歳以上」の割合が42.6%、内部障害では「70代」が35.8%となっている。

一方、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では39歳以下（「29歳以下」（10.4%）と「30代」（18.3%）の合計）の割合が28.8%となっている。

平成25年度調査と比べて、「80歳以上」の割合が5.7ポイント増加している。（図Ⅱ-1-3）

図Ⅱ-1-3 年齢階級－障害名〔複数回答〕別



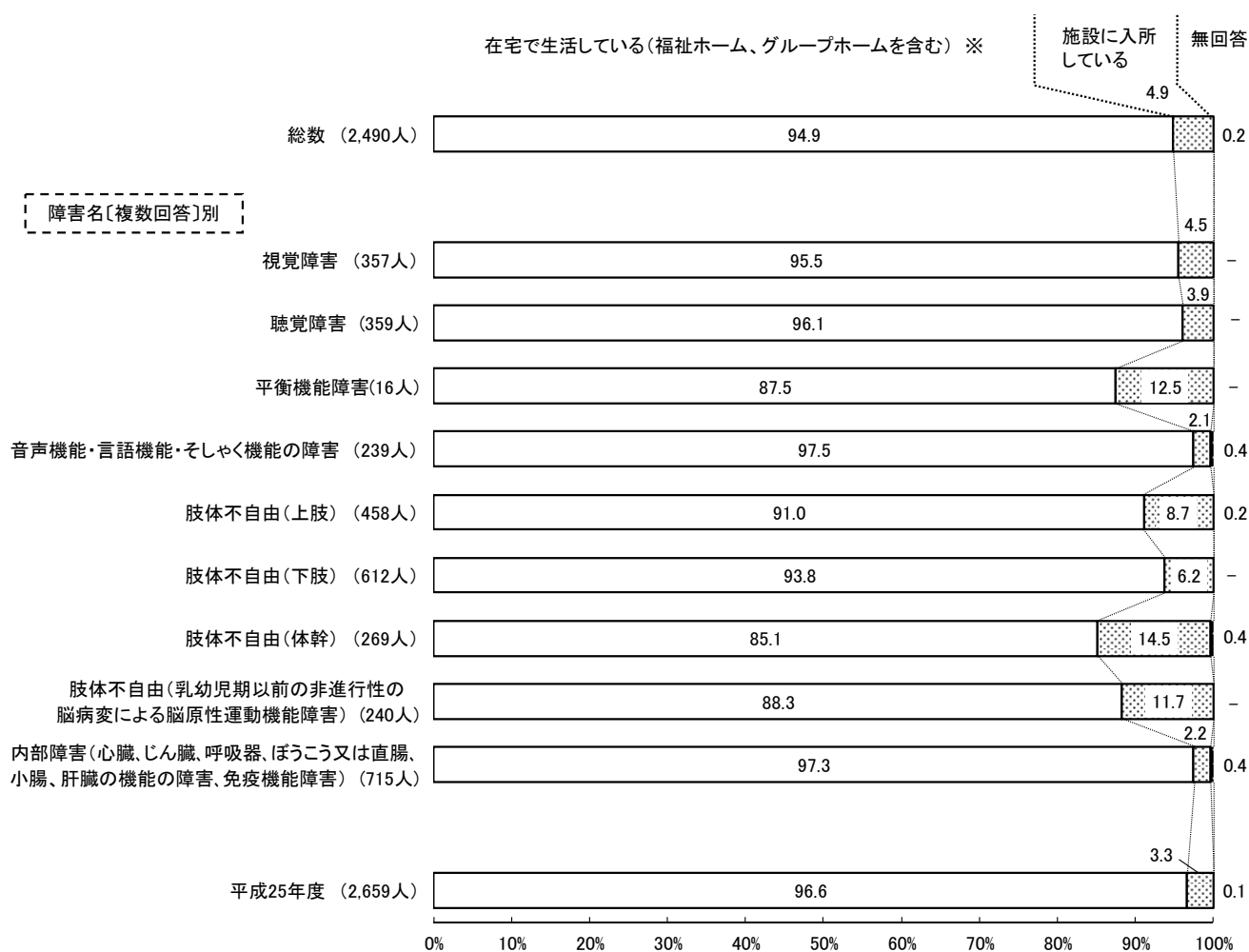
(4) 現在の生活の場－障害名〔複数回答〕別

「施設に入所している」割合は肢体不自由（体幹）（14.5%）、平衡機能障害（12.5%）及び肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）（11.7%）で1割を超えている

現在の生活の場を聞いたところ、「在宅で生活している」割合は94.9%、「施設に入所している」割合は4.9%となっている。

障害名別にみると、平衡機能障害、肢体不自由（体幹）及び肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では、「施設に入所している」割合は1割を超えている（12.5%、14.5%、11.7%）。（図Ⅱ-1-4）

図Ⅱ-1-4 現在の生活の場－障害名〔複数回答〕別



注) ※は、平成25年度調査では「在宅で生活している（福祉ホーム、グループホーム、ケアホームを含む）」としていた。

(5) 住居の種類－障害名〔複数回答〕別

※在宅で生活している（福祉ホーム、グループホームを含む）2,363人が対象

住居の種類は「持家」が63.7%、「借家・賃貸住宅等」が33.9%

在宅で生活している人に住居の種類を聞いたところ、「持家」の割合が63.7%で最も高く、また、「借家・賃貸住宅等」が33.9%となっている。（表Ⅱ-1-1）

表Ⅱ-1-1 住居の種類－障害名〔複数回答〕別

	総数	持家		借家・賃貸住宅等								福祉ホーム、グループホーム、重度身体障害者グループホーム ※2	その他	無回答
		持家（一戸建て）	持家（分譲マンション等）	都・区市町村の公営賃貸住宅	都市再生機構・公社などの賃貸住宅 ※1	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（共同住宅）	間借り	社宅などの給与住宅					
総数	100.0 (2,363)	63.7	47.7	16.0	33.9	13.2	3.9	1.6	14.5	0.4	0.4	0.9	0.0	1.4
視覚障害	100.0 (341)	57.5	43.4	14.1	39.6	16.7	3.8	2.1	16.7	0.3	-	0.9	-	2.1
聴覚障害	100.0 (345)	67.0	51.6	15.4	31.9	13.9	2.9	1.4	13.3	0.3	-	0.9	-	0.3
平衡機能障害	100.0 (14)	71.4	57.1	14.3	28.6	14.3	7.1	-	7.1	-	-	-	-	-
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (233)	64.8	47.6	17.2	33.9	12.9	4.3	1.7	14.6	-	0.4	0.4	-	0.9
肢体不自由(上肢)	100.0 (417)	55.6	40.3	15.3	40.5	16.3	3.6	1.7	16.8	1.0	1.2	2.4	0.2	1.2
肢体不自由(下肢)	100.0 (574)	63.4	47.2	16.2	33.8	15.5	3.8	1.0	12.5	0.3	0.5	1.2	-	1.6
肢体不自由(体幹)	100.0 (229)	56.8	41.9	14.8	39.7	15.7	5.2	1.3	16.6	0.9	-	2.2	-	1.3
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (212)	53.3	34.0	19.3	36.8	14.2	3.8	0.5	17.0	0.5	0.9	6.6	-	3.3
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (696)	68.1	52.4	15.7	31.0	8.8	4.9	1.7	14.9	0.4	0.3	-	-	0.9
平成25年度	100.0 (2,568)	63.7	48.2	15.5	34.6	13.3	5.1	1.8	13.2	0.6	0.5	0.3	0.3	1.1

注1) 住居の種類については、所有、賃貸の名義が障害者本人と限定していない。そのため、家族等の名義になっている場合も含まれており、必ずしも対象者本人が住居の所有者又は賃貸の名義人とは限らない。

2) ※1は、平成25年度調査では「都市機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅」としていた。

3) ※2は、平成25年度調査では「福祉ホーム、グループホーム、ケアホーム、重度身体障害者グループホーム」としていた。

(6) 現在一緒に生活している人〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、障害者になった時期別

※在宅で生活している(福祉ホーム、グループホームを含む)2,363人が対象

平成25年度調査よりも「一人で暮らしている」割合が3.6ポイント増加

在宅で生活している人に現在一緒に生活している人を聞いたところ、「配偶者」の割合が47.8%、「子供」が27.6%、「一人で暮らしている」が25.3%となっている。

障害名別にみると、肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)では「親」の割合が52.8%となっている。

障害者になった時期別にみると、50代以上では「配偶者」の割合が5割を超えている。

平成25年度調査と比べて、「一人で暮らしている」の割合が3.6ポイント増加している。

(表Ⅱ-1-2)

表Ⅱ-1-2 現在一緒に生活している人〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、障害者になった時期別

	総数	親	配偶者	子供	兄弟姉妹	親そ族の他の	い暮一るら人でて	その他	無回答	
総数	100.0 (2,363)	13.6	47.8	27.6	5.3	4.4	25.3	1.5	1.3	
障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (341)	13.2	46.3	26.1	4.4	4.4	27.3	1.2	1.8
	聴覚障害	100.0 (345)	11.6	44.9	30.4	3.2	4.9	25.5	2.0	0.3
	平衡機能障害	100.0 (14)	28.6	57.1	42.9	7.1	7.1	21.4	-	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (233)	13.3	56.7	30.0	5.2	3.9	21.5	-	1.3
	肢体不自由(上肢)	100.0 (417)	21.6	44.1	24.2	9.4	4.6	22.3	2.9	1.7
	肢体不自由(下肢)	100.0 (574)	15.5	45.5	26.0	7.5	4.4	26.1	1.2	1.2
	肢体不自由(体幹)	100.0 (229)	27.9	40.6	21.4	10.0	4.8	22.3	1.7	1.7
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (212)	52.8	9.9	8.0	18.4	3.8	24.1	6.1	1.4
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (696)	6.6	53.3	30.9	3.2	4.5	25.0	1.1	1.3
障害者になった時期別	出生前または出生時	100.0 (322)	47.8	22.4	13.4	14.3	4.7	21.7	3.1	0.6
	0～3歳	100.0 (95)	35.8	41.1	17.9	13.7	5.3	17.9	4.2	-
	4～12歳	100.0 (55)	25.5	29.1	16.4	12.7	5.5	32.7	-	1.8
	13～17歳	100.0 (26)	3.8	34.6	26.9	3.8	-	46.2	3.8	3.8
	18～29歳	100.0 (77)	19.5	44.2	20.8	9.1	1.3	27.3	3.9	2.6
	30～39歳	100.0 (130)	23.8	44.6	24.6	6.2	2.3	25.4	1.5	1.5
	40～49歳	100.0 (214)	14.5	45.8	30.4	6.1	1.9	27.6	1.4	1.9
	50～59歳	100.0 (375)	5.1	61.9	33.1	2.4	3.5	22.4	0.8	1.6
	60～69歳	100.0 (414)	2.2	56.5	29.5	2.4	5.8	28.7	-	0.7
	70歳以上	100.0 (535)	-	53.3	35.1	0.9	5.8	25.6	0.6	0.9
	不明	100.0 (90)	14.4	41.1	24.4	6.7	3.3	22.2	6.7	1.1
(再掲)65歳以上	100.0 (724)	0.4	54.1	34.9	1.5	6.2	25.6	0.4	0.7	
平成25年度	100.0 (2,568)	14.3	51.5	31.7	6.2	4.9	21.7	1.1	0.4	

(7) 現在の主な介護者－年齢階級、障害名〔複数回答〕別

※在宅で生活している(福祉ホーム、グループホームを含む)2,363人が対象

「^{かいごしや}介護者はいない」の割合が45.0%、^{おも}主な介護者は「^{はいくうしや}配偶者」の割合が26.2%

在宅で生活している人に現在の主な介護者は誰か聞いたところ、「介護者はいない」と回答した割合が45.0%、主な介護者の中では「配偶者」と回答した割合が26.2%となっている。

主な介護者を障害名別にみると、肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)では「母親」の割合が39.2%となっている。(表Ⅱ-1-3)

表Ⅱ-1-3 現在の主な介護者－年齢階級、障害名〔複数回答〕別

		総数	父親	母親	配偶者	子供	兄弟姉妹	親その他	介護者はいない	その他	無回答
総数		100.0 (2,363)	0.9	7.1	<u>26.2</u>	9.9	1.7	0.4	<u>45.0</u>	4.6	4.2
年齢階級別	29歳以下	100.0 (77)	6.5	55.8	-	-	-	-	33.8	1.3	2.6
	30～39歳	100.0 (106)	5.7	34.9	2.8	-	-	-	42.5	8.5	5.7
	40～49歳	100.0 (191)	2.6	23.6	12.0	0.5	-	-	48.7	6.8	5.8
	50～59歳	100.0 (239)	2.1	11.3	14.2	2.1	4.6	0.4	56.5	5.9	2.9
	60～69歳	100.0 (379)	-	2.9	30.3	2.6	3.2	0.3	50.4	6.9	3.4
	70～79歳	100.0 (713)	-	0.4	34.1	8.1	1.4	0.4	47.5	2.8	5.2
	80歳以上	100.0 (658)	-	0.3	30.4	24.2	1.2	0.8	35.6	4.0	3.6
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,600)	-	0.4	32.6	14.0	1.6	0.6	42.9	3.7	4.3
身体障害者手帳の障害名(複数回答)別	視覚障害	100.0 (341)	0.3	4.1	27.9	11.4	1.5	0.3	44.0	5.3	5.3
	聴覚障害	100.0 (345)	1.2	4.6	18.3	15.9	0.9	0.3	51.0	2.6	5.2
	平衡機能障害	100.0 (14)	-	14.3	50.0	14.3	-	-	21.4	-	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (233)	0.9	7.3	36.9	4.7	3.4	1.3	40.3	2.1	3.0
	肢体不自由(上肢)	100.0 (417)	1.4	12.9	31.9	7.4	2.6	0.5	30.9	8.9	3.4
	肢体不自由(下肢)	100.0 (574)	0.7	9.1	28.4	8.9	1.9	0.3	40.8	6.4	3.5
	肢体不自由(体幹)	100.0 (229)	2.2	21.4	34.5	8.3	2.2	-	19.2	9.2	3.1
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (212)	4.2	<u>39.2</u>	5.2	2.8	4.7	0.5	20.8	18.9	3.8
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (696)	-	2.4	25.6	10.5	1.4	0.6	52.9	1.9	4.7

(8) 主な介護者の年齢－年齢階級、障害名〔複数回答〕別

※介護者がいる1,200人が対象

おも かいごしや ねんれい だい だい
主な介護者の年齢は70代が28.4%、60代が19.1%

介護者がいる人に、主な介護者の年齢を聞いたところ、70代が28.4%、60代が19.1%となっている。

障害名別にみると、聴覚障害では60代の割合が23.2%、平衡機能障害では50代が54.5%となっている。(表Ⅱ-1-4)

表Ⅱ-1-4 主な介護者の年齢－年齢階級、障害名〔複数回答〕別

	総数	主な介護者の年齢											
		19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	不明	無回答	65(再掲)以上	
総数	100.0 (1,200)	0.3	0.6	1.3	7.5	16.8	<u>19.1</u>	<u>28.4</u>	15.5	4.1	6.5	53.9	
(回答者の年齢階級別)	29歳以下	100.0 (49)	-	-	-	22.4	59.2	12.2	2.0	-	-	4.1	4.1
	30～39歳	100.0 (55)	-	3.6	7.3	1.8	7.3	58.2	9.1	-	7.3	5.5	34.5
	40～49歳	100.0 (87)	-	1.1	3.4	14.9	10.3	6.9	41.4	5.7	4.6	11.5	54.0
	50～59歳	100.0 (97)	2.1	2.1	2.1	7.2	33.0	7.2	10.3	20.6	5.2	10.3	32.0
	60～69歳	100.0 (175)	-	1.1	1.7	4.6	8.6	48.6	14.3	6.9	6.3	8.0	47.4
	70～79歳	100.0 (337)	0.3	-	0.9	10.4	8.0	11.6	53.1	7.4	2.4	5.9	70.3
	80歳以上	100.0 (400)	-	-	-	3.8	21.5	13.5	21.3	31.0	4.3	4.8	57.0
	(再掲)65歳以上	100.0 (845)	0.1	0.1	0.6	6.6	14.1	17.8	33.7	17.9	3.3	5.8	62.1
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (173)	-	1.2	1.2	7.5	21.4	12.1	28.9	16.2	5.2	6.4	52.0
	聴覚障害	100.0 (151)	0.7	-	1.3	11.3	19.2	<u>23.2</u>	21.9	15.2	4.0	3.3	47.7
	平衡機能障害	100.0 (11)	-	-	9.1	-	<u>54.5</u>	9.1	18.2	9.1	-	-	36.4
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (132)	-	-	1.5	6.1	15.2	14.4	36.4	16.7	3.8	6.1	61.4
	肢体不自由(上肢)	100.0 (274)	0.4	1.1	2.6	8.0	16.8	22.3	24.8	10.9	4.0	9.1	48.9
	肢体不自由(下肢)	100.0 (320)	-	0.6	1.3	8.1	16.6	20.3	25.0	13.8	5.0	9.4	49.7
	肢体不自由(体幹)	100.0 (178)	0.6	0.6	2.2	6.7	14.6	18.5	29.8	15.2	5.6	6.2	52.8
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (160)	-	2.5	2.5	7.5	14.4	20.0	20.0	9.4	10.0	13.8	41.3
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (295)	0.3	-	0.3	6.1	16.9	20.0	30.8	19.0	2.4	4.1	60.0	

2 障害の状況

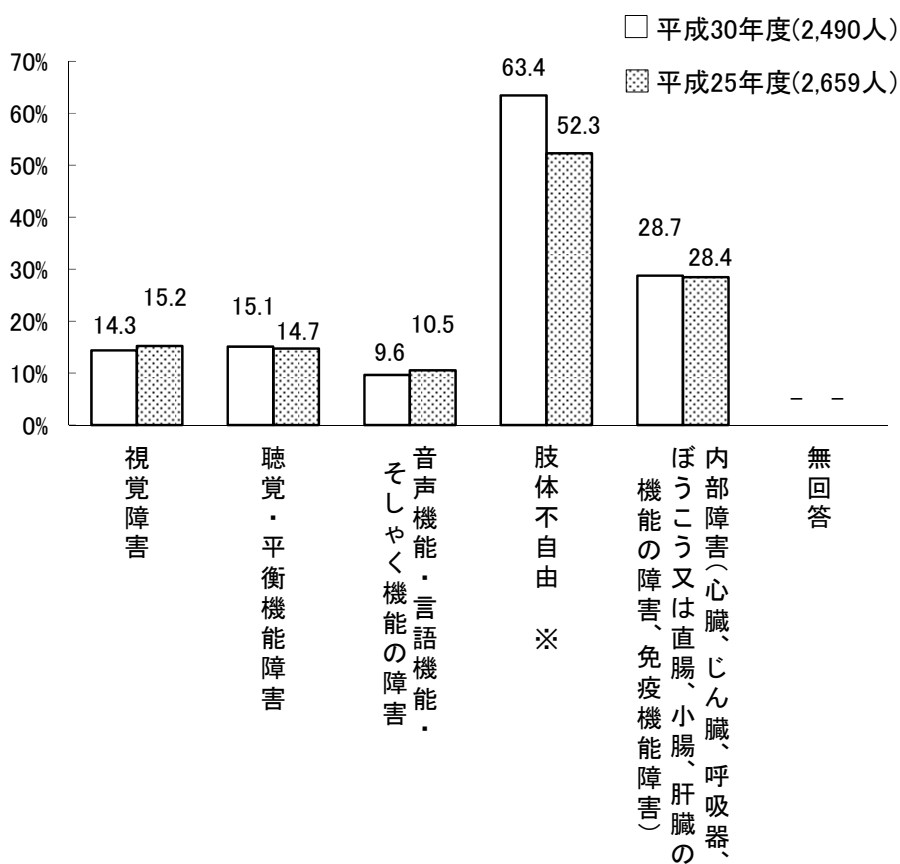
(1) 障害の種類〔複数回答〕

回答者の障害の種類は「肢体不自由」の割合が最も高く 63.4%。また、「内部障害」の割合が 28.7%。

身体障害者手帳に記載されている障害名を聞いたところ、「肢体不自由」の割合が 63.4% で最も高く、また、「内部障害」が 28.7% となっている。

平成 25 年度調査と比べて、「肢体不自由」が 11.1 ポイント増加している。（図 II-2-1）

図 II-2-1 障害の種類〔複数回答〕



注) ※は、「肢体不自由（上肢）」、「肢体不自由（下肢）」、「肢体不自由（体幹）」及び「肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）」を合わせた割合である。

(2) 身体障害者手帳の程度（障害名別）－身体障害者手帳の程度（総合等級）別

てちょう ていど こべつとうきゅう きゅう わりあい しかくしょうがい
 手帳の程度（個別等級）が1級の割合は、「視覚障害」が30.8%、「肢体不自由
 にゅうようじきいぜん ひしんこうせい のうびょうへん のうげんせいうんどうきのうしょうがい
 （乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）」が31.7%、
 「内部障害」が66.4%

身体障害者手帳の程度（個別等級）をみると、視覚障害、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）及び内部障害では「1級」の割合がそれぞれ30.8%、31.7%、66.4%となっている。（表Ⅱ-2-1）

表Ⅱ-2-1 身体障害者手帳の程度（障害名別）－身体障害者手帳の程度（総合等級）別

総合等級	障害名別	視覚障害								聴覚障害								平衡機能障害										
		総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答
総数	1000 (357)	30.8	25.5	7.8	9.5	15.7	6.4	0.8	3.4	100.0	2.5	25.9	12.0	28.4	27.3	1.9	1.9	100.0	31.3	25.0	31.3	12.5						
1級	100.0 (119)	91.6	3.4	0.8	0.8	1.7	-	0.8	0.8	100.0	36.0	24.0	16.0	4.0	12.0	8.0	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-
2級	100.0 (89)	-	96.6	1.1	-	-	-	1.1	1.1	100.0	-	90.6	1.0	1.0	3.1	2.1	2.1	100.0	40.0	-	40.0	20.0	-	-	-	-	-	-
3級	100.0 (28)	-	-	92.9	-	-	-	-	7.1	100.0	-	-	94.9	2.6	-	2.6	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4級	100.0 (40)	-	-	-	82.5	7.5	-	-	10.0	100.0	-	-	-	97.0	1.0	-	2.0	100.0	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-
5級	100.0 (51)	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
6級	100.0 (24)	-	-	-	-	-	95.8	-	4.2	100.0	-	-	-	-	98.9	-	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

総合等級	障害名別	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害						肢体不自由(上肢)								肢体不自由(下肢)												
		総数	1級	2級	3級	4級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明	無回答
総数	1000 (239)				59.0	27.6	4.2	9.2	100.0	21.2	21.8	19.4	10.5	3.9	5.9	5.5	1.1	10.7	100.0	15.0	11.9	22.2	32.7	5.2	3.8	3.4	1.1	4.6
1級	100.0 (20)				35.0	10.0	25.0	30.0	100.0	59.4	24.4	6.3	0.6	-	0.6	-	-	8.8	100.0	60.7	8.7	18.0	6.7	-	-	1.3	0.7	4.0
2級	100.0 (20)				45.0	15.0	15.0	25.0	100.0	-	51.7	25.0	4.3	-	2.6	2.6	2.6	11.2	100.0	-	50.9	6.9	28.4	-	1.7	2.6	1.7	7.8
3級	100.0 (129)				94.6	2.3	-	3.1	100.0	-	-	64.9	6.5	1.3	6.5	6.5	1.3	13.0	100.0	-	-	83.9	5.9	0.8	1.7	2.5	2.5	2.5
4級	100.0 (62)				-	93.5	1.6	4.8	100.0	-	-	-	69.8	5.7	1.9	15.1	-	7.5	100.0	-	-	-	90.2	3.0	0.6	3.7	-	2.4
5級	100.0 (2)				-	-	50.0	50.0	100.0	-	-	-	-	72.2	11.1	11.1	-	5.6	100.0	-	-	-	-	86.7	6.7	6.7	-	-
6級	-				-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	65.0	30.0	-	5.0	100.0	-	-	-	-	-	72.7	22.7	-	4.5

総合等級	障害名別	肢体不自由(体幹)						肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)								内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)												
		総数	1級	2級	3級	5級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明	無回答
総数	1000 (269)	23.4	27.1	19.7		6.7	1.5	21.6	100.0	31.7	8.8	3.3	3.3	0.4	2.9	0.8	0.4	48.3	100.0	66.4	2.4	7.8	19.7				1.0	2.7
1級	100.0 (92)	68.5	17.4	2.2		-	-	12.0	100.0	49.0	1.3	-	-	-	1.3	-	0.6	47.7	100.0	96.0	-	0.4	1.0				0.2	2.4
2級	100.0 (84)	-	67.9	10.7		-	1.2	20.2	100.0	-	50.0	-	5.3	-	-	-	-	44.7	100.0	-	66.7	4.2	20.8				4.2	4.2
3級	100.0 (61)	-	-	67.2		1.6	3.3	27.9	100.0	-	-	36.4	4.5	-	4.5	-	-	54.5	100.0	-	-	98.1	-				-	1.9
4級	100.0 (3)	-	-	-		33.3	-	66.7	100.0	-	-	41.7	-	8.3	8.3	-	41.7	100.0	-	-	-	97.7	-				2.3	-
5級	100.0 (23)	-	-	-		65.2	-	34.8	100.0	-	-	-	-	20.0	-	20.0	-	60.0	100.0	-	-	-	-				-	100.0
6級	-					-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-				-	-

注) 総合等級とは、2つ以上の障害が重複する場合に、重複する障害の合計指数に応じて認定されるものである。障害が1つのみの場合は、その障害の個別等級で回答してもらっている。

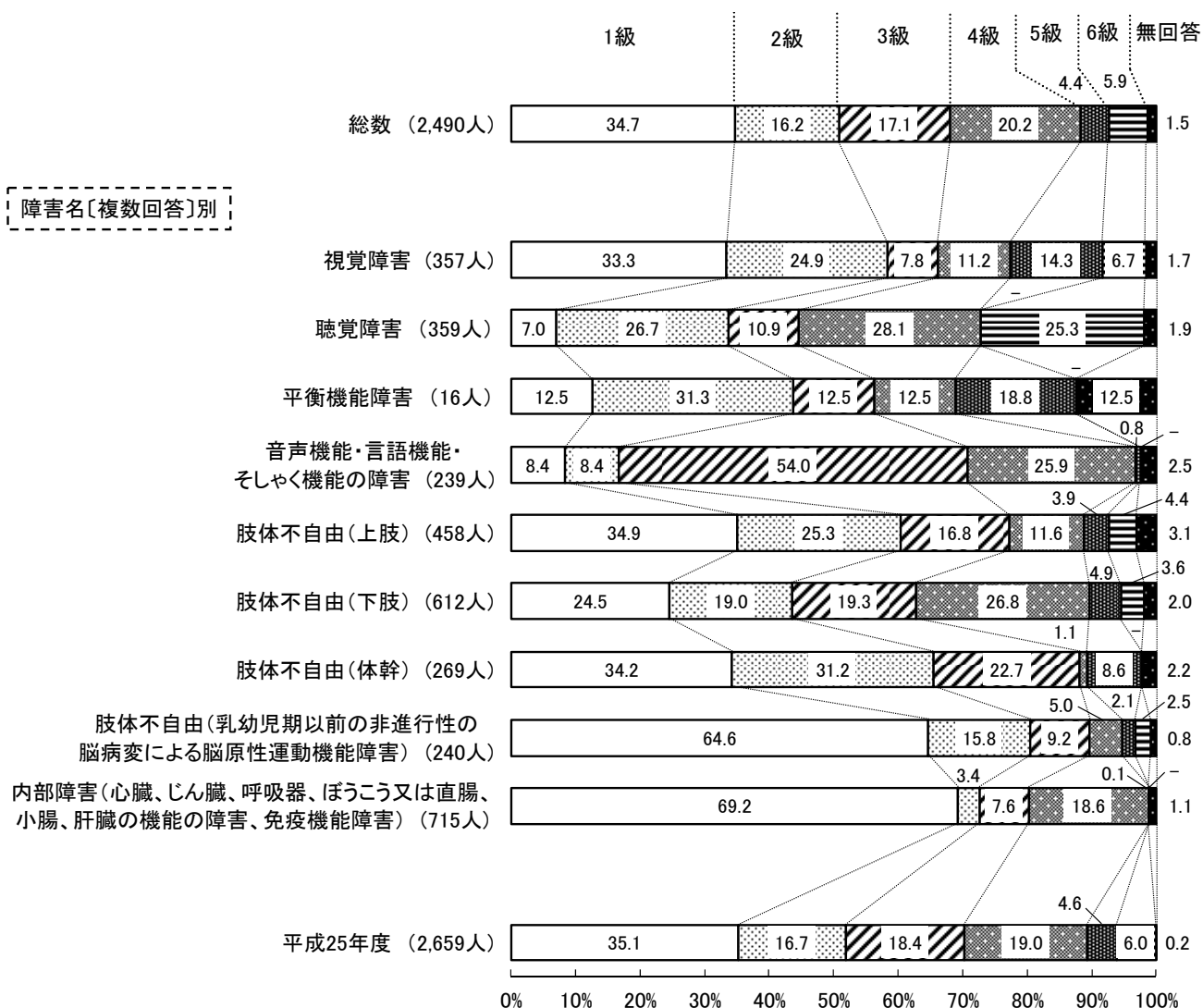
(3) 身体障害者手帳の程度（総合等級）－障害名〔複数回答〕別

手帳の程度（総合等級）が1級の割合は、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）が64.6%、内部障害が69.2%で、6割を超えている

身体障害者手帳の程度（総合等級）をみると、「1級」の割合が34.7%、「4級」が20.2%、「3級」が17.1%となっている。

障害名別にみると、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）及び内部障害では「1級」の割合が6割を超えている（64.6%、69.2%）。（図Ⅱ-2-2）

図Ⅱ-2-2 身体障害者手帳の程度（総合等級）－障害名〔複数回答〕別

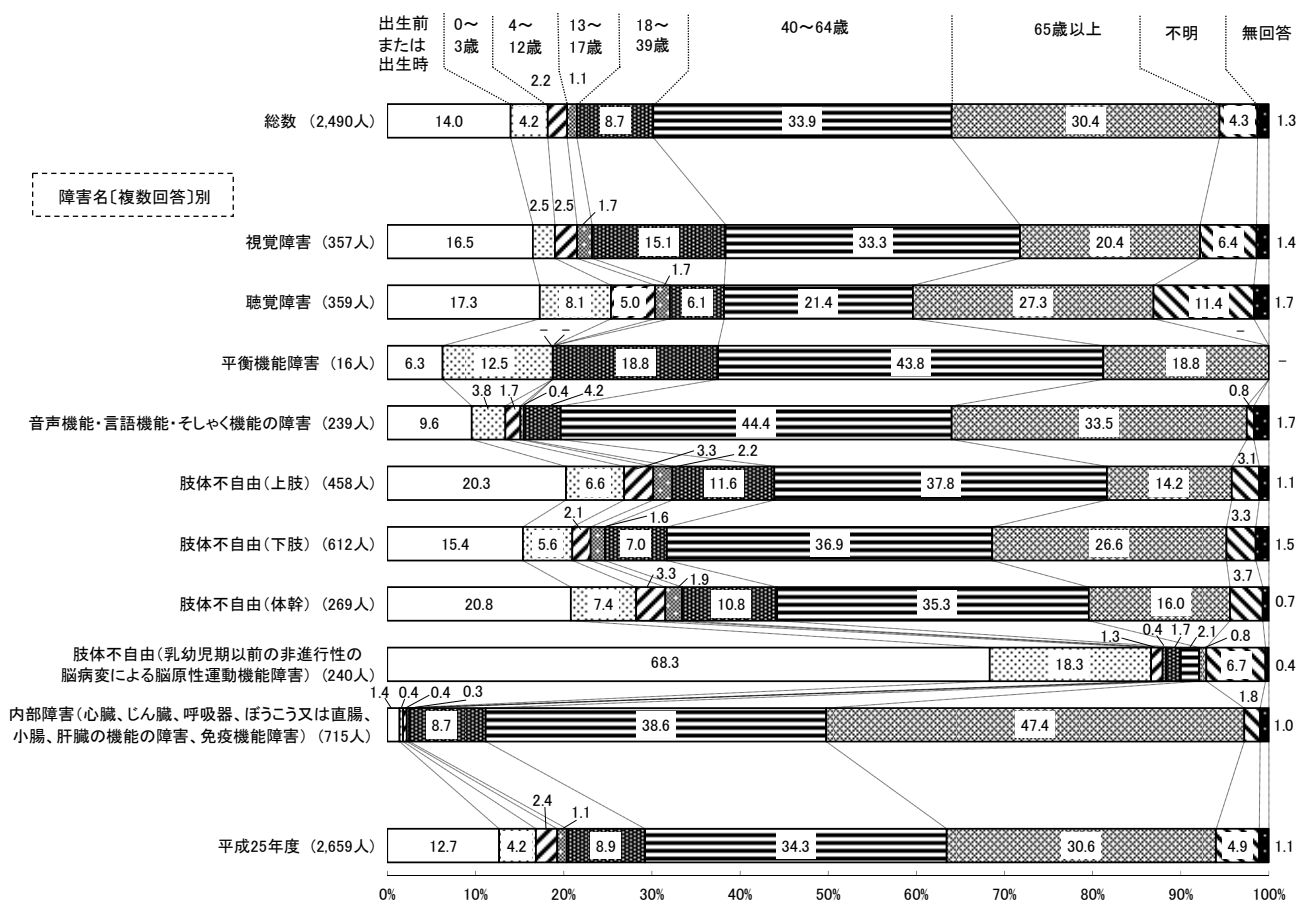


(4) 障害者になった時期－障害名〔複数回答〕別

障害者になった時期は、「40～64歳」の割合が 33.9%、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「出生前または出生時」の割合が 68.3%

障害者になった時期について聞いたところ、「40～64歳」の割合が 33.9%となっている。
 障害名別にみると、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「出生前または出生時」の割合が 68.3%となっている。内部障害では「65歳以上」の割合が 47.4%となっている。（図Ⅱ-2-3）

図Ⅱ-2-3 障害者になった時期－障害名〔複数回答〕別



(5) 障害者になった時期－年齢階級別

障害者になった時期について年齢階級別にみると、障害者になった時期が「65歳以上」と答えた割合は、現在80歳以上の人々が64.8%で最も高くなっている。

また、「出生前または出生時」と答えた割合は、現在29歳以下の人々が68.4%、30代の人々が47.7%となっている。(表Ⅱ-2-2)

表Ⅱ-2-2 障害者になった時期－年齢階級別

調査基準日 現在の年齢	障害者になった 時期	総数	障害者になった時期												
			出生前 または 出生時	0 ～ 3 歳	4 ～ 1 2 歳	1 ～ 3 歳	1 ～ 8 歳	3 ～ 9 歳	4 ～ 9 歳	5 ～ 9 歳	6 ～ 9 歳	7 ～ 9 歳以上	不明	無回答	(再掲) 65歳以上
総数		100.0 (2,490)	14.0	4.2	2.2	1.1	3.2	5.5	9.0	15.6	17.2	22.4	4.3	1.3	30.4
29歳以下		100.0 (79)	68.4	13.9	11.4	-	5.1	-	-	-	-	-	1.3	-	-
30～39歳		100.0 (109)	47.7	19.3	6.4	4.6	11.0	6.4	-	-	-	-	3.7	0.9	-
40～49歳		100.0 (209)	34.9	10.0	1.9	2.4	5.7	20.6	17.2	-	-	-	7.2	-	-
50～59歳		100.0 (252)	20.6	5.6	1.6	1.2	7.5	9.9	29.0	19.4	-	-	4.4	0.8	-
60～69歳		100.0 (394)	15.7	3.6	0.8	0.5	1.3	5.1	11.2	33.5	23.1	-	4.6	0.8	5.1
70～79歳		100.0 (736)	4.5	1.9	2.3	0.8	2.3	3.3	6.8	20.2	31.0	22.1	3.0	1.8	37.4
80歳以上		100.0 (711)	3.1	1.3	1.5	1.0	1.5	2.4	2.8	8.2	15.5	55.7	5.1	2.0	64.8
(再掲) 65歳以上		100.0 (1,683)	5.2	1.7	1.8	0.8	1.8	2.8	5.9	16.8	24.4	33.2	3.8	1.8	44.9

(6) 主な障害の原因－障害名〔複数回答〕別

主な障害の原因は、「疾患」(感染症、中毒性疾患、その他の疾患)によるものが38.1%、「出生時の損傷」によるものが8.6%、「加齢」によるものが8.1%

主な障害の原因を聞いたところ、「疾患」(「感染症」、「中毒性疾患」及び「その他の疾患」の合計。以下このページでは同様)によるものの割合が38.1%で、「出生時の損傷」によるものが8.6%、「加齢」によるものが8.1%となっている。

障害名別にみると、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では「疾患」の割合が60.7%、肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)では「出生時の損傷」が47.1%となっている。

平成25年度調査と比べて、「疾患」の割合が5.7ポイント減少している。(表Ⅱ-2-3)

表Ⅱ-2-3 主な障害の原因－障害名〔複数回答〕別

	総数	交通事故	労働災害	戦傷病・戦災等	その他の事故	感染症	中毒性疾患	その他の疾患	薬害	出生時の損傷	加齢	その他	不明	無回答
総数	100.0 (2,490)	2.3	2.4	0.2	3.7	3.0	0.0	35.1	0.7	8.6	8.1	12.0	22.5	1.3
						38.1								
視覚障害	100.0 (357)	2.0	2.8	-	3.4	1.7	-	26.6	0.3	8.4	6.7	17.1	29.4	1.7
聴覚障害	100.0 (359)	1.4	2.5	0.8	3.3	3.3	-	15.0	2.5	6.7	16.4	11.7	35.1	1.1
平衡機能障害	100.0 (16)	6.3	-	-	6.3	-	-	18.8	-	-	6.3	25.0	37.5	-
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	0.4	1.7	-	3.8	1.3	-	59.4	-	5.0	1.7	12.6	12.1	2.1
						60.7								
肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	3.3	5.2	0.4	4.4	1.7	-	42.8	0.7	14.8	0.9	9.8	14.4	1.5
肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	5.6	2.8	0.2	6.7	3.6	-	33.2	0.2	12.1	9.5	10.1	15.4	0.8
肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	5.6	2.6	-	6.7	3.0	-	36.1	1.5	13.0	2.6	10.0	18.2	0.7
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	-	-	-	1.7	3.3	-	9.2	0.8	47.1	0.8	12.5	23.8	0.8
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	-	1.0	-	0.6	4.3	0.1	47.6	0.3	0.8	8.7	11.2	24.2	1.3
平成25年度	100.0 (2,659)	2.3	1.9	0.4	2.3	2.5	0.2	41.2	1.4	8.6	7.6	8.6	21.3	1.7
						43.8								

(7) 障害の疾病名〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

しょうがい しっぺいめい しんぞうしっかん のうせい のうけっかんしょうがい
 障害の疾病名は、「心臓疾患」が15.0%、「脳性まひ」が9.9%、「脳血管障害」が9.7%、
 「じん臓疾患」が8.6%

障害の疾病名を聞いたところ、「心臓疾患」の割合が15.0%、「脳性まひ」が9.9%、「脳血管障害」が9.7%、「じん臓疾患」が8.6%となっている。

障害名別にみると、視覚障害では「網脈絡膜・視神経性疾患」の割合が50.7%、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「脳性まひ」が83.8%、内部障害では「心臓疾患」が50.2%とそれぞれ最も高くなっている。（表Ⅱ-2-4）

表Ⅱ-2-4 障害の疾病名〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

	総数	脳性まひ	脊髄性小児まひ	(脊髄損傷Ⅰ (対まひ))	(脊髄損傷Ⅱ (四肢まひ))	筋萎縮性疾患	進行性	脳血管障害	脳挫傷	脳神経疾患	その他の疾患	骨関節疾患	リウマチ性疾患	中耳性疾患	内耳性疾患
総数	100.0 (2,490)	9.9	0.7	0.7	1.0	0.2	9.7	0.8	3.9	8.2	2.0	2.9	6.5		
視覚障害	100.0 (357)	1.7	-	0.3	0.6	-	3.4	0.6	2.0	0.6	0.6	0.6	1.7		
聴覚障害	100.0 (359)	1.7	0.3	0.3	0.3	-	0.6	0.8	0.3	1.7	0.3	19.8	44.8		
平衡機能障害	100.0 (16)	31.3	-	-	6.3	-	12.5	-	12.5	18.8	-	-	6.3		
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	6.3	-	-	0.4	0.4	25.5	1.7	5.0	1.3	-	1.3	0.4		
肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	25.1	0.9	1.3	2.6	0.7	33.6	1.1	8.1	4.6	6.3	-	0.4		
肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	15.8	2.1	2.0	2.9	0.2	20.3	1.1	3.9	29.2	5.6	0.2	0.7		
肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	23.0	0.7	2.6	5.2	0.7	24.2	2.2	17.5	7.4	2.2	-	0.7		
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	83.8	1.3	0.4	1.7	-	2.1	1.3	6.7	2.5	0.4	-	-		
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	0.6	0.1	0.4	0.3	-	1.8	-	0.8	1.5	0.4	0.1	0.8		
平成25年度	100.0 (2,659)	9.3	0.6	0.8	1.2	0.5	10.5	0.4	3.2	7.6	2.0	3.2	5.0		

(次ページへ続く)

表Ⅱ-2-4 障害の疾病名〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別（続）

	角膜疾患	水晶体疾患	視網脈絡膜・神経性疾患	じん臓疾患	心臓疾患	呼吸器疾患	ぼうこう疾患	大腸疾患	小腸疾患	肝臓疾患 ※	症候群 後天性免疫不全	その他	不明	無回答
総数	1.4	1.2	7.5	8.6	15.0	4.9	1.3	3.3	0.2	0.5	0.6	9.4	10.0	1.9
視覚障害	9.5	7.8	50.7	2.8	1.4	0.8	0.3	0.6	-	0.6	-	14.6	16.2	2.0
聴覚障害	0.3	0.6	1.7	1.1	3.1	0.8	1.1	1.4	0.3	0.3	0.3	8.6	25.1	3.6
平衡機能障害	6.3	6.3	-	-	-	25.0	6.3	6.3	-	-	-	25.0	6.3	12.5
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	0.4	0.4	-	-	1.3	38.1	0.4	1.3	-	0.4	0.4	8.8	13.4	3.3
肢体不自由(上肢)	0.2	0.2	0.4	0.9	2.2	1.7	0.7	0.2	-	-	-	12.4	6.8	2.8
肢体不自由(下肢)	0.5	0.2	0.7	1.8	2.6	1.8	1.0	1.1	-	0.3	0.2	12.7	6.9	2.1
肢体不自由(体幹)	0.4	0.7	0.4	1.1	1.5	2.6	1.1	0.7	-	-	-	15.2	5.2	1.5
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	0.4	-	0.8	0.8	-	0.8	0.4	-	-	-	-	5.8	4.6	0.4
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	0.3	0.3	1.4	29.0	50.2	4.2	4.1	10.6	0.4	1.4	2.1	2.5	1.4	0.6
平成25年度	2.0	1.8	7.0	8.4	13.8	2.7	1.3	3.7	0.2	...	0.6	16.1	7.4	2.3

注) ※は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

(8) 身体障害者手帳以外の手帳所持の有無〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

身体障害者手帳以外の手帳を持っている割合は 8.6%

身体障害者手帳以外の手帳を持っているか聞いたところ、「手帳あり」の割合が 8.6%、「手帳なし」が 88.5%となっている。手帳の種類では、「愛の手帳」の割合が 6.2%となっている。

障害名別でみると、「手帳あり」の割合は、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では 40.0%、肢体不自由（体幹）が 21.6%、平衡機能障害が 18.8%となっている。（表Ⅱ-2-5）

表Ⅱ-2-5 身体障害者手帳以外の手帳所持の有無〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

	総数	手帳あり					手帳なし	無回答
		愛の手帳	保健福祉障害者手帳	精神障害者手帳	戦傷病者手帳	その他		
総数	100.0 (2,490)	8.6	6.2	1.5	-	1.1	88.5	2.9
視覚障害	100.0 (357)	7.3	3.4	2.5	-	1.7	90.5	2.2
聴覚障害	100.0 (359)	5.8	3.3	1.7	-	1.1	92.8	1.4
平衡機能障害	100.0 (16)	18.8	12.5	6.3	-	-	75.0	6.3
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	7.1	4.2	2.9	-	0.4	88.7	4.2
肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	14.4	11.8	2.0	-	0.9	81.4	4.1
肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	9.2	6.7	1.6	-	0.8	87.3	3.6
肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	21.6	19.0	2.6	-	0.7	74.7	3.7
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	40.0	37.5	2.5	-	1.3	57.5	2.5
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	2.9	1.1	0.6	-	1.3	93.8	3.2
平成25年度	100.0 (2,659)	7.1	5.6	1.1	0.0	0.5	88.9	4.0

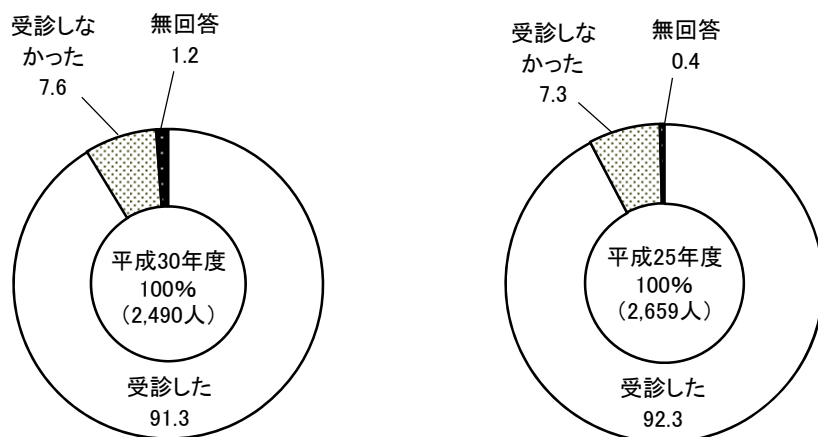
3 健康・医療

(1) 過去1年間の受診の有無

過去1年間に「受診した」割合は91.3%

過去1年間に受診（障害に起因する場合に限らず、すべての病気・ケガ等を含む。）したことがあるか聞いたところ、「受診した」の割合が91.3%となっている。（図Ⅱ-3-1）

図Ⅱ-3-1 過去1年間の受診の有無

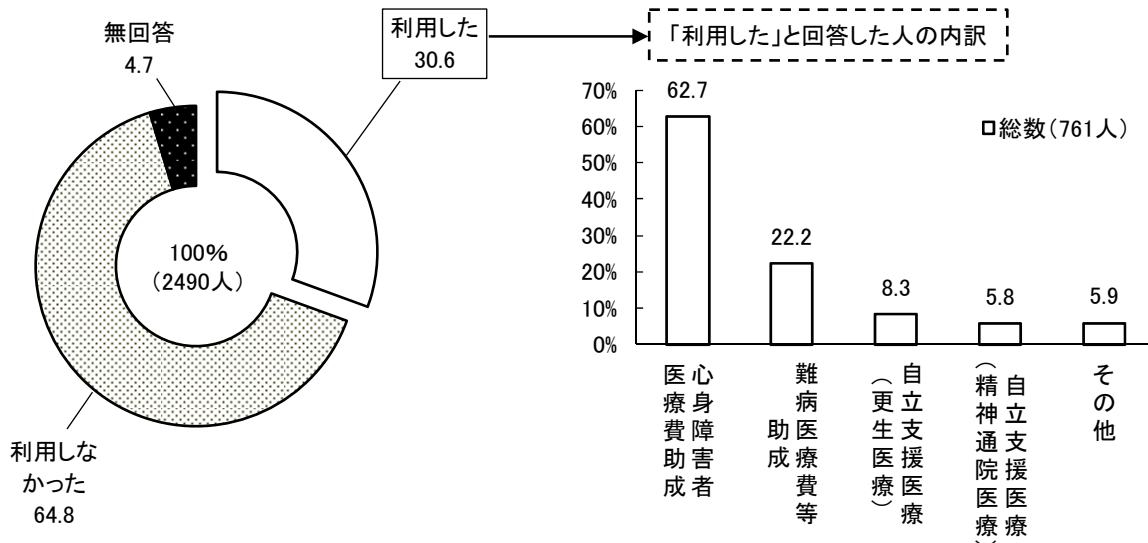


(2) 過去1年間の医療費助成等の利用の有無〔複数回答〕

過去1年間に医療費助成等を「利用した」割合は30.6%

過去1年間に医療費助成等を利用したか聞いたところ、「利用した」の割合が30.6%、「利用しなかった」が64.8%となっている。利用した内容では、「心身障害者医療費助成」が62.7%で最も高く、また、「難病医療費等助成」が22.2%となっている。（図Ⅱ-3-2）

図Ⅱ-3-2 過去1年間の医療費助成等の利用の有無〔複数回答〕



(3) 過去1年間の医療費助成等の利用の有無〔複数回答〕一年齢階級別

過去1年間の医療費助成等の利用の有無について、年齢階級別にみると、「利用した」人の割合は、40代が6割を超えており、40代以降、年齢が高くなるにつれて減少している。(表Ⅱ-3-1)

表Ⅱ-3-1 過去1年間の医療費助成等の利用の有無〔複数回答〕一年齢階級別

	総数	利用した	助成 心身 障害 者医 療費	自立 更生 医療 （ 支 援 医 療 ）	自立 精神 通院 医療 （ 支 援 医 療 ）	難病 医療 費等 助成	その他	利用し なかつ た	無回 答
総数	100.0 (2,490)	30.6	19.2	2.5	1.8	6.8	1.8	64.8	4.7
29歳以下	100.0 (79)	48.1	40.5	3.8	1.3	2.5	2.5	45.6	6.3
30～39歳	100.0 (109)	54.1	44.0	0.9	3.7	3.7	3.7	42.2	3.7
40～49歳	100.0 (209)	<u>60.8</u>	37.3	8.6	6.2	11.5	1.4	35.9	3.3
50～59歳	100.0 (252)	<u>42.5</u>	24.2	4.0	5.2	10.3	2.4	51.2	6.3
60～69歳	100.0 (394)	<u>35.0</u>	23.1	2.5	1.3	8.9	1.8	60.7	4.3
70～79歳	100.0 (736)	<u>25.3</u>	14.8	1.9	0.7	6.5	1.9	70.7	4.1
80歳以上	100.0 (711)	<u>14.9</u>	8.2	1.0	0.4	4.2	1.3	79.9	5.2
(再掲) 65歳以上	100.0 (1,683)	21.9	12.6	1.7	0.7	5.9	1.6	73.6	4.5
平成25年度	100.0 (2,659)	32.3	22.3	1.7	1.2	7.1	1.2	61.9	5.8

4 日常生活の状況

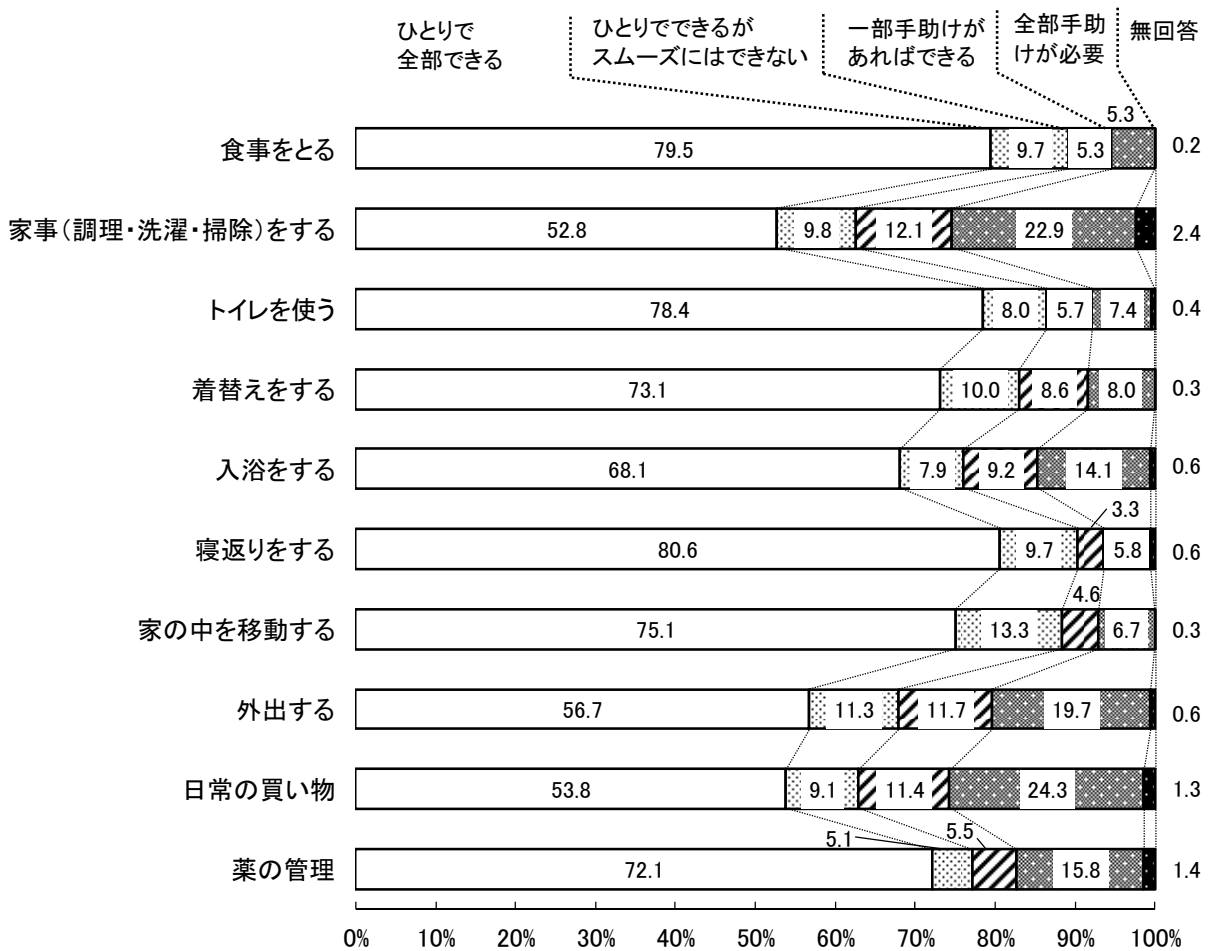
(1) 日常生活動作能力

日常生活動作能力で「全部手助けが必要」の割合は、日常の買い物が24.3%、家事（調理・洗濯・掃除）が22.9%、外出が19.7%

10項目の日常生活動作能力のうち、「ひとりで全部できる」と答えた割合は、「寝返りをする」が80.6%、「食事をとる」が79.5%、「トイレを使う」が78.4%となっている。

一方、「全部手助けが必要」と答えた割合は、「日常の買い物」が24.3%、「家事（調理・洗濯・掃除）」が22.9%、「外出する」が19.7%となっている。（図Ⅱ-4-1）

図Ⅱ-4-1 日常生活動作能力



注1) できる、できないの判断について、現に補装具等を使用している人は、使用した状態で聞いている。

2) 総数は、10項目とも2,490人である。

(2) 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う)
 - 障害者になった時期、身体障害者手帳の程度 (総合等級) 別
 日常生活動作能力の「b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする」を障害者になった時期別に
 みると、「出生前または出生時」及び「0～3歳」では、「全部手助けが必要」の割合が3
 割を超えている (36.8%、33.7%)。(表Ⅱ-4-1)

表Ⅱ-4-1 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする
 c トイレを使う) - 障害者になった時期、身体障害者手帳の程度 (総合等級) 別

	a 食事をとる						b 家事(調理・洗濯・掃除)をする						c トイレを使う						
	総 数	ひ と り で 全 部 で 可 能 な ス	ひ と り で 可 能 な ス が あ ら ば	一 部 手 助 け が あ ら ば	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	ひ と り で 全 部 で 可 能 な ス	ひ と り で 可 能 な ス が あ ら ば	一 部 手 助 け が あ ら ば	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	ひ と り で 全 部 で 可 能 な ス	ひ と り で 可 能 な ス が あ ら ば	一 部 手 助 け が あ ら ば	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	
総数	100.0 (2,490)	79.5	9.7	5.3	5.3	0.2	100.0 (2,490)	52.8	9.8	12.1	22.9	2.4	100.0 (2,490)	78.4	8.0	5.7	7.4	0.4	
障害者 になっ た時 期別	出生前または 出生時 (348)	100.0	65.5	8.3	10.3	15.8	-	100.0	40.8	8.0	12.4	36.8	2.0	100.0	64.9	5.7	9.5	19.5	0.3
	0～3歳 (104)	100.0	68.3	8.7	5.8	17.3	-	100.0	48.1	3.8	12.5	33.7	1.9	100.0	65.4	6.7	7.7	19.2	1.0
	4～12歳 (55)	100.0	85.5	5.5	3.6	5.5	-	100.0	67.3	5.5	9.1	16.4	1.8	100.0	83.6	5.5	5.5	5.5	-
	13～17歳 (28)	100.0	85.7	10.7	-	3.6	-	100.0	50.0	10.7	10.7	25.0	3.6	100.0	71.4	14.3	10.7	3.6	-
	18～29歳 (80)	100.0	87.5	3.8	6.3	2.5	-	100.0	58.8	13.8	12.5	12.5	2.5	100.0	88.8	3.8	1.3	6.3	-
	30～39歳 (136)	100.0	77.2	14.7	4.4	2.9	0.7	100.0	62.5	8.1	16.2	12.5	0.7	100.0	81.6	12.5	2.9	2.2	0.7
	40～49歳 (223)	100.0	78.5	12.1	5.4	4.0	-	100.0	52.9	16.1	13.0	16.6	1.3	100.0	76.2	11.7	4.9	6.7	0.4
	50～59歳 (388)	100.0	84.5	10.1	3.4	1.5	0.5	100.0	55.7	11.1	10.1	20.6	2.6	100.0	82.7	8.2	5.7	2.8	0.5
	60～69歳 (429)	100.0	84.8	7.9	5.1	2.1	-	100.0	58.0	10.3	10.3	19.3	2.1	100.0	81.8	7.9	4.9	5.4	-
	70歳以上 (559)	100.0	81.8	10.7	4.8	2.7	-	100.0	51.5	9.3	12.5	22.9	3.8	100.0	83.0	8.2	3.8	4.5	0.5
	不明 (107)	100.0	76.6	12.1	2.8	7.5	0.9	100.0	44.9	7.5	15.9	28.0	3.7	100.0	71.0	7.5	10.3	9.3	1.9
(再掲) 65歳以上 (756)	100.0	82.7	10.2	4.9	2.2	-	100.0	52.4	10.3	11.4	22.5	3.4	100.0	82.9	8.1	3.8	4.8	0.4	
身体障 害者 手帳 の程 度 (総 合 等 級) 別	1級 (863)	100.0	72.2	9.2	8.0	10.4	0.2	100.0	45.7	7.6	12.2	31.7	2.8	100.0	70.0	6.7	9.3	13.7	0.3
	2級 (403)	100.0	70.0	15.9	8.4	5.5	0.2	100.0	43.9	10.9	14.4	28.0	2.7	100.0	69.2	14.1	7.4	8.2	1.0
	3級 (427)	100.0	84.8	10.5	3.7	0.7	0.2	100.0	53.6	9.4	15.0	18.5	3.5	100.0	83.8	9.4	3.0	3.3	0.5
	4級 (502)	100.0	90.0	7.2	1.8	1.0	-	100.0	64.5	13.3	8.8	11.8	1.6	100.0	90.6	6.4	1.2	1.6	0.2
	5級 (110)	100.0	89.1	5.5	0.9	4.5	-	100.0	66.4	11.8	9.1	11.8	0.9	100.0	90.0	4.5	1.8	3.6	-
	6級 (148)	100.0	91.2	6.8	1.4	0.7	-	100.0	70.3	8.1	10.1	10.1	1.4	100.0	91.2	4.7	2.7	0.7	0.7

(3) 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う)

－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

日常生活動作能力の「a 食事をとる」を障害名別にみると、肢体不自由 (体幹) 及び肢体不自由 (乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害) では「ひとりで全部できる」割合が5割を下回っている (46.5%、45.0%)。

「b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする」及び「c トイレを使う」を障害名別にみると、肢体不自由 (体幹) では「ひとりで全部できる」割合がそれぞれ 16.0%、36.1%となっている。(表Ⅱ-4-2)

表Ⅱ-4-2 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う)－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

	a 食事をとる						b 家事(調理・洗濯・掃除)をする						c トイレを使う						
	総数	ひとりで全部できる	ひとりで全部できないがスムーズにはできないがスムーズにはできない	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	ひとりで全部できないがスムーズにはできないがスムーズにはできない	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	ひとりで全部できないがスムーズにはできないがスムーズにはできない	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	
総数	100.0 (2,490)	79.5	9.7	5.3	5.3	0.2	100.0 (2,490)	52.8	9.8	12.1	22.9	2.4	100.0 (2,490)	78.4	8.0	5.7	7.4	0.4	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (357)	77.3	13.4	5.9	3.4	-	100.0 (357)	46.8	12.9	16.8	20.4	3.1	100.0 (357)	82.9	9.0	4.2	3.4	0.6
	聴覚障害	100.0 (359)	91.4	5.0	2.5	1.1	-	100.0 (359)	69.6	6.1	8.4	13.4	2.5	100.0 (359)	90.3	4.5	3.9	1.1	0.3
	平衡機能障害	100.0 (16)	68.8	12.5	6.3	12.5	-	100.0 (16)	43.8	-	12.5	43.8	-	100.0 (16)	68.8	6.3	12.5	12.5	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	80.3	10.0	6.3	3.3	-	100.0 (239)	57.3	7.9	13.4	18.4	2.9	100.0 (239)	85.8	6.7	2.5	4.2	0.8
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	57.0	19.4	11.1	12.2	0.2	100.0 (458)	26.2	10.0	17.9	43.4	2.4	100.0 (458)	54.4	16.8	9.8	18.6	0.4
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	69.9	14.7	8.0	7.2	0.2	100.0 (612)	38.1	13.1	15.5	31.5	1.8	100.0 (612)	65.7	14.2	7.2	12.3	0.7
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	46.5	17.1	14.9	21.6	-	100.0 (269)	16.0	8.6	12.6	60.2	2.6	100.0 (269)	36.1	16.7	18.2	29.0	-
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	45.0	14.6	15.4	25.0	-	100.0 (240)	20.4	7.5	14.6	55.8	1.7	100.0 (240)	42.9	9.2	15.8	32.1	-
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	91.3	4.6	2.2	1.5	0.3	100.0 (715)	67.7	9.1	9.0	11.7	2.5	100.0 (715)	90.6	3.8	2.9	2.2	0.4	
現在一緒に生活している人〔複数回答〕別	親	100.0 (322)	66.8	9.6	7.8	15.8	-	100.0 (322)	42.9	7.8	11.2	36.0	2.2	100.0 (322)	65.8	6.2	10.6	17.4	-
	配偶者	100.0 (1,129)	84.8	8.7	4.4	2.0	0.1	100.0 (1,129)	57.6	8.6	12.0	18.5	3.3	100.0 (1,129)	84.9	7.4	4.3	3.3	0.2
	子供	100.0 (653)	85.3	8.7	4.4	1.4	0.2	100.0 (653)	55.6	9.3	12.3	20.2	2.6	100.0 (653)	83.2	8.1	4.6	3.5	0.6
	兄弟姉妹	100.0 (125)	66.4	10.4	8.8	14.4	-	100.0 (125)	44.8	9.6	10.4	32.8	2.4	100.0 (125)	68.0	5.6	8.0	17.6	0.8
	その他の親族	100.0 (103)	83.5	12.6	2.9	1.0	-	100.0 (103)	53.4	9.7	14.6	19.4	2.9	100.0 (103)	84.5	7.8	3.9	2.9	1.0
	一人で暮らしている	100.0 (599)	83.3	10.2	2.5	3.8	0.2	100.0 (599)	60.9	15.0	11.7	11.5	0.8	100.0 (599)	83.3	9.3	2.5	4.2	0.7
	その他	100.0 (35)	62.9	11.4	8.6	14.3	2.9	100.0 (35)	34.3	2.9	8.6	51.4	2.9	100.0 (35)	54.3	8.6	11.4	22.9	2.9

注) 「現在一緒に生活している人」は在宅者を対象とした設問のため、総数は2,363人である。

(4) 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

－ 障害者になった時期、身体障害者手帳の程度 (総合等級) 別
 日常生活動作能力の「d 着替えをする」及び「e 入浴をする」を障害者になった時期別に
 みると、「出生前または出生時」では「全部手助けが必要」の割合がそれぞれ 20.4%、26.7%
 となっている。(表Ⅱ-4-3)

表Ⅱ-4-3 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

－ 障害者になった時期、身体障害者手帳の程度 (総合等級) 別

	d 着替えをする						e 入浴をする						f 寝返りをする						
	総 数	ひ と り で 全 部 で 可 能 な ス	ひ と り で 可 能 な ス	一 部 手 助 け が あ れ ば 可 能 な ス	全 部 手 助 け が 必 要 な ス	無 回 答	総 数	ひ と り で 全 部 で 可 能 な ス	ひ と り で 可 能 な ス	一 部 手 助 け が あ れ ば 可 能 な ス	全 部 手 助 け が 必 要 な ス	無 回 答	総 数	ひ と り で 全 部 で 可 能 な ス	ひ と り で 可 能 な ス	一 部 手 助 け が あ れ ば 可 能 な ス	全 部 手 助 け が 必 要 な ス	無 回 答	
総数	100.0 (2,490)	73.1	10.0	8.6	8.0	0.3	100.0 (2,490)	68.1	7.9	9.2	14.1	0.6	100.0 (2,490)	80.6	9.7	3.3	5.8	0.6	
障害者になった時期別	出生前または出生時	100.0 (348)	59.8	8.6	11.2	20.4	-	100.0 (348)	56.0	6.9	10.1	26.7	0.3	100.0 (348)	73.3	7.8	4.9	13.2	0.9
	0～3歳	100.0 (104)	62.5	8.7	8.7	19.2	1.0	100.0 (104)	55.8	5.8	15.4	23.1	-	100.0 (104)	69.2	12.5	2.9	13.5	1.9
	4～12歳	100.0 (55)	81.8	5.5	7.3	5.5	-	100.0 (55)	80.0	5.5	1.8	12.7	-	100.0 (55)	89.1	7.3	-	3.6	-
	13～17歳	100.0 (28)	67.9	21.4	7.1	3.6	-	100.0 (28)	60.7	14.3	17.9	7.1	-	100.0 (28)	78.6	14.3	-	7.1	-
	18～29歳	100.0 (80)	85.0	5.0	5.0	5.0	-	100.0 (80)	80.0	3.8	6.3	8.8	1.3	100.0 (80)	87.5	8.8	-	3.8	-
	30～39歳	100.0 (136)	77.9	11.0	8.1	2.2	0.7	100.0 (136)	76.5	8.8	8.1	5.1	1.5	100.0 (136)	82.4	13.2	2.9	1.5	-
	40～49歳	100.0 (223)	71.7	13.5	7.6	7.2	-	100.0 (223)	70.0	13.0	4.5	11.7	0.9	100.0 (223)	77.1	12.1	4.0	6.7	-
	50～59歳	100.0 (388)	73.5	12.9	9.3	3.9	0.5	100.0 (388)	70.4	9.0	8.5	11.1	1.0	100.0 (388)	82.0	10.6	3.1	3.4	1.0
	60～69歳	100.0 (429)	76.7	9.3	8.6	5.4	-	100.0 (429)	72.5	6.8	9.1	11.4	0.2	100.0 (429)	83.7	7.7	4.0	4.0	0.7
	70歳以上	100.0 (559)	77.6	9.5	7.7	5.0	0.2	100.0 (559)	68.9	8.2	10.2	12.3	0.4	100.0 (559)	83.9	9.7	2.7	3.4	0.4
	不明	100.0 (107)	68.2	7.5	8.4	14.0	1.9	100.0 (107)	60.7	5.6	10.3	21.5	1.9	100.0 (107)	75.7	11.2	2.8	8.4	1.9
	(再掲) 65歳以上	100.0 (756)	77.1	9.3	8.3	5.2	0.1	100.0 (756)	69.2	8.3	10.2	11.9	0.4	100.0 (756)	83.6	9.0	3.6	3.2	0.7
身体障害者手帳の程度 (総合等級)別	1級	100.0 (863)	65.5	8.1	11.8	14.4	0.2	100.0 (863)	61.0	5.3	10.7	22.8	0.2	100.0 (863)	73.8	10.2	4.3	10.8	0.9
	2級	100.0 (403)	61.0	16.4	13.6	8.4	0.5	100.0 (403)	57.6	11.2	13.9	16.4	1.0	100.0 (403)	72.7	15.4	5.2	6.0	0.7
	3級	100.0 (427)	77.3	12.4	6.8	3.0	0.5	100.0 (427)	69.3	11.5	10.3	7.5	1.4	100.0 (427)	84.3	9.4	2.6	2.8	0.9
	4級	100.0 (502)	86.3	7.8	3.8	2.0	0.2	100.0 (502)	81.7	7.8	5.0	5.2	0.4	100.0 (502)	91.2	6.6	1.2	1.0	-
	5級	100.0 (110)	85.5	7.3	2.7	4.5	-	100.0 (110)	80.0	6.4	5.5	7.3	0.9	100.0 (110)	89.1	5.5	1.8	3.6	-
	6級	100.0 (148)	88.5	6.1	2.0	3.4	-	100.0 (148)	85.1	6.1	2.7	6.1	-	100.0 (148)	93.2	5.4	0.7	0.7	-

(5) 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

日常生活動作能力の「d 着替えをする」を障害名別にみると、「肢体不自由 (体幹)」及び「肢体不自由 (乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)」では、「全部手助けが必要」の割合が3割を超えている (30.1%、34.2%)。

「e 入浴をする」を障害名別にみると、肢体不自由 (体幹) と肢体不自由 (乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害) では、「全部手助けが必要」の割合が4割を超えている (43.5%、44.2%)。 (表Ⅱ-4-4)

表Ⅱ-4-4 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

	d 着替えをする						e 入浴をする						f 寝返りをする										
	総数	ひとりで全部できる	ムズいではできないがス	ひとりでできる	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	ムズいではできないがス	ひとりでできる	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	ムズいではできないがス	ひとりでできる	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答		
総数	100.0 (2,490)	73.1	10.0	8.6	8.0	0.3	100.0 (2,490)	68.1	7.9	9.2	14.1	0.6	100.0 (2,490)	80.6	9.7	3.3	5.8	0.6					
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (357)	77.9	11.8	5.9	4.2	0.3	100.0 (357)	75.4	8.4	8.4	7.6	0.3	100.0 (357)	89.4	6.7	1.1	2.5	0.3				
	聴覚障害	100.0 (359)	88.3	4.7	4.2	2.8	-	100.0 (359)	82.2	3.6	5.8	8.1	0.3	100.0 (359)	93.6	4.7	0.8	0.8	-				
	平衡機能障害	100.0 (16)	62.5	6.3	12.5	18.8	-	100.0 (16)	62.5	-	12.5	25.0	-	100.0 (16)	75.0	12.5	-	12.5	-				
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	76.2	15.1	3.8	5.0	-	100.0 (239)	72.4	9.2	7.9	9.6	0.8	100.0 (239)	85.8	8.8	1.7	3.8	-				
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	41.9	19.9	17.9	19.7	0.7	100.0 (458)	37.6	13.5	16.4	31.0	1.5	100.0 (458)	55.0	21.8	7.9	14.0	1.3				
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	57.0	16.7	13.2	12.7	0.3	100.0 (612)	51.0	13.1	12.4	22.7	0.8	100.0 (612)	66.3	17.6	5.6	9.5	1.0				
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	30.9	16.4	22.7	30.1	-	100.0 (269)	22.7	10.4	21.9	43.5	1.5	100.0 (269)	43.5	21.9	11.5	21.9	1.1				
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	34.6	14.2	16.7	34.2	0.4	100.0 (240)	29.2	10.4	16.3	44.2	-	100.0 (240)	52.5	15.4	7.9	23.3	0.8				
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	88.0	4.5	4.9	2.2	0.4	100.0 (715)	83.5	4.2	5.6	6.3	0.4	100.0 (715)	91.2	5.5	0.8	2.0	0.6					
現在一緒に生活している人〔複数回答〕別	親	100.0 (322)	60.2	9.3	12.4	18.0	-	100.0 (322)	56.5	8.4	10.9	24.2	-	100.0 (322)	75.8	8.4	3.7	11.5	0.6				
	配偶者	100.0 (1,129)	77.9	9.2	8.9	3.9	0.1	100.0 (1,129)	76.2	6.4	7.8	8.9	0.7	100.0 (1,129)	85.7	8.2	2.3	3.5	0.4				
	子供	100.0 (653)	77.2	10.1	8.4	4.1	0.2	100.0 (653)	73.4	6.3	8.9	10.6	0.9	100.0 (653)	84.2	9.2	3.1	2.9	0.6				
	兄弟姉妹	100.0 (125)	62.4	11.2	10.4	16.0	-	100.0 (125)	61.6	4.8	11.2	22.4	-	100.0 (125)	74.4	13.6	1.6	10.4	-				
	その他の親族	100.0 (103)	77.7	14.6	4.9	2.9	-	100.0 (103)	68.0	6.8	15.5	9.7	-	100.0 (103)	88.3	7.8	2.9	1.0	-				
	一人で暮らしている	100.0 (599)	80.0	11.0	3.5	4.7	0.8	100.0 (599)	72.6	10.9	6.3	9.7	0.5	100.0 (599)	82.8	9.7	3.0	3.5	1.0				
	その他	100.0 (35)	51.4	8.6	14.3	22.9	2.9	100.0 (35)	40.0	-	20.0	37.1	2.9	100.0 (35)	65.7	14.3	5.7	11.4	2.9				

注) 「現在一緒に生活している人」は在宅者を対象とした設問のため、総数は2,363人である。

(6) 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出する i 日常の買い物 j 薬の管理)

－ 障害者になった時期、身体障害者手帳の程度 (総合等級) 別

日常生活動作能力の「i 日常の買い物」を障害者になった時期別にみると、「出生前または出生時」及び「0～3歳」では「全部手助けが必要」の割合が3割を超えている(34.5%、32.7%)。

「i 日常の買い物」を身体障害者手帳の程度別にみると、1級では「全部手助けが必要」の割合が33.0%となっている。(表Ⅱ-4-5)

表Ⅱ-4-5 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出する i 日常の買い物 j 薬の管理)

－ 障害者になった時期、身体障害者手帳の程度 (総合等級) 別

	g 家の中を移動する							h 外出する						i 日常の買い物						j 薬の管理							
	総数	ひとりですべてできる	ひとりでできるがムズい	ひとりでできるがムズい	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりですべてできる	ひとりでできるがムズい	ひとりでできるがムズい	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりですべてできる	ひとりでできるがムズい	ひとりでできるがムズい	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりですべてできる	ひとりでできるがムズい	ひとりでできるがムズい	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要
総数	1000 (2,490)	75.1	13.3	4.6	6.7	0.3	1000 (2,490)	56.7	11.3	11.7	19.7	0.6	1000 (2,490)	53.8	9.1	11.4	24.3	1.3	1000 (2,490)	72.1	5.1	5.5	15.8	1.4			
障害者になった時期別	出生前または出生時	1000 (348)	65.2	13.5	6.6	14.7	-	1000 (348)	48.3	7.2	13.2	30.7	0.6	1000 (348)	45.1	5.5	14.1	34.5	0.9	1000 (348)	58.0	3.7	7.5	27.6	3.2		
	0～3歳	1000 (104)	66.3	12.5	7.7	13.5	-	1000 (104)	50.0	7.7	13.5	28.8	-	1000 (104)	47.1	3.8	16.3	32.7	-	1000 (104)	60.6	2.9	4.8	29.8	1.9		
	4～12歳	1000 (55)	80.0	12.7	1.8	5.5	-	1000 (55)	67.3	9.1	5.5	18.2	-	1000 (55)	65.5	10.9	5.5	18.2	-	1000 (55)	76.4	9.1	3.6	10.9	-		
	13～17歳	1000 (28)	71.4	17.9	7.1	3.6	-	1000 (28)	50.0	25.0	10.7	14.3	-	1000 (28)	50.0	25.0	10.7	14.3	-	1000 (28)	75.0	10.7	7.1	7.1	-		
	18～29歳	1000 (80)	80.0	12.5	5.0	2.5	-	1000 (80)	67.5	12.5	10.0	10.0	-	1000 (80)	63.8	11.3	12.5	12.5	-	1000 (80)	81.3	3.8	6.3	7.5	1.3		
	30～39歳	1000 (136)	80.1	14.7	2.2	2.9	-	1000 (136)	60.3	14.7	12.5	11.0	1.5	1000 (136)	58.1	9.6	15.4	15.4	1.5	1000 (136)	83.1	5.1	4.4	6.6	0.7		
	40～49歳	1000 (223)	75.8	13.9	3.1	7.2	-	1000 (223)	54.7	15.2	12.6	17.5	-	1000 (223)	51.6	14.3	13.5	19.7	0.9	1000 (223)	75.3	7.6	4.5	10.3	2.2		
	50～59歳	1000 (388)	77.6	13.7	4.4	3.9	0.5	1000 (388)	59.5	12.9	11.6	14.9	1.0	1000 (388)	57.0	9.5	9.5	21.6	2.3	1000 (388)	79.4	2.8	4.6	11.6	1.5		
	60～69歳	1000 (429)	78.8	11.0	4.7	5.1	0.5	1000 (429)	59.7	10.5	10.5	19.1	0.2	1000 (429)	59.4	7.9	7.2	24.2	1.2	1000 (429)	79.7	3.3	4.0	12.8	0.2		
	70歳以上	1000 (559)	77.5	14.3	3.6	4.3	0.4	1000 (559)	57.2	11.1	11.6	19.3	0.7	1000 (559)	52.6	9.7	11.4	24.9	1.4	1000 (559)	68.7	8.8	5.5	16.1	0.9		
	不明	1000 (107)	64.5	12.1	9.3	12.1	1.9	1000 (107)	51.4	11.2	11.2	24.3	1.9	1000 (107)	44.9	8.4	15.0	29.0	2.8	1000 (107)	61.7	1.9	9.3	24.3	2.8		
(再掲) 65歳以上	1000 (756)	77.5	14.0	3.6	4.6	0.3	1000 (756)	57.4	11.1	11.4	19.4	0.7	1000 (756)	53.8	9.7	10.3	24.9	1.3	1000 (756)	71.6	7.1	5.0	15.5	0.8			
身体障害者手帳の程度 (総合等級) 別	1級	1000 (863)	69.1	11.8	6.7	11.9	0.5	1000 (863)	49.2	7.9	13.3	28.9	0.7	1000 (863)	46.1	6.5	12.9	33.0	1.5	1000 (863)	64.4	4.4	5.7	24.2	1.3		
	2級	1000 (403)	65.8	19.1	7.7	6.7	0.7	1000 (403)	41.9	17.4	16.4	23.1	1.2	1000 (403)	40.2	11.4	16.4	29.8	2.2	1000 (403)	65.3	6.9	7.7	17.9	2.2		
	3級	1000 (427)	75.2	18.5	3.3	2.8	0.2	1000 (427)	60.2	11.5	13.1	14.5	0.7	1000 (427)	56.2	9.1	12.2	20.6	1.9	1000 (427)	78.0	5.2	5.2	10.1	1.6		
	4級	1000 (502)	88.4	8.4	1.6	1.6	-	1000 (502)	71.7	12.2	7.2	9.0	-	1000 (502)	69.5	10.4	6.8	12.9	0.4	1000 (502)	81.5	5.6	4.6	7.2	1.2		
	5級	1000 (110)	86.4	8.2	1.8	3.6	-	1000 (110)	63.6	16.4	8.2	11.8	-	1000 (110)	63.6	14.5	8.2	12.7	0.9	1000 (110)	81.8	3.6	2.7	10.9	0.9		
	6級	1000 (148)	85.1	12.2	0.7	2.0	-	1000 (148)	79.7	7.4	2.7	9.5	0.7	1000 (148)	73.6	8.8	5.4	12.2	-	1000 (148)	85.1	4.1	3.4	6.8	0.7		

(7) 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出する i 日常の買い物 j 薬の管理)

－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

日常生活動作能力の「h 外出する」及び「j 薬の管理」を障害名別にみると、「肢体不自由 (体幹)」及び「肢体不自由 (乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)」では、「全部手助けが必要」の割合が4割を超えている (h 外出する : 53.9%、45.0%。j 薬の管理 : 43.5%、42.9%)。

「i 日常の買い物」を障害名別にみると、「肢体不自由 (体幹)」及び「肢体不自由 (乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)」では「全部手助けが必要」の割合が5割を超えている (61.3%、51.3%)。 (表Ⅱ-4-6)

表Ⅱ-4-6 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出する i 日常の買い物 j 薬の管理)

－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

	g 家の中を移動する						h 外出する						i 日常の買い物						j 薬の管理										
	総数	ひとりで全部できる	ひとりでできるがムズい	ひとりでできるがムズい	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	ひとりでできるがムズい	ひとりでできるがムズい	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	ひとりでできるがムズい	ひとりでできるがムズい	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	ひとりでできるがムズい	ひとりでできるがムズい	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	
総数	100.0 (2,490)	75.1	13.3	4.6	6.7	0.3	100.0	56.7	11.3	11.7	19.7	0.6	100.0	53.8	9.1	11.4	24.3	1.3	100.0	72.1	5.1	5.5	15.8	1.4					
視覚障害	100.0 (357)	80.7	11.8	4.2	3.1	0.3	100.0	40.6	17.4	21.0	20.4	0.6	100.0	36.1	14.0	18.8	28.6	2.5	100.0	64.7	8.4	7.3	18.2	1.4					
聴覚障害	100.0 (359)	86.6	8.6	2.8	1.9	-	100.0	74.7	6.4	7.0	12.0	-	100.0	72.1	7.0	7.0	13.9	-	100.0	81.6	3.6	4.2	8.6	1.9					
平衡機能障害	100.0 (16)	62.5	12.5	18.8	6.3	-	100.0	37.5	12.5	18.8	31.3	-	100.0	37.5	12.5	12.5	37.5	-	100.0	56.3	-	6.3	37.5	-					
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	82.4	10.5	2.1	5.0	-	100.0	66.1	11.3	8.4	14.2	-	100.0	61.9	9.6	10.0	17.6	0.8	100.0	73.2	4.6	7.1	14.2	0.8					
肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	49.6	24.2	9.4	16.2	0.7	100.0	32.1	15.3	15.7	36.5	0.4	100.0	27.9	12.0	15.7	43.4	0.9	100.0	53.5	6.8	8.7	29.3	1.7					
肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	57.8	23.7	7.4	10.6	0.5	100.0	42.0	16.7	13.6	27.1	0.7	100.0	39.9	12.9	12.7	33.0	1.5	100.0	65.5	7.0	6.5	19.9	1.0					
肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	36.1	22.7	15.2	26.0	-	100.0	17.8	9.7	17.5	53.9	1.1	100.0	14.9	8.2	13.0	61.3	2.6	100.0	42.0	3.7	8.6	43.5	2.2					
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	44.2	19.6	11.3	25.0	-	100.0	28.8	7.5	18.8	45.0	-	100.0	25.8	5.8	16.7	51.3	0.4	100.0	38.3	4.6	10.4	42.9	3.8					
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	89.1	6.2	2.2	2.1	0.4	100.0	74.0	8.3	7.3	9.7	0.8	100.0	71.9	6.6	7.4	12.9	1.3	100.0	84.8	3.6	3.2	8.1	0.3					
現在一緒に生活している人																													
親	100.0 (322)	67.1	15.2	5.9	11.8	-	100.0	49.4	8.7	13.4	28.3	0.3	100.0	46.9	8.1	12.1	32.0	0.9	100.0	58.7	4.0	7.1	27.3	2.8					
配偶者	100.0 (1,129)	81.2	11.3	3.5	3.7	0.3	100.0	62.9	11.0	11.7	14.0	0.4	100.0	59.6	8.7	11.7	18.6	1.4	100.0	78.9	4.3	5.1	11.1	0.6					
子供	100.0 (653)	78.4	13.9	3.7	3.7	0.3	100.0	59.3	11.0	11.8	17.5	0.5	100.0	56.4	8.6	11.3	22.7	1.1	100.0	77.0	4.0	5.2	12.4	1.4					
兄弟姉妹	100.0 (125)	66.4	18.4	3.2	12.0	-	100.0	47.2	8.8	15.2	28.0	0.8	100.0	44.8	9.6	12.0	32.0	1.6	100.0	64.0	1.6	7.2	24.8	2.4					
その他の親族	100.0 (103)	78.6	15.5	2.9	2.9	-	100.0	51.5	8.7	18.4	21.4	-	100.0	51.5	6.8	11.7	29.1	1.0	100.0	72.8	2.9	8.7	13.6	1.9					
一人で暮らしている	100.0 (599)	79.3	14.5	2.5	3.3	0.3	100.0	62.6	15.0	9.3	12.4	0.7	100.0	60.4	11.9	10.9	16.0	0.8	100.0	81.5	7.7	3.5	6.0	1.3					
その他	100.0 (35)	54.3	14.3	5.7	22.9	2.9	100.0	31.4	5.7	17.1	42.9	2.9	100.0	28.6	5.7	14.3	48.6	2.9	100.0	37.1	8.6	-	51.4	2.9					

注)「現在一緒に生活している人」は在宅者を対象とした設問のため、総数は2,363人である。

5 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

「^{しごと}仕事をしている」人は^{ひと}65歳未満では^{さいみまん}44.7%

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「仕事をしている」の割合が23.2%、「仕事をしていない」が73.5%、「福祉的就労をしている」が2.8%となっている。

障害名別にみると、「仕事をしている」の割合は、聴覚障害では25.6%、「福祉的就労をしている」の割合は、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では16.7%となっている。

年齢階級別にみると、「仕事をしている」の割合は、65歳未満では44.7%となっている。

(図Ⅱ-5-1)

図Ⅱ-5-1 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別



(2) 仕事の種類〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した 578 人が対象

せいぎ しょくいん じゅうぎょういん わりあい
正規の職員・従業員の割合が 33.7%

仕事の種類を聞いたところ、「正規の職員・従業員」の割合が 33.7%、「非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））」が 33.0%、「自営業」が 17.5%となっている。

障害名別にみると、「正規の職員・従業員」の割合は、聴覚障害及び肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では 4 割を超えている（44.6%、44.4%）。

年齢別にみると、「正規の職員・従業員」の割合は、29 歳以下及び 30 代では 6 割を超えている（62.5%、65.5%）。（表Ⅱ-5-1）

表Ⅱ-5-1 仕事の種類〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	正規の職員・従業員	会社等の役員	派遣職員等（パート・アルバイト・日雇等（契約職員を含む））	自営業	家業の手伝い	内職	その他	無回答	
総数	100.0 (578)	33.7	9.9	33.0	17.5	1.9	1.2	1.9	2.4	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (83)	36.1	10.8	30.1	19.3	-	-	6.0	-
	聴覚障害	100.0 (92)	44.6	4.3	35.9	12.0	1.1	-	-	3.3
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (47)	34.0	10.6	29.8	17.0	4.3	-	-	6.4
	肢体不自由(上肢)	100.0 (84)	36.9	10.7	35.7	10.7	-	2.4	1.2	2.4
	肢体不自由(下肢)	100.0 (121)	27.3	5.8	40.5	14.0	4.1	4.1	2.5	2.5
	肢体不自由(体幹)	100.0 (37)	37.8	21.6	29.7	8.1	-	-	-	2.7
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (45)	44.4	6.7	37.8	2.2	-	-	4.4	4.4
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (179)	31.8	11.7	27.9	25.1	2.2	1.1	1.7	1.7
年齢階級別	29歳以下	100.0 (32)	62.5	3.1	28.1	-	-	3.1	-	3.1
	30～39歳	100.0 (55)	65.5	1.8	29.1	1.8	-	-	-	1.8
	40～49歳	100.0 (99)	48.5	4.0	31.3	7.1	-	1.0	3.0	5.1
	50～59歳	100.0 (115)	49.6	7.0	33.0	6.1	-	0.9	0.9	2.6
	60歳以上	100.0 (277)	12.3	15.5	35.0	31.0	4.0	1.4	2.5	1.4
	(再掲)65歳以上	100.0 (217)	8.8	17.1	33.2	34.6	3.2	1.8	2.8	1.8
	平成25年度	100.0 (588)	32.7	9.2	30.1	22.4	3.1	1.7	1.9	0.5

注) 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数であるため、省略した。

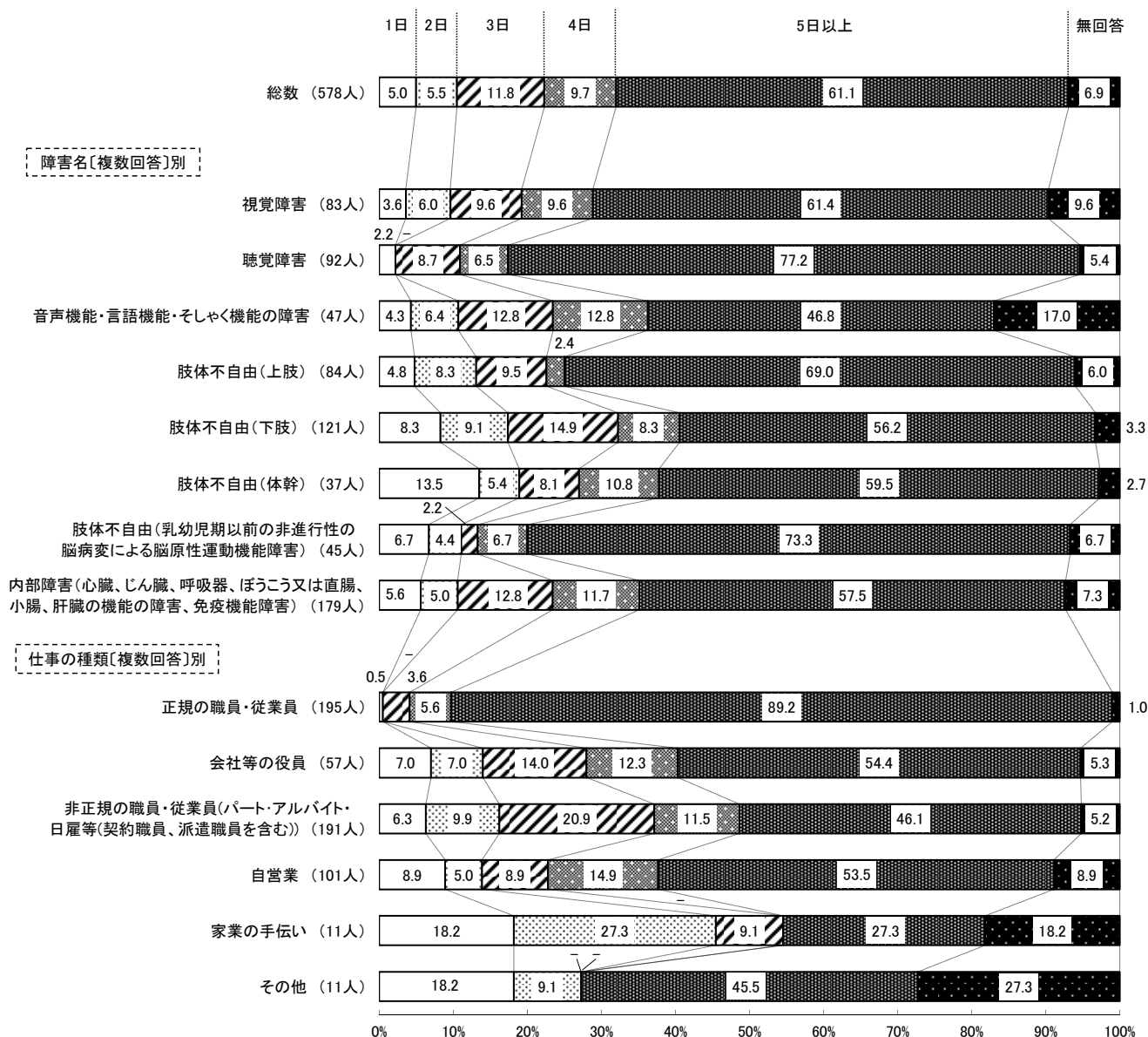
(3) 1週間の就労日数－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した578人が対象

1週間の就労日数は「5日以上」が61.1%

1週間の就労日数を聞いたところ、「5日以上」の割合が61.1%で最も高くなっている。障害名別にみると、「聴覚障害」及び「肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）」では「5日以上」の割合が7割を超えている（77.2%、73.3%）。仕事の種類別にみると、「5日以上」の割合は、正規の職員・従業員が89.2%で最も高くなっている。（図Ⅱ-5-2）

図Ⅱ-5-2 1週間の就労日数－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別



注1) 障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数であるため、省略した。

2) 仕事の種類〔複数回答〕別のうち、内職は、母数が少数であるため、省略した。

(4) 1週間の労働時間－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した578人が対象

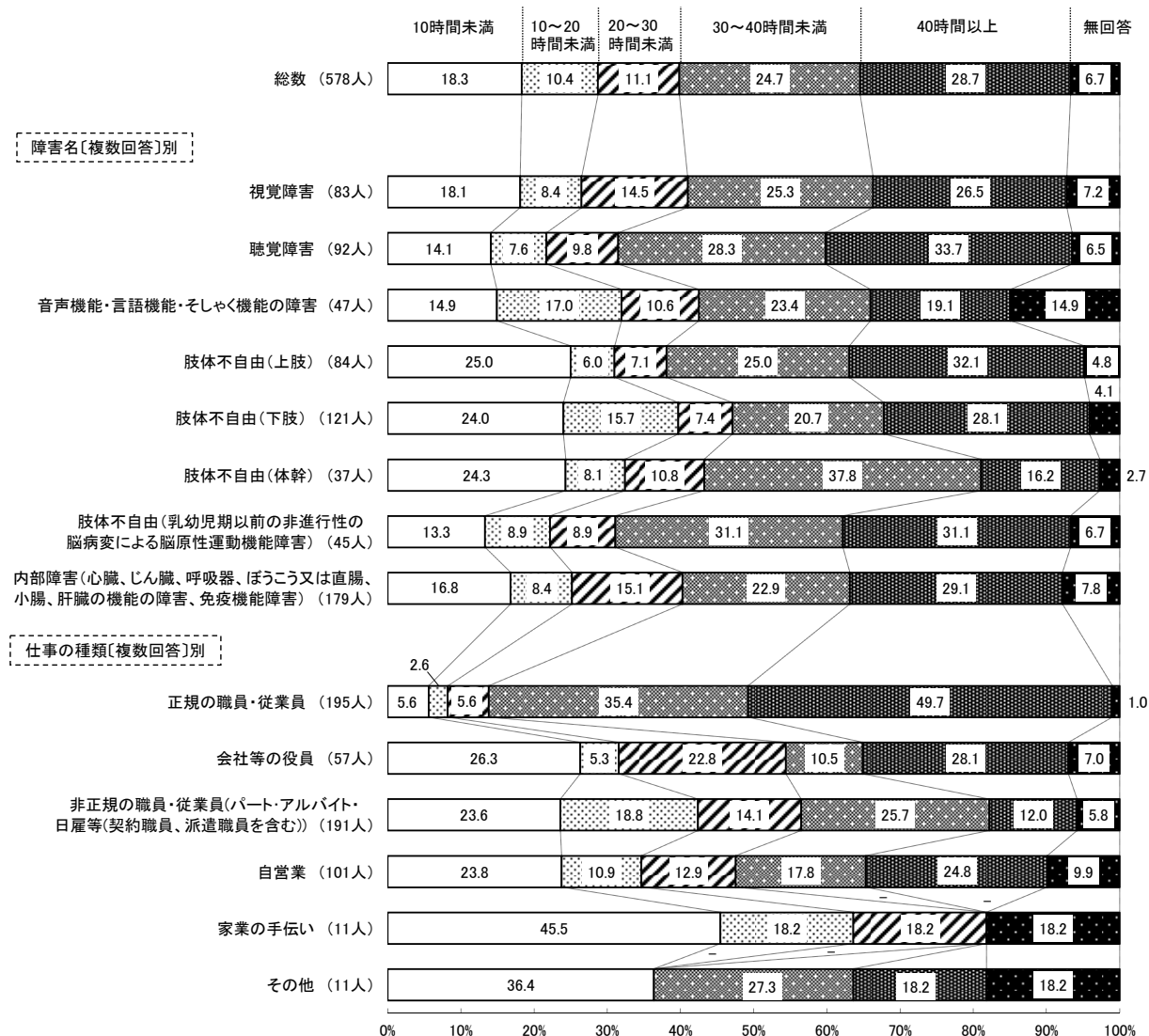
1週間の労働時間は「40時間以上」が28.7%

1週間の労働時間を聞いたところ、「40時間以上」の割合が28.7%、「30～40時間未満」が24.7%となっている。

障害名別にみると、「聴覚障害」、「肢体不自由（上肢）」及び「肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）」では、「40時間以上」の割合が3割を超えている（33.7%、32.1%、31.1%）。

仕事の種類別にみると、「40時間以上」の割合は、正規の職員・従業員が49.7%となっている。（図Ⅱ-5-3）

図Ⅱ-5-3 1週間の労働時間－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別



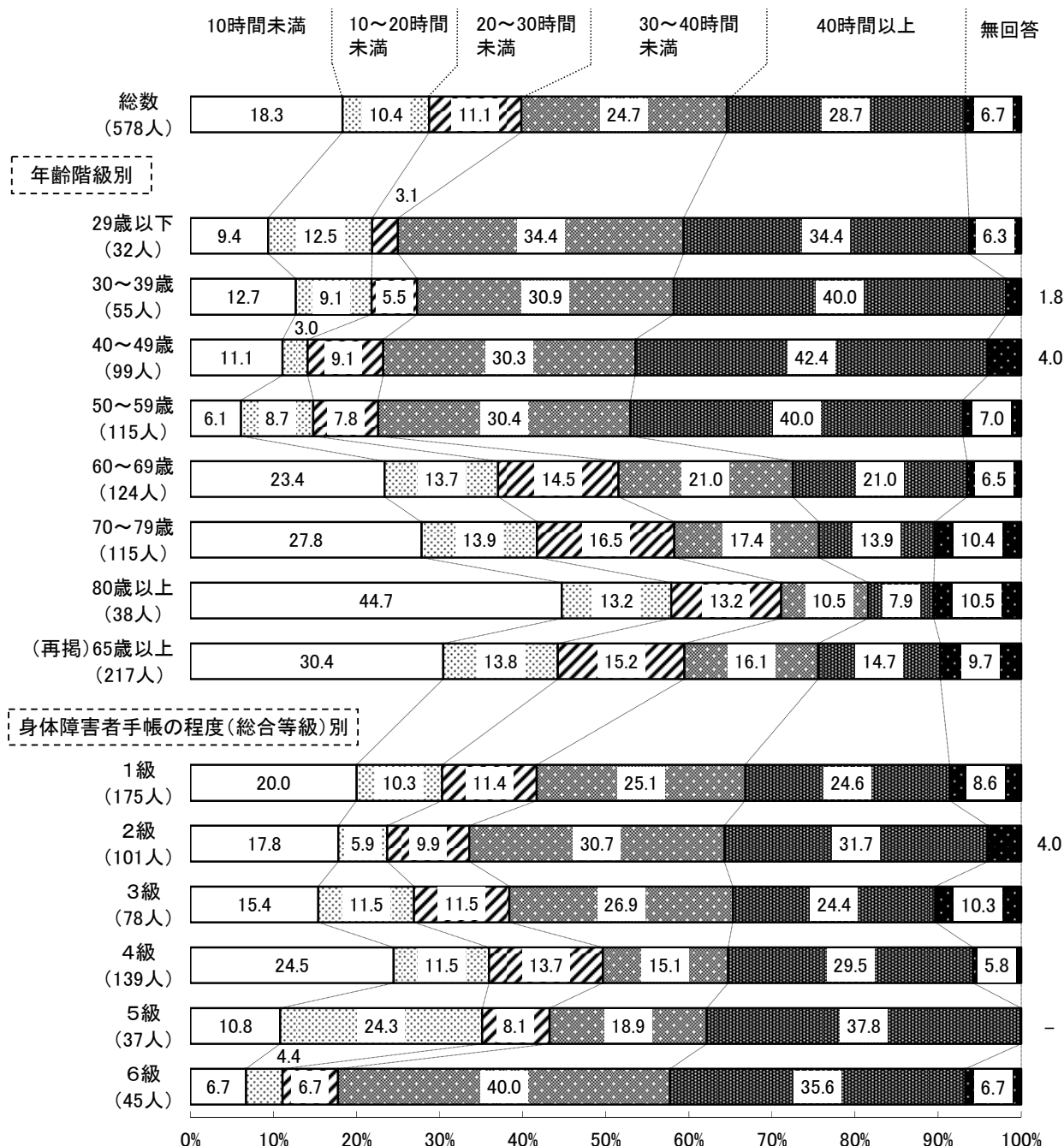
注1) 障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数であるため、省略した。

注2) 仕事の種類〔複数回答〕別のうち、内職は、母数が少数であるため、省略した。

(5) 1週間の労働時間－年齢階級、身体障害者手帳の程度（総合等級）別

1週間の労働時間を年齢階級別にみると、30代、40代及び50代では「40時間以上」の割合が4割以上となっている（40.0%、42.4%、40.0%）。（図Ⅱ-5-4）

図Ⅱ-5-4 1週間の労働時間－年齢階級、身体障害者手帳の程度（総合等級）別



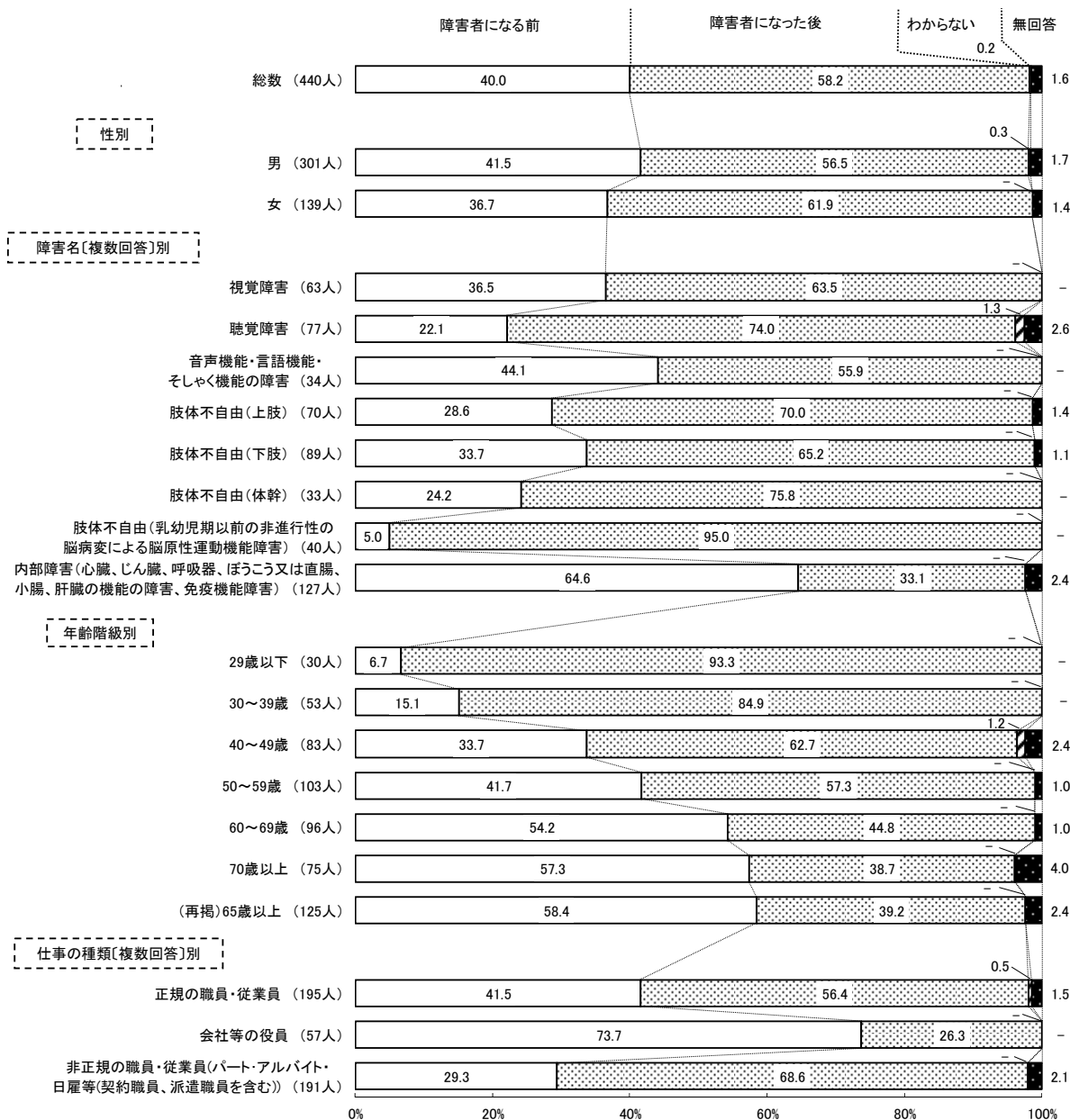
(6) 就職した時期－性別、年齢階級、障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別
 ※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である440人が対象

現在の就職先に就職をした時期は「障害者になった後」が58.2%

現在の就職先に就職したのは障害者になる前か、それともなった後か聞いたところ、「障害者になる前」の割合が40.0%、「障害者になった後」が58.2%となっている。

障害名別にみると、「障害者になった後」の割合は、「肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）」が95.0%となっている。（図Ⅱ-5-5）

図Ⅱ-5-5 就職した時期－性別、年齢階級、障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別



注) 障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数であるため、省略した。

(7) 就職をするために支援を受けたところ(人)〔複数回答〕－性別、年齢階級別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である人（440人）のうち、障害者になった後に現在の就職先に就職した256人が対象

就職しゅうしょくをするために支援しえんを受けたところは「ハローワーク」の割合わりあいが25.8%

どこ（誰）の支援を受けて現在の仕事に就いたか聞いたところ、「ハローワーク」の割合が25.8%、「区市町村障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センター」が13.3%、「知人」が11.3%となっている。一方で、「支援は受けなかった」の割合は31.6%となっている。（表Ⅱ-5-2）

表Ⅱ-5-2 就職をするために支援を受けたところ(人)〔複数回答〕－性別、年齢階級別

		総数	ハローワーク	障害者就業・生活支援センター、 区市町村障害者就労支援センター	学校	家族	知人	事業所等 就労移行支援	福祉団体	その他	受けなかった	支援はなかった	無回答
総数		100.0 (256)	25.8	13.3	8.6	4.3	11.3	5.1	1.6	7.0	31.6	1.6	
性別	男	100.0 (170)	25.9	14.7	9.4	4.7	12.4	5.3	1.8	7.6	31.2	1.2	
	女	100.0 (86)	25.6	10.5	7.0	3.5	9.3	4.7	1.2	5.8	32.6	2.3	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (28)	17.9	10.7	32.1	7.1	3.6	3.6	-	3.6	39.3	-	
	30～39歳	100.0 (45)	15.6	8.9	15.6	2.2	4.4	6.7	-	8.9	33.3	4.4	
	40～49歳	100.0 (52)	38.5	19.2	1.9	7.7	3.8	7.7	1.9	9.6	25.0	1.9	
	50～59歳	100.0 (59)	33.9	10.2	8.5	-	13.6	6.8	1.7	3.4	33.9	1.7	
	60～69歳	100.0 (43)	23.3	11.6	-	4.7	18.6	2.3	4.7	11.6	32.6	-	
	70歳以上	100.0 (29)	13.8	20.7	-	6.9	27.6	-	-	3.4	27.6	-	
	(再掲) 65歳以上	100.0 (49)	16.3	18.4	-	4.1	26.5	-	-	10.2	26.5	-	

(8) 現在の仕事に就いてからの期間－性別、年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である440人が対象

現在の仕事に就いてからの期間は「10年以上」の割合が最も高く54.1%

現在の仕事に就いてからの期間を聞いたところ、「10年以上」の割合が54.1%で最も高く、また、「5年以上10年未満」が14.5%となっている。

仕事の種類別にみると、「10年以上」の割合は、非正規の職員・従業員が33.5%となっている。（表Ⅱ-5-3）

表Ⅱ-5-3 現在の仕事に就いてからの期間－性別、年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別

		総数	3か月未満	6か月未満以上	1年未満以上	3年以上未満	5年以上未満	10年以上未満	10年以上	無回答
総数		100.0 (440)	2.5	1.8	2.7	9.8	11.4	14.5	54.1	3.2
性別	男	100.0 (301)	2.3	1.3	2.7	8.6	12.0	14.6	55.1	3.3
	女	100.0 (139)	2.9	2.9	2.9	12.2	10.1	14.4	51.8	2.9
年齢階級別	29歳以下	100.0 (30)	6.7	-	13.3	33.3	30.0	13.3	3.3	-
	30～39歳	100.0 (53)	-	3.8	-	11.3	9.4	24.5	50.9	-
	40～49歳	100.0 (83)	4.8	1.2	3.6	7.2	14.5	12.0	50.6	6.0
	50～59歳	100.0 (103)	2.9	1.0	2.9	6.8	4.9	17.5	62.1	1.9
	60～69歳	100.0 (96)	2.1	3.1	1.0	11.5	14.6	7.3	58.3	2.1
	70歳以上	100.0 (75)	-	1.3	1.3	4.0	6.7	16.0	64.0	6.7
	(再掲)65歳以上	100.0 (125)	0.8	2.4	0.8	4.8	10.4	13.6	63.2	4.0
〔複数回答の種類〕別	正規の職員・従業員	100.0 (195)	0.5	1.0	2.6	7.2	9.2	10.8	65.1	3.6
	会社等の役員	100.0 (57)	-	1.8	1.8	-	1.8	7.0	87.7	-
	非正規の職員・従業員 (パート・アルバイト・日雇等 (契約職員、派遣職員を含む))	100.0 (191)	5.2	2.6	3.1	15.2	16.2	20.4	33.5	3.7

(9) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－性別、障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である440人が対象

仕事をしていく上で困ることは、総数では「通勤時の混雑」の割合が13.9%。
また、障害の種類によって困ることが異なる

仕事をしていく上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」の割合が55.5%、「困ることは特にない」が41.4%となっている。困ることの内容は、「通勤時の混雑」の割合が13.9%となっている。

障害名別にみると、視覚障害、肢体不自由（下肢）及び肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「通勤時の混雑」の割合がそれぞれ23.8%、15.7%、22.5%、聴覚障害では「相手の言っていることが分からない」が53.2%、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」が41.2%、肢体不自由（上肢）及び肢体不自由（体幹）では「人間関係（職場内でのいじめなど）」がそれぞれ15.7%、21.2%、内部障害では「定期的な通院や健康管理との両立」が16.5%となっている。

仕事の種類別にみると、「困ることがある」の割合は、正規の職員・従業員では63.6%となっている。（表Ⅱ-5-4）

表Ⅱ-5-4 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－性別、障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

	総数	困ることがある														特にない	無回答
		仕事の内容	いじめなど	人間関係	伝わらない内容	分からないこと	相手の言っていることが分からない	通勤時の混雑	通勤時の混雑	通勤時の混雑	通勤時の混雑	通勤時の混雑	通勤時の混雑	通勤時の混雑	通勤時の混雑		
総数	100.0 (440)	55.5	10.9	9.8	10.0	10.7	7.0	4.8	8.0	13.9	10.0	3.6	11.4	41.4	3.2		
性別	男	100.0 (301)	53.2	9.0	7.3	9.6	10.3	7.0	4.7	8.3	15.6	10.3	2.7	11.3	43.9	3.0	
	女	100.0 (139)	60.4	15.1	15.1	10.8	11.5	7.2	5.0	7.2	10.1	9.4	5.8	11.5	36.0	3.6	
身体障害者手帳の障害名	視覚障害	100.0 (63)	65.1	15.9	7.9	3.2	1.6	7.9	3.2	7.9	23.8	7.9	1.6	27.0	31.7	3.2	
	聴覚障害	100.0 (77)	75.3	10.4	20.8	20.8	53.2	7.8	1.3	3.9	10.4	5.2	1.3	11.7	18.2	6.5	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (34)	55.9	14.7	5.9	41.2	5.9	2.9	2.9	2.9	5.9	11.8	5.9	8.8	41.2	2.9	
	肢体不自由(上肢)	100.0 (70)	54.3	14.3	15.7	10.0	8.6	14.3	2.9	5.7	14.3	4.3	2.9	10.0	42.9	2.9	
	肢体不自由(下肢)	100.0 (89)	57.3	14.6	11.2	3.4	2.2	11.2	2.2	9.0	15.7	12.4	1.1	14.6	41.6	1.1	
	肢体不自由(体幹)	100.0 (33)	51.5	6.1	21.2	12.1	-	18.2	-	12.1	18.2	9.1	6.1	6.1	45.5	3.0	
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (40)	57.5	12.5	7.5	20.0	15.0	7.5	-	10.0	22.5	5.0	5.0	5.0	42.5	-	
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (127)	42.5	5.5	3.9	2.4	0.8	2.4	11.8	10.2	11.0	16.5	5.5	4.7	52.8	4.7	
仕事の種類	正規の職員・従業員	100.0 (195)	63.6	13.3	11.3	11.3	15.4	7.7	5.6	10.3	17.4	14.4	2.6	13.3	33.8	2.6	
	会社等の役員	100.0 (57)	45.6	7.0	1.8	12.3	5.3	3.5	1.8	7.0	10.5	8.8	3.5	14.0	54.4	-	
	非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む))	100.0 (191)	49.7	9.4	11.0	7.9	7.9	7.3	4.7	5.8	11.0	6.3	4.7	8.4	45.5	4.7	

注) 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数であるため、省略した。

(10) 仕事で困ったときの相談先〔複数回答〕

－性別、障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 440 人が対象

仕事で困ったことがあったときの相談先は「^{かいしゃ}会社の^{じょうし}上司」の割合が 41.4%、「^{かぞく}家族」が 33.9%、「^{かいしゃ}会社の^{どうりょう}同僚」が 33.2%

仕事で困ったときの相談先を聞いたところ、「会社の上司」の割合が 41.4%、「家族」が 33.9%、「会社の同僚」が 33.2%となっている。

障害名別にみると、視覚障害及び聴覚障害では「今まで特に困ったことはない」の割合が他の障害と比べて低くなっている（7.9%、2.6%）。（表Ⅱ-5-5）

表Ⅱ-5-5 仕事で困ったときの相談先〔複数回答〕

－性別、障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

		総数	会社の上司	会社の同僚	職場に派遣された ジョブコーチ	就労支援センター 等の職員	家族	会社 の同僚 以外の 友人	グセ の世 話人 等	施設 の職 員、 ホーム	出身校 の教員	その他	相談する 相手は いない	今までは ないに 困った	無回答
総数		100.0 (440)	41.4	33.2	0.7	2.5	33.9	12.0	0.7	0.2	2.7	7.7	16.4	6.1	
性別	男	100.0 (301)	43.2	30.9	0.7	3.0	30.6	11.3	0.3	0.3	2.7	9.3	17.6	6.3	
	女	100.0 (139)	37.4	38.1	0.7	1.4	41.0	13.7	1.4	-	2.9	4.3	13.7	5.8	
身体障害者手帳の障害名	視覚障害	100.0 (63)	39.7	38.1	1.6	6.3	31.7	7.9	-	-	4.8	14.3	7.9	6.3	
	聴覚障害	100.0 (77)	50.6	41.6	1.3	1.3	39.0	27.3	-	-	1.3	6.5	2.6	9.1	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (34)	41.2	26.5	-	-	38.2	14.7	2.9	-	8.8	8.8	14.7	5.9	
	肢体不自由(上肢)	100.0 (70)	44.3	32.9	-	4.3	34.3	10.0	-	1.4	1.4	5.7	22.9	7.1	
	肢体不自由(下肢)	100.0 (89)	39.3	28.1	2.2	2.2	43.8	7.9	1.1	1.1	3.4	4.5	20.2	3.4	
	肢体不自由(体幹)	100.0 (33)	51.5	42.4	3.0	3.0	36.4	12.1	3.0	-	-	3.0	15.2	-	
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (40)	60.0	47.5	2.5	10.0	35.0	7.5	2.5	-	2.5	2.5	15.0	-	
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (127)	34.6	29.1	-	1.6	26.8	9.4	-	-	0.8	7.9	24.4	7.1		
仕事の種類の別	正規の職員・従業員	100.0 (195)	50.8	42.6	1.5	1.5	34.9	13.3	1.0	-	2.1	7.7	13.3	6.7	
	会社等の役員	100.0 (57)	10.5	21.1	-	-	49.1	7.0	-	-	5.3	8.8	22.8	5.3	
	非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む))	100.0 (191)	40.3	26.7	-	4.2	28.3	12.0	0.5	0.5	2.6	7.9	17.8	5.8	

注) 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数であるため、省略した。

(11) 福祉的就労経験の有無－性別、仕事の種類〔複数回答〕別

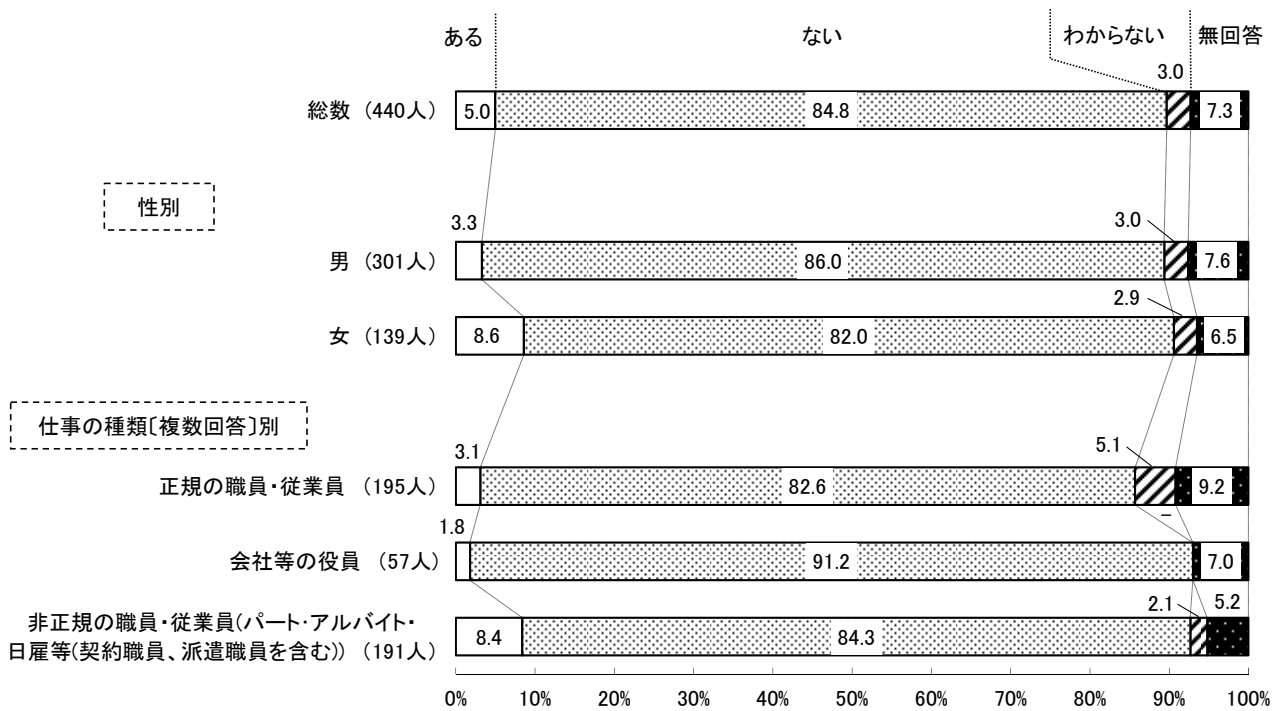
※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 440 人が対象

これまでに^{ふくしてきしゆうろうけいけん}福祉的就労経験をしたことが「ある」割合は^{わりあい}5.0%

これまでに、福祉的就労をしたことがあるか聞いたところ、「ある」の割合が 5.0%、「ない」が 84.8%となっている。

仕事の種類別にみると、「ある」の割合は、非正規の職員、従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））が 8.4%となっている。（図Ⅱ-5-6）

図Ⅱ-5-6 福祉的就労経験の有無－性別、仕事の種類〔複数回答〕別



(12) 現在、仕事をしていない理由、又は福祉的就労をしている理由〔3つまでの複数回答〕
 ー障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※仕事をしていない又は福祉的就労をしている 1,900 人が対象

現在、仕事をしていない理由、又は福祉的就労をしている理由は、「健康・体力上の理由（病気等を含む）」の割合が 55.4%、「高齢のため（定年を含む）」が 50.6%

現在、仕事をしていない又は福祉的就労をしている理由を聞いたところ、「健康・体力上の理由（病気等を含む）」の割合が 55.4%、「高齢のため（定年を含む）」が 50.6%となっている。

年齢階級別にみると、30代、40代、50代及び60代では「健康・体力上の理由（病気等を含む）」の割合が6割を超えている（64.2%、76.4%、81.0%、69.9%）。また、40代及び50代では「受け入れてくれる職場が見つからないため」の割合が2割を超えている（25.5%、24.8%）。（表Ⅱ-5-6）

表Ⅱ-5-6 現在、仕事をしていない理由、又は福祉的就労をしている理由〔3つまでの複数回答〕
 ー障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	自分 がない にあった 仕事	健康・ 体力上 の理由 (病気等 を含む)	会社 倒産、 人員 整理 など	家庭の 都合(結 婚、 育児な ど)	高齢 のため (定年 を含む)	人間 関係が 難しい	学校 などで 勉強 してい るため	職場 が見つ かから ない	受け 入れて くれな い	働く 必要 がない ため	働か たく ない ため	その他	無 回答
総数	100.0 (1,900)	7.6	55.4	0.7	1.6	50.6	2.2	0.8	8.7	13.3	3.6	3.4	5.8	
身体 障害 者手 帳の 障害 名〔 複数 回答 〕別	視覚障害	100.0 (272)	5.9	55.1	2.2	1.8	48.5	2.9	0.4	12.1	10.7	4.8	3.7	5.9
	聴覚障害	100.0 (263)	7.2	33.5	0.4	2.3	61.2	3.8	1.5	4.6	17.9	6.5	1.9	7.6
	平衡機能障害	100.0 (15)	-	66.7	-	-	33.3	-	-	13.3	20.0	13.3	6.7	13.3
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (190)	11.6	58.4	1.1	0.5	53.2	4.7	0.5	12.6	14.7	4.2	2.1	3.7
	肢体不自由(上肢)	100.0 (371)	8.1	69.0	0.5	1.9	33.4	3.2	1.3	12.9	9.4	2.7	7.0	6.5
	肢体不自由(下肢)	100.0 (490)	7.3	60.4	0.2	1.4	47.6	3.1	1.2	9.4	13.1	2.9	4.5	5.5
	肢体不自由(体幹)	100.0 (231)	7.8	71.0	-	1.7	33.8	0.9	0.4	12.6	7.8	2.2	6.9	6.1
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の 脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (195)	17.9	69.2	-	1.0	11.8	5.6	3.6	20.0	1.5	1.0	11.3	8.7
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は 直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (534)	6.2	55.1	0.6	1.5	57.3	0.9	-	4.9	14.0	3.6	1.9	6.0
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (47)	23.4	46.8	-	2.1	-	4.3	23.4	14.9	2.1	-	14.9	2.1
	30～39歳	100.0 (53)	20.8	64.2	-	3.8	-	7.5	5.7	9.4	5.7	-	17.0	5.7
	40～49歳	100.0 (110)	17.3	76.4	-	4.5	-	9.1	-	25.5	-	0.9	9.1	9.1
	50～59歳	100.0 (137)	15.3	81.0	1.5	8.0	2.2	7.3	0.7	24.8	5.1	1.5	8.8	4.4
	60～69歳	100.0 (269)	11.5	69.9	1.5	2.2	32.3	3.7	-	11.9	10.0	3.7	3.7	5.2
	70～79歳	100.0 (616)	5.0	57.1	1.0	0.5	60.7	0.5	-	5.7	14.0	5.2	1.1	5.7
	80歳以上	100.0 (668)	3.0	39.2	0.1	0.4	74.4	0.4	-	3.6	19.3	3.6	1.5	6.3
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,455)	4.8	50.2	0.7	0.8	64.5	0.8	-	5.6	16.1	4.3	1.6	5.8

(13) 会社等での就労経験の有無一年齢階級、収入を伴う仕事の有無別

※仕事をしていない又は福祉的就労をしている1,900人が対象

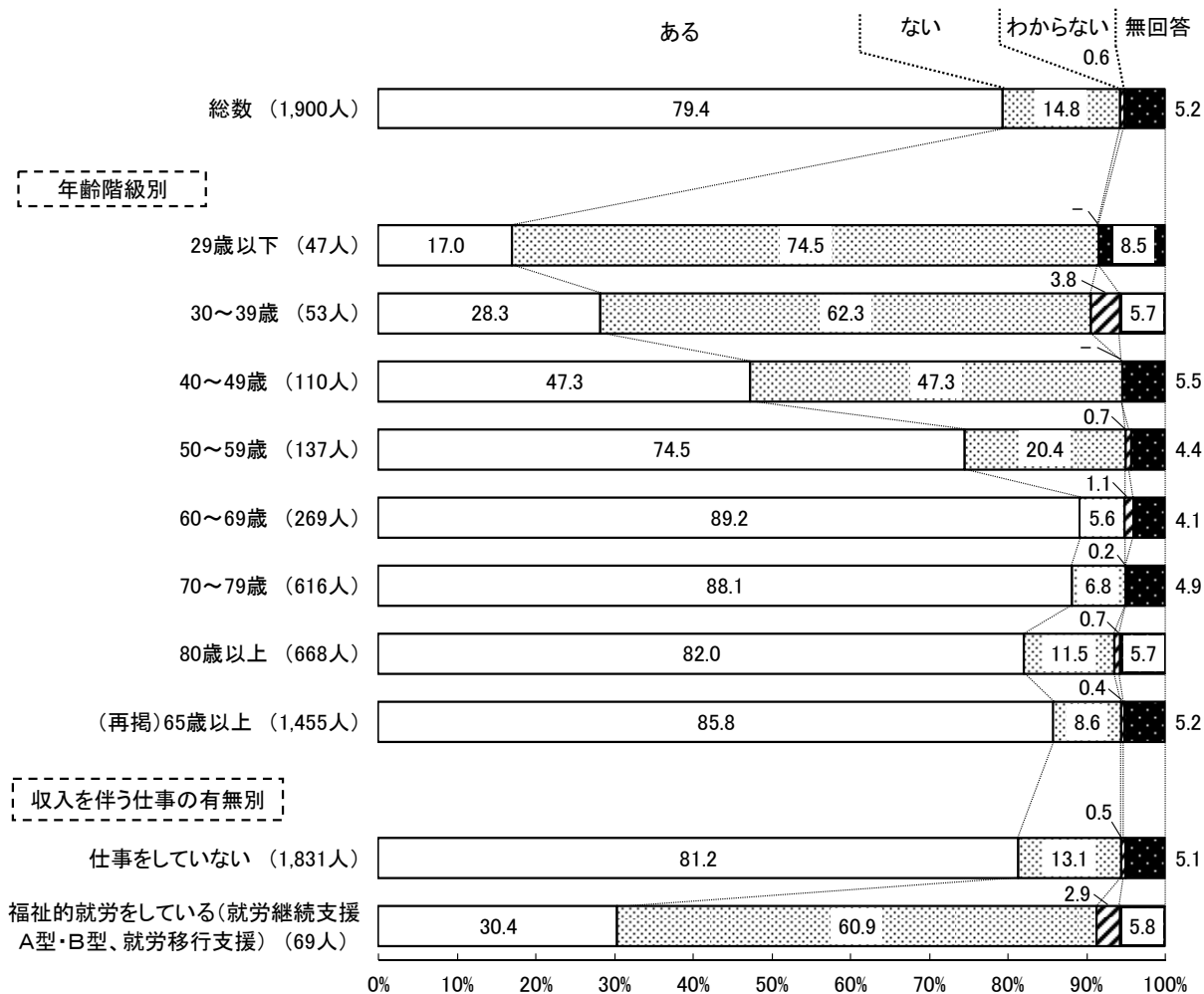
過去、会社等で働いたこと（パート、アルバイト等を含む）がある割合は79.4%

過去に会社等で働いたこと（パート、アルバイト等を含む）があるか聞いたところ、「ある」の割合が79.4%、「ない」が14.8%となっている。

年齢階級別にみると、60歳以上の階級ではいずれも、過去に会社等で働いたことが「ある」割合が8割を超えている。

収入を伴う仕事の有無別にみると、福祉的就労をしている人で、過去に会社等で働いたことが「ある」割合が30.4%となっている。（図Ⅱ-5-7）

図Ⅱ-5-7 会社等での就労経験の有無一年齢階級、収入を伴う仕事の有無別



(14) 会社等での就労意向の有無一年齢階級別

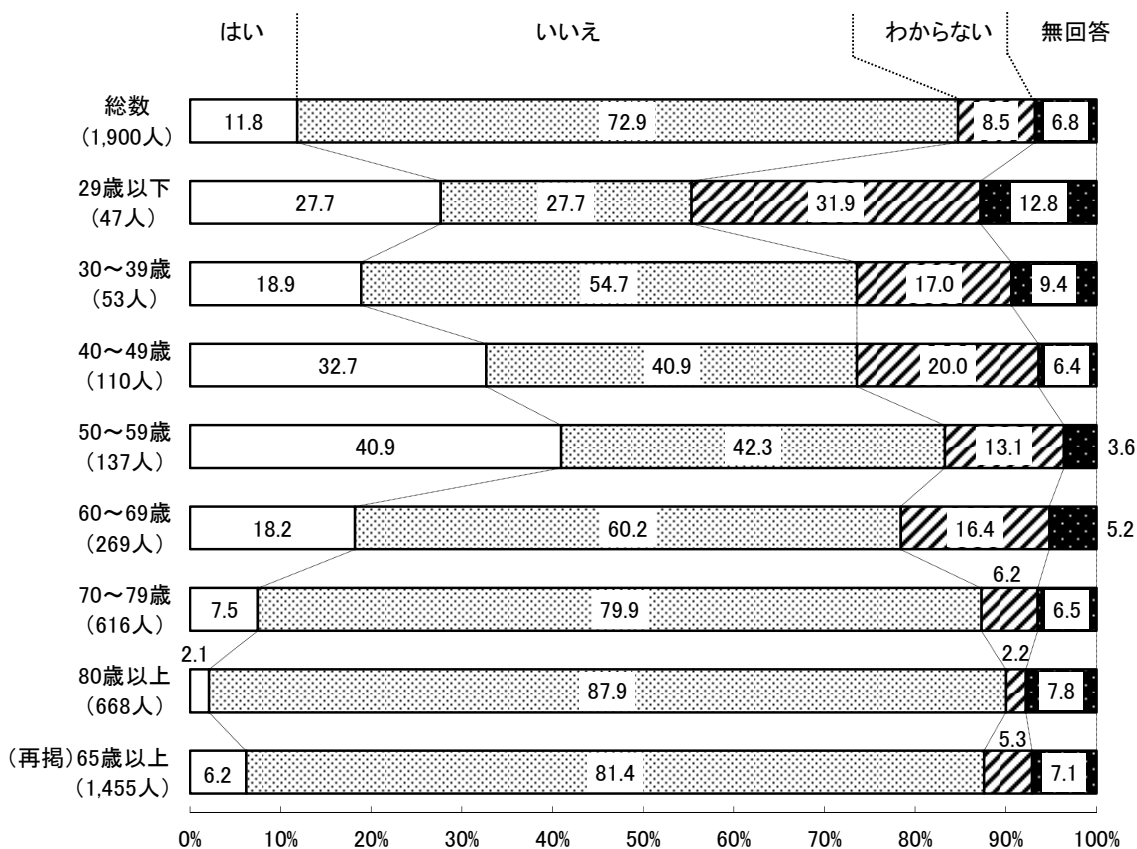
※仕事をしていない又は福祉的就労をしている 1,900 人が対象

今後、会社等で働きたい（パート、アルバイト等を含む）割合は 11.8%

今後、会社等で働きたいか（パート、アルバイト等を含む）聞いたところ、「はい」の割合が 11.8%、「いいえ」が 72.9%となっている。

年齢階級別にみると、「はい」の割合は、50代が 40.9%となっている。（図Ⅱ-5-8）

図Ⅱ-5-8 会社等での就労意向の有無一年齢階級別



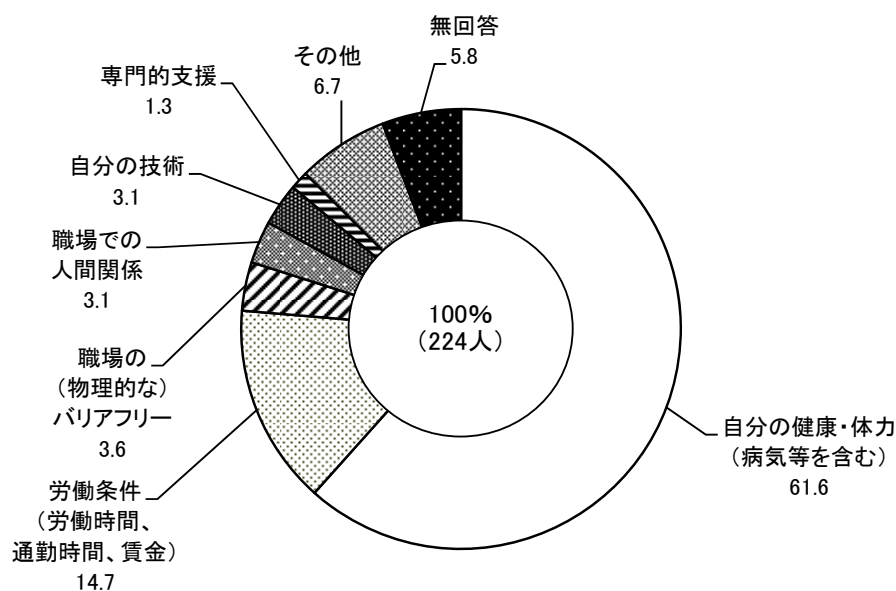
(15) 会社等で働くにあたって心配なこと（課題）

※仕事をしていない人又は福祉的就労をしている人の中で、今後、会社等で働きたい（パート、アルバイト等を含む）と答えた 224 人が対象

会社等で働くにあたって心配なこと（課題）は「自分の健康・体力（病気等を含む）」の割合が最も高く 61.6%

会社等で働くにあたって心配なこと（課題）を聞いたところ、「自分の健康・体力（病気等を含む）」の割合が 61.6% で最も高く、また、「労働条件（労働時間、通勤時間、賃金）」が 14.7% となっている。（図 II-5-9）

図 II-5-9 会社等で働くにあたって心配なこと（課題）



6 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

収入の種類は「年金・恩給」の割合が最も高く78.0%

平成29年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が78.0%で最も高く、また、「賃金・給料」が19.6%、「手当」が15.9%となっている。

年齢階級別にみると、30代から50代では「賃金・給料」の割合がいずれも4割を超えている(30代52.3%、40代44.0%、50代44.8%)。(表Ⅱ-6-1)

表Ⅱ-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

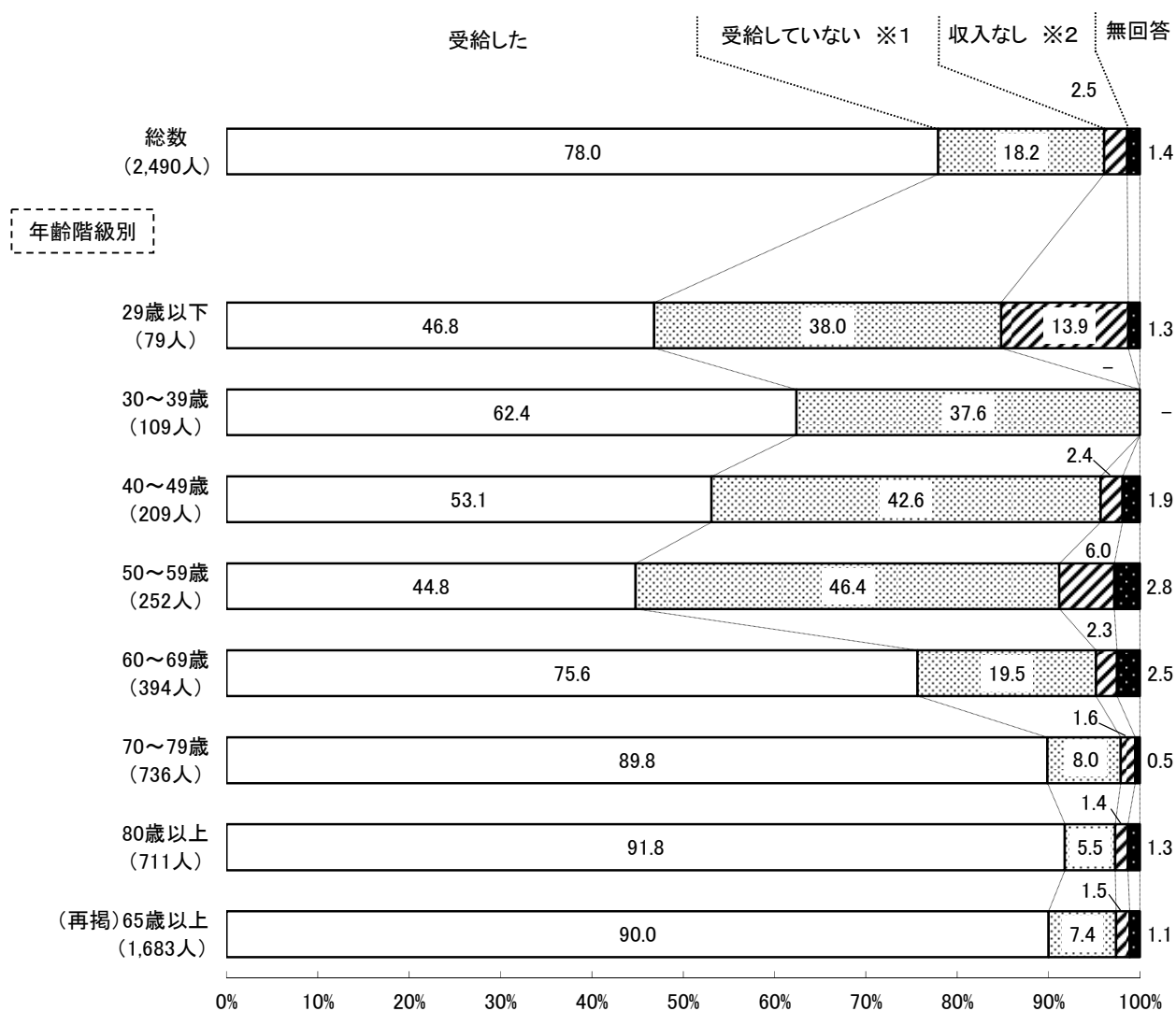
		総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り・小遣い	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費	手当	雇用保険	保険金・補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数		100.0 (2,490)	19.6	3.2	0.4	5.2	2.2	2.0	0.1	78.0	7.8	15.9	0.4	1.0	2.0	2.2	2.5	1.4
身体障害者手帳の障害名 〔複数回答分〕別	視覚障害	100.0 (357)	21.0	4.2	-	6.2	1.1	0.8	-	72.3	10.9	14.8	0.3	0.6	1.7	1.1	4.5	1.1
	聴覚障害	100.0 (359)	21.7	1.9	0.6	4.2	2.5	3.1	-	80.5	5.8	11.7	0.3	1.4	0.8	2.5	2.2	1.4
	平衡機能障害	100.0 (16)	6.3	-	-	-	6.3	-	-	75.0	-	12.5	-	18.8	6.3	6.3	6.3	12.5
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	17.2	1.3	0.8	8.4	2.5	0.4	-	76.6	8.8	11.3	1.7	2.5	3.8	3.3	3.3	1.7
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	16.8	2.2	0.4	2.8	2.0	2.8	0.2	77.9	9.6	23.4	0.7	0.7	5.0	2.6	3.1	1.5
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	16.7	2.5	0.7	3.8	2.3	3.3	0.2	81.4	7.2	16.2	0.3	0.5	2.8	2.3	1.5	1.6
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	13.0	1.5	-	2.6	1.5	2.6	0.4	81.8	8.2	32.0	-	1.5	1.9	1.5	2.6	1.5
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	17.5	0.8	-	0.4	1.3	1.3	-	79.6	5.8	47.5	0.8	1.3	13.8	2.5	2.9	2.1
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	20.3	4.5	0.4	6.4	2.4	1.3	-	79.0	8.5	11.7	0.3	0.6	0.1	2.8	1.7	0.8
	年齢階級別	29歳以下	100.0 (79)	36.7	-	1.3	-	1.3	7.6	-	46.8	1.3	34.2	-	-	10.1	3.8	13.9
30～39歳	100.0 (109)	52.3	-	0.9	-	2.8	1.8	-	62.4	1.8	47.7	0.9	-	8.3	0.9	-	-	
40～49歳	100.0 (209)	44.0	2.4	0.5	-	1.9	2.9	-	53.1	8.6	36.8	1.0	1.9	7.7	1.0	2.4	1.9	
50～59歳	100.0 (252)	44.8	2.8	-	4.4	1.2	-	-	44.8	15.1	27.0	1.2	2.0	4.8	1.2	6.0	2.8	
60～69歳	100.0 (394)	26.9	5.6	0.5	4.6	4.1	1.3	0.3	75.6	11.9	18.0	1.0	1.5	1.3	3.6	2.3	2.5	
70～79歳	100.0 (736)	10.1	3.9	0.4	5.7	1.4	1.5	-	89.8	7.7	9.6	-	0.5	-	3.1	1.6	0.5	
80歳以上	100.0 (711)	2.5	2.4	0.4	8.3	2.4	2.7	0.1	91.8	4.5	4.2	0.1	0.7	-	1.4	1.4	1.3	
(再掲)65歳以上	100.0 (1,683)	8.6	3.4	0.5	6.7	2.2	1.9	0.1	90.0	7.2	7.9	0.1	0.7	0.1	2.5	1.5	1.1	
平成25年度	100.0 (2,659)	17.9	3.0	0.6	5.9	1.8	1.4	0.0	77.3	7.4	20.8	0.4	0.6	1.9	1.9	3.1	1.1	

(2) 年金・恩給の受給の有無一年齢階級別

平成29年中に年金・恩給を受給したか聞いたところ、「受給した」の割合が78.0%、「受給していない」が18.2%となっている。

年齢階級別にみると、30代では「受給した」の割合が6割を超えている。(図Ⅱ-6-1)

図Ⅱ-6-1 年金・恩給の受給の有無一年齢階級別



注1) ※1は、年金・恩給を受給していないが、その他の収入があったものを表している。

2) ※2は、年金・恩給を含め、収入が何もなかったものを表している。

(3) 年金・恩給の収入額－年齢階級別

※年金・恩給を受給している1,941人が対象

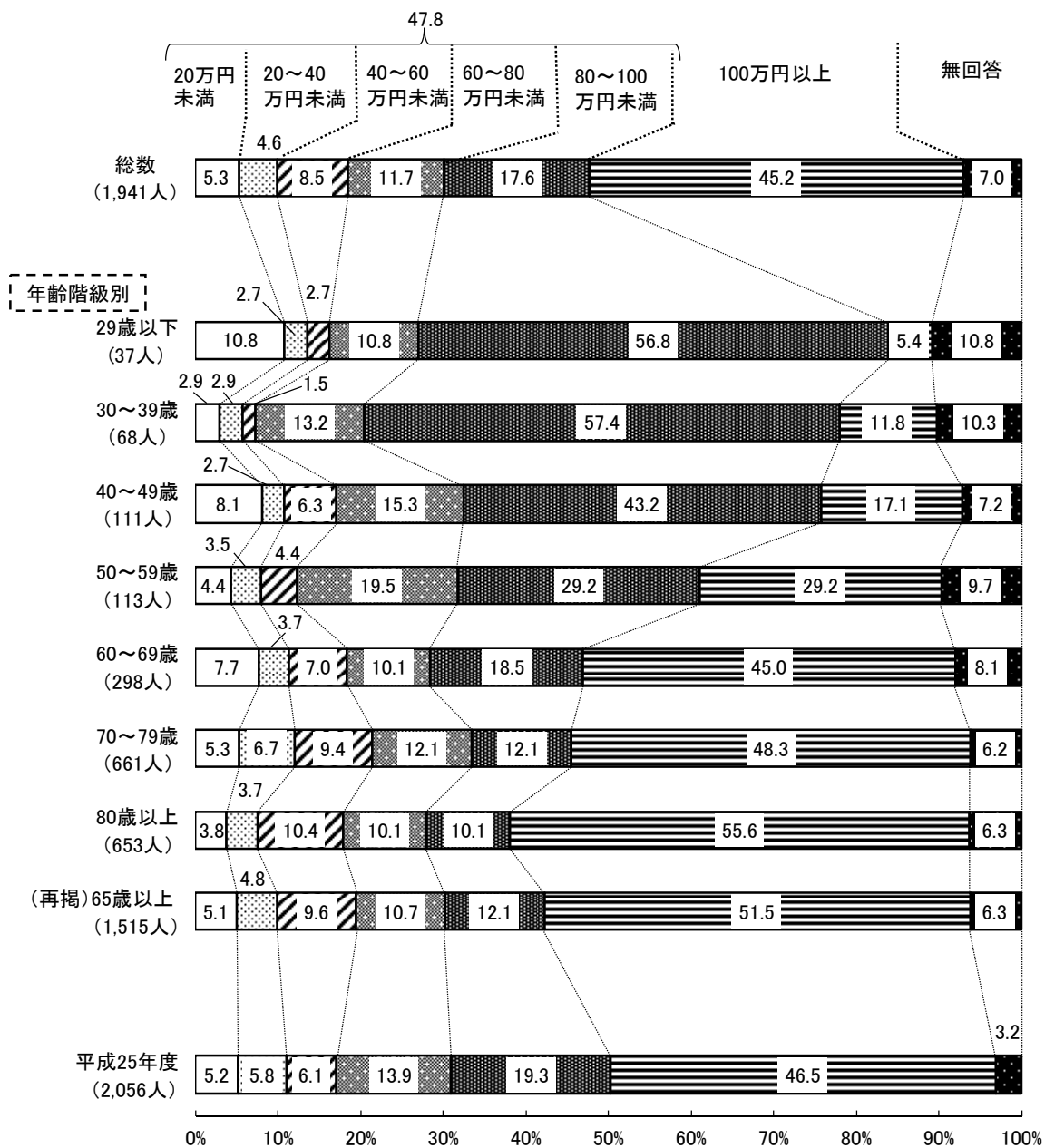
年金・恩給の収入額は「100万円未満」の割合が47.8%

平成29年中における年金・恩給の収入額を聞いたところ、「100万円未満」の割合が47.8%、「100万円以上」が45.2%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下及び30代では「80～100万円未満」の割合(56.8%、57.4%)が、80歳以上では「100万円以上」の割合(55.6%)がそれぞれ5割を超えている。

(図Ⅱ-6-2)

図Ⅱ-6-2 年金・恩給の収入額－年齢階級別

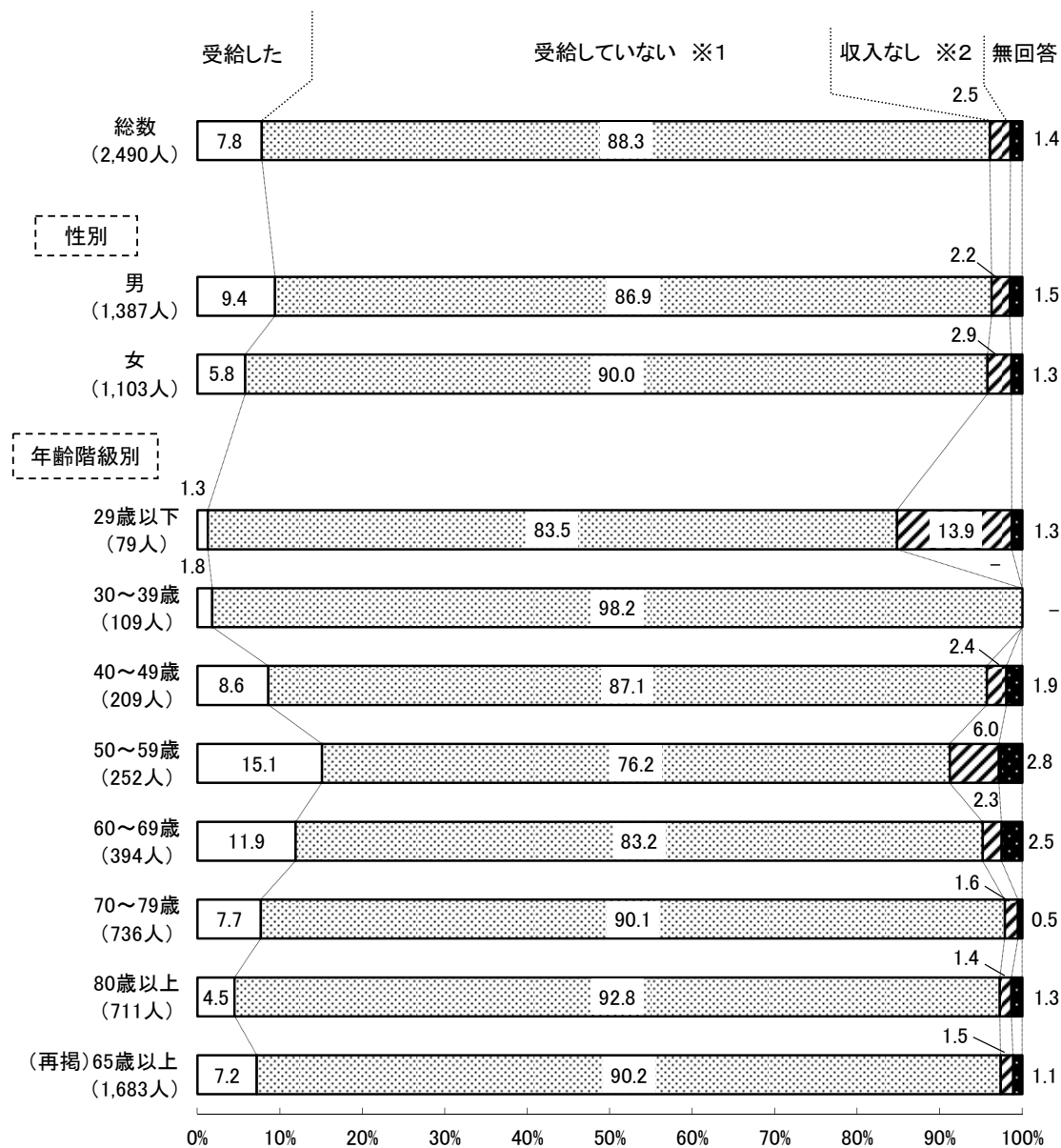


(4) 生活保護の受給の有無－性別、年齢階級別

平成29年中に生活保護を受給したか聞いたところ、「受給した」の割合が7.8%、「受給していない」が88.3%となっている。

年齢階級別にみると、「受給した」の割合は、50代が15.1%となっている。(図Ⅱ-6-3)

図Ⅱ-6-3 生活保護の受給の有無－性別、年齢階級別



注1) ※1は、生活保護を受給していないが、その他の収入があったものを表している。

2) ※2は、生活保護を含め、収入が何もなかったものを表している。

(5) 年間収入額（生活保護費を除く）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

ねんしゅう ねんしゅう まんえんみまん わりあい
 年収は「50～100万円未満」の割合が18.8%

平成29年中の収入額を聞いたところ、「50～100万円未満」の割合が18.8%、「100～150万円未満」が15.5%となっている。（表Ⅱ-6-2）

表Ⅱ-6-2 年間収入額（生活保護費を除く）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	収入なし	50万円未満	505100万円未満	1005100万円未満	1500100万円未満	2000100万円未満	2500100万円未満	3000100万円未満	4000100万円未満	5000100万円未満	6000100万円未満	7000100万円以上	無回答	
総数	100.0 (2,490)	5.8	9.5	18.8	15.5	11.0	9.4	6.5	6.5	3.4	2.2	1.3	3.4	6.6	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (357)	9.5	11.2	18.5	17.9	9.5	7.3	7.3	2.0	3.1	2.8	2.0	4.2	4.8
	聴覚障害	100.0 (359)	4.2	11.1	15.9	12.8	11.4	8.1	9.2	7.8	5.0	3.1	1.4	1.9	8.1
	平衡機能障害	100.0 (16)	6.3	-	12.5	31.3	-	-	12.5	-	-	-	12.5	-	25.0
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	7.5	6.7	18.4	13.0	13.0	10.5	8.4	6.7	4.6	2.1	0.4	2.5	6.3
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	5.9	10.5	17.5	19.7	10.5	9.2	3.7	5.7	2.6	1.1	1.1	2.4	10.3
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	4.7	9.3	21.9	18.3	11.6	8.8	4.6	5.9	2.6	1.3	0.8	2.1	8.0
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	5.2	10.0	22.7	16.7	12.6	10.0	1.9	5.2	2.2	1.1	0.7	3.0	8.6
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	5.0	8.8	17.1	26.7	13.3	9.6	2.9	2.9	1.7	0.8	0.8	0.4	10.0
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	5.0	9.4	17.6	12.2	10.6	12.9	6.9	8.4	3.1	2.5	1.3	5.6	4.6
年齢階級別	29歳以下	100.0 (79)	15.2	19.0	12.7	6.3	16.5	10.1	3.8	3.8	1.3	1.3	3.8	-	6.3
	30～39歳	100.0 (109)	0.9	4.6	14.7	17.4	11.9	11.0	4.6	8.3	9.2	6.4	3.7	1.8	5.5
	40～49歳	100.0 (209)	5.7	13.9	11.5	17.2	10.0	7.7	5.3	7.7	2.9	5.3	1.4	4.3	7.2
	50～59歳	100.0 (252)	13.1	8.7	10.7	15.9	6.7	6.0	4.4	6.0	7.1	4.0	4.4	7.5	5.6
	60～69歳	100.0 (394)	7.4	8.9	17.3	19.0	8.9	8.1	5.6	6.9	3.3	2.0	0.5	4.8	7.4
	70～79歳	100.0 (736)	3.8	9.5	24.3	14.9	11.3	11.7	6.4	5.4	2.0	1.8	0.4	1.9	6.5
	80歳以上	100.0 (711)	4.1	8.4	20.3	14.3	13.1	9.3	8.7	7.5	3.1	0.7	0.8	3.0	6.8
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,683)	4.1	8.9	22.0	15.2	11.9	10.2	7.2	6.7	2.7	1.2	0.5	2.8	6.6
平成25年度	100.0 (2,659)	7.1	9.6	19.2	15.3	9.8	10.6	6.9	6.5	3.9	2.2	1.0	3.0	4.9	

7 社会参加等

(1) 平日の日中主に過ごしたところ－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

「^{じぶん いえ わりあい もっと たか}自分の家」の割合が最も高く70.9%、また、「^{しよくば ふくしてきしゅうろう しせつ のぞ}職場(福祉的就労の施設を除く)」が14.2%

平日の日中主に過ごしたところについて聞いたところ、「自分の家」の割合が70.9%で最も高く、また、「職場(福祉的就労の施設を除く)」が14.2%、「通所施設(生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)」が5.3%となっている。(表Ⅱ-7-1)

表Ⅱ-7-1 平日の日中主に過ごしたところ－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	自分の家	(職場を福祉的就労の施設を除く)	(職場福祉的就労の施設)	学校	的就労の施設等(生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉は除く)※	通所施設	入所施設	その他	無回答
総数	100.0 (2,490)	70.9	14.2	1.5	0.7	5.3	4.9	1.1	1.3	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (357)	71.4	16.5	2.2	0.3	2.8	4.8	1.1	0.8
	聴覚障害	100.0 (359)	68.0	18.9	0.8	1.7	2.8	4.7	0.8	2.2
	平衡機能障害	100.0 (16)	68.8	6.3	-	-	12.5	12.5	-	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	77.4	10.0	1.7	0.8	5.0	2.1	2.1	0.8
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	63.5	10.7	2.4	1.3	10.7	7.6	1.3	2.4
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	71.1	10.1	2.0	1.3	7.2	6.2	0.8	1.3
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	55.8	8.2	2.2	0.7	16.7	14.1	0.4	1.9
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	38.3	13.3	9.6	2.1	21.7	10.8	1.7	2.5
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	78.6	14.8	-	-	2.5	2.2	0.8	1.0
年齢階級別	29歳以下	100.0 (79)	20.3	26.6	7.6	19.0	21.5	2.5	1.3	1.3
	30～39歳	100.0 (109)	22.9	44.0	4.6	1.8	22.9	1.8	-	1.8
	40～49歳	100.0 (209)	34.0	36.8	5.3	0.5	11.5	8.6	1.9	1.4
	50～59歳	100.0 (252)	48.8	35.7	4.4	-	3.6	4.4	1.2	2.0
	60～69歳	100.0 (394)	72.3	16.5	1.3	-	2.0	3.8	1.8	2.3
	70～79歳	100.0 (736)	87.0	5.8	-	-	2.2	2.9	1.2	1.0
	80歳以上	100.0 (711)	85.2	1.4	-	-	4.8	7.3	0.4	0.8
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,683)	85.1	4.9	0.2	-	3.1	4.8	1.0	1.0
平成25年度	100.0 (2,659)	72.8	14.3	2.0	0.9	4.1	2.9	2.0	1.0	

注) ※は、平成25年度調査では「通所施設(デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)」としていた。

(2) 現在利用している施設に満足しているかー性別、年齢階級、障害名〔複数回答〕別

※平日の日中主に職場（福祉的就労の施設）又は通所施設（生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く）で過ごしている 171 人が対象

げんざいりよう
現在利用している施設に満足している（「とても満足している」+「満足している」+「だ
いたい満足している」）割合は 71.9%。そのうち、「とても満足している」割合は 21.6%

現在利用している施設に満足しているか聞いたところ、「とても満足している」と答えた割合は 21.6%で、「満足している」（22.8%）及び「だいたい満足している」（27.5%）と合わせると、71.9%となっている。

一方で、不満である（「やや不満である」（3.5%）、「不満である」（1.8%）、「とても不満である」（1.2%）の合計）と答えた割合は 6.4%となっている。（表Ⅱ-7-2）

表Ⅱ-7-2 現在利用している施設に満足しているかー性別、年齢階級、障害名〔複数回答〕別

		総 数	満 と て も 満 足 し て い る	満 足 し て い る	満 だ い た い 満 足 し て い る	ふ つ う	不 満 で あ る	不 満 で あ る	不 満 で あ る	無 回 答
総数		100.0 (171)	21.6	22.8	27.5	16.4	3.5	1.8	1.2	5.3
			71.9				6.4			
性別	男	100.0 (96)	19.8	24.0	27.1	16.7	5.2	2.1	1.0	4.2
	女	100.0 (75)	24.0	21.3	28.0	16.0	1.3	1.3	1.3	6.7
年齢階級別	29歳以下	100.0 (23)	21.7	21.7	34.8	17.4	4.3	-	-	-
	30～39歳	100.0 (30)	20.0	30.0	13.3	20.0	6.7	3.3	-	6.7
	40～49歳	100.0 (35)	25.7	28.6	14.3	20.0	2.9	-	2.9	5.7
	50～59歳	100.0 (20)	25.0	5.0	45.0	15.0	-	10.0	-	-
	60～69歳	100.0 (13)	15.4	15.4	38.5	23.1	-	-	-	7.7
	70～79歳	100.0 (16)	12.5	31.3	37.5	-	-	-	6.3	12.5
	80歳以上	100.0 (34)	23.5	20.6	29.4	14.7	5.9	-	-	5.9
	(再掲)65歳以上	100.0 (56)	17.9	25.0	33.9	10.7	3.6	-	1.8	7.1
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (18)	33.3	22.2	27.8	11.1	-	5.6	-	-
	聴覚障害	100.0 (13)	15.4	23.1	30.8	7.7	7.7	-	-	15.4
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (16)	12.5	31.3	25.0	18.8	-	6.3	-	6.3
	肢体不自由(上肢)	100.0 (60)	18.3	28.3	28.3	13.3	5.0	1.7	1.7	3.3
	肢体不自由(下肢)	100.0 (56)	17.9	23.2	26.8	19.6	3.6	1.8	1.8	5.4
	肢体不自由(体幹)	100.0 (51)	27.5	23.5	31.4	13.7	-	-	-	3.9
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (75)	25.3	21.3	17.3	22.7	5.3	1.3	1.3	5.3
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (18)	22.2	22.2	33.3	5.6	5.6	-	5.6	5.6

注)身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数のため、省略した。

(3) 趣味や社会活動への参加〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

平成25年度調査よりも「活動をしたと思うができない」の割合が2.3ポイント減少、
「活動したいと思わない」が2.6ポイント減少

この1年間に行った趣味、学習、スポーツ、社会活動などについて聞いたところ、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、見物」の割合が27.0%、「スポーツやレジャーなどの活動」が18.1%となっている。

平成25年度調査と比べて、「活動をしたと思うができない」の割合が2.3ポイント減少し23.9%に、「活動したいと思わない」が2.6ポイント減少し17.9%となっている。(表II-7-3)

表II-7-3 趣味や社会活動への参加〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	見物 スポーツ などの鑑賞、	コンサート や映画、	スポーツ やレジャー	学習 活動	趣味のサークル 活動	NPO ボランティア 活動や	障害者団体 などの活動	参加 できる活動 場所が	活動 したいと思う が	活動 したいと思 わない	その他	無 回答
総数	100.0 (2,490)	27.0	18.1	7.7	16.2	6.7	5.7	2.9	23.9	17.9	8.5	3.7	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (357)	23.8	20.4	9.0	16.2	8.4	8.4	2.5	22.4	19.0	9.5	2.5
	聴覚障害	100.0 (359)	24.2	22.8	9.2	20.9	7.8	8.1	2.5	20.3	16.7	10.0	3.6
	平衡機能障害	100.0 (16)	37.5	6.3	6.3	18.8	6.3	12.5	6.3	18.8	6.3	31.3	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	31.0	18.4	9.6	16.3	7.5	11.3	3.8	23.4	15.1	7.1	2.9
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	26.6	13.1	7.0	12.4	4.6	5.7	3.9	28.4	18.8	9.0	4.4
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	28.8	15.8	6.5	17.2	5.7	5.7	3.1	26.6	16.3	8.8	3.8
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	23.0	12.6	7.1	13.8	5.6	10.4	4.5	30.9	16.0	10.0	4.1
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	36.7	21.3	11.3	15.0	6.7	15.0	2.1	19.2	10.8	11.7	4.2
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	24.6	18.5	7.0	15.7	7.0	1.3	2.4	23.8	21.0	7.4	3.8	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (79)	58.2	39.2	29.1	20.3	5.1	12.7	2.5	8.9	3.8	7.6	-
	30～39歳	100.0 (109)	49.5	33.9	11.0	12.8	9.2	11.0	4.6	11.9	7.3	10.1	0.9
	40～49歳	100.0 (209)	47.8	29.7	10.5	22.0	6.2	12.4	3.3	17.7	5.7	5.3	5.3
	50～59歳	100.0 (252)	37.7	25.0	9.5	9.5	7.9	7.1	3.6	21.4	15.5	7.9	2.8
	60～69歳	100.0 (394)	31.2	19.5	8.6	14.5	8.1	6.6	1.8	23.1	18.3	8.1	3.3
	70～79歳	100.0 (736)	22.8	16.0	6.3	19.2	7.6	5.3	3.3	24.7	20.0	8.0	3.4
	80歳以上	100.0 (711)	12.1	8.7	4.2	14.9	4.4	1.4	2.7	29.8	23.2	10.1	4.9
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,683)	19.3	13.4	5.8	16.6	6.5	3.7	2.7	26.4	21.4	8.9	4.1
平成25年度	100.0 (2,659)	27.8	18.9	7.7	14.2	5.6	5.6	2.3	26.2	20.5	7.3	3.9	

(4) 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

社会参加の妨げになっていることは、「電車やバスなどを使つての移動が不便」の割合が20.5%、「道路や駅などの利用が不便」が19.0%

社会参加をする上で妨げになっていることがあるか聞いたところ、「電車やバスなどを使つての移動が不便」の割合が20.5%、「道路や駅などの利用が不便」が19.0%となっている。一方で、「特にない」と答えた割合は43.4%となっている。

障害名別にみると、視覚障害では「道路や駅などの利用が不便」の割合が、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「電車やバスなどを使つての移動が不便」の割合がそれぞれ3割を超えている（31.1%、34.2%）。（表Ⅱ-7-4）

表Ⅱ-7-4 社会参加する上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

		総数	道路や駅などの利用が不便	電車やバスなどを使つての移動が不便	整備されていない	利用する建物の設備が	利用が古い、破損等により	介助者がいない	情報がない	参加連絡などの問合せができない	FAX番号やメールアドレスなど、連絡方法の整備がされていないため、	理解不足	まわりの人の障害者に対する拒否される	障害を理由に施設等の利用を	適切な指導者がいない	一緒に行く仲間がいない	通訳、文字表示、点字など配慮がされていない	配慮がされない※	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (2,490)	19.0	20.5	6.0	0.4	8.7	5.3	2.3	9.2	1.3	1.9	7.0	2.1	2.4	11.2	43.4	3.6			
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (357)	31.1	27.2	6.4	2.5	13.4	4.2	2.2	10.9	2.0	3.4	5.3	4.2	3.1	12.0	31.4	3.9			
	聴覚障害	100.0 (359)	10.6	13.1	2.8	-	7.2	10.9	8.6	14.8	1.1	3.3	7.8	7.0	2.2	11.1	44.6	1.9			
	平衡機能障害	100.0 (16)	6.3	25.0	-	-	25.0	12.5	-	18.8	6.3	6.3	6.3	-	-	6.3	43.8	6.3			
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	9.6	14.2	3.3	-	5.0	5.4	4.2	14.2	0.8	2.5	10.0	2.5	2.9	7.9	51.9	3.8			
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	26.4	28.4	8.7	0.2	12.9	4.6	0.4	11.4	2.0	2.4	8.5	0.7	2.6	15.1	31.0	5.0			
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	27.5	28.4	9.6	0.2	10.6	3.3	0.7	8.8	1.5	1.5	7.7	0.5	3.1	13.4	34.2	4.1			
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	26.4	28.6	12.3	-	19.0	5.2	-	11.9	3.0	2.2	5.2	0.7	1.9	12.3	25.7	7.4			
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	29.2	34.2	17.9	-	17.5	5.0	0.8	15.0	3.3	3.8	6.7	1.7	2.5	10.8	24.6	4.2			
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	11.2	14.1	3.1	-	4.9	4.2	0.8	5.3	0.3	0.8	6.0	0.4	1.8	10.8	55.7	3.4			
過(した)ところ別に	自分の家	100.0 (1,766)	19.8	21.3	5.1	0.3	8.0	4.8	2.2	7.4	0.8	1.6	7.8	1.5	1.9	11.8	44.9	2.7			
	職場(福祉的就労の施設を除く)	100.0 (354)	14.4	13.8	7.9	0.6	2.0	8.2	3.7	15.8	3.1	2.0	4.0	4.0	4.2	8.5	48.0	1.7			
	職場(福祉的就労の施設)	100.0 (38)	15.8	21.1	21.1	2.6	10.5	7.9	-	23.7	5.3	13.2	7.9	7.9	10.5	2.6	23.7	5.3			
	学校	100.0 (18)	33.3	22.2	16.7	-	-	11.1	11.1	16.7	5.6	5.6	-	16.7	-	-	38.9	-			
	通所施設(生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)	100.0 (133)	26.3	28.6	10.5	0.8	26.3	6.0	0.8	9.8	3.0	2.3	7.5	1.5	2.3	10.5	24.8	11.3			
	入所施設	100.0 (121)	10.7	17.4	2.5	-	20.7	2.5	-	8.3	-	0.8	4.1	1.7	1.7	15.7	40.5	9.1			
	その他	100.0 (27)	18.5	14.8	3.7	3.7	3.7	-	7.4	14.8	-	3.7	11.1	3.7	11.1	18.5	37.0	-			
平成25年度	100.0 (2,659)	17.4	19.0	5.8	0.4	8.8	4.7	2.1	8.3	0.9	2.1	7.0	2.7	...	11.1	46.6	3.2				

注) ※は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

(5) 障害のためにあきらめたり妥協したこと〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、障害者になった時期別

障害のためにあきらめたり妥協したことは「旅行や遠距離の外出」の割合が38.6%

障害のためにあきらめたり、妥協せざるを得なかったことを聞いたところ、「旅行や遠距離の外出」の割合が38.6%、「スポーツ・文化活動」が22.0%となっている。

障害名別にみると、「旅行や遠距離の外出」の割合は、視覚障害、肢体不自由（上肢）、肢体不自由（下肢）、肢体不自由（体幹）及び内部障害でいずれも4割を超えている。

(表Ⅱ-7-5)

表Ⅱ-7-5 障害のためにあきらめたり妥協したこと〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、障害者になった時期別

		総数	進学	就職	付き合 異性との 合い	結婚	出産・ 育児	人付 き合 い	近 距 離 の 外 出	旅行 や 遠 距 離 の 外 出	フ ァ ッ シ ョ ン な ど の お し ゃ れ	ス ポ ー ツ ・ 文 化 活 動	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数		100.0 (2,490)	4.8	13.4	6.8	7.3	3.3	15.7	18.6	38.6	7.8	22.0	2.2	37.3	3.0
身体障 害者 手帳 の障 害名 (複 数 回 答) 別	視覚障害	100.0 (357)	5.3	16.2	8.1	8.1	2.8	15.1	25.8	43.7	8.1	23.2	5.6	28.0	3.4
	聴覚障害	100.0 (359)	5.0	11.7	4.5	5.3	1.4	24.0	9.2	22.6	1.9	14.5	2.8	44.8	2.5
	平衡機能障害	100.0 (16)	12.5	12.5	18.8	18.8	12.5	25.0	31.3	37.5	12.5	25.0	6.3	37.5	6.3
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	4.6	13.4	7.1	7.9	3.8	26.8	16.7	32.6	6.3	19.7	0.8	38.1	2.9
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	7.9	17.7	11.4	12.9	5.9	18.8	26.9	46.1	15.7	27.3	2.2	27.7	3.7
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	4.6	12.7	8.0	9.2	3.6	17.3	24.0	46.1	11.9	29.4	1.6	30.2	2.8
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	11.5	23.4	14.1	14.5	9.3	20.8	35.3	50.6	16.0	27.9	1.1	22.3	4.5
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の 脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	22.5	30.4	28.3	31.3	13.3	23.8	21.7	39.2	15.4	23.3	2.9	25.8	4.6
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は 直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	1.3	8.8	2.4	2.5	2.0	7.8	13.3	41.1	3.9	19.4	1.3	43.9	2.7
	障 害 者 に な っ た 時 期 別	出生前または出生時	100.0 (348)	20.1	26.7	19.5	22.1	11.2	17.0	15.8	32.2	12.1	21.0	3.2	29.3
0～3歳		100.0 (104)	18.3	29.8	23.1	26.9	12.5	26.9	20.2	32.7	20.2	28.8	4.8	28.8	3.8
4～12歳		100.0 (55)	14.5	20.0	18.2	10.9	1.8	27.3	7.3	27.3	14.5	16.4	3.6	38.2	1.8
13～17歳		100.0 (28)	3.6	17.9	10.7	10.7	3.6	17.9	10.7	21.4	3.6	14.3	-	42.9	7.1
18～29歳		100.0 (80)	3.8	21.3	8.8	10.0	8.8	13.8	12.5	26.3	8.8	18.8	2.5	42.5	3.8
30～39歳		100.0 (136)	1.5	20.6	5.9	6.6	5.1	17.6	17.6	35.3	7.4	22.8	3.7	34.6	1.5
40～49歳		100.0 (223)	1.8	19.3	9.9	10.3	2.7	22.0	21.5	40.4	9.9	30.0	1.8	29.6	1.3
50～59歳		100.0 (388)	-	12.4	1.8	2.3	0.3	14.7	20.6	46.1	7.2	26.5	1.3	33.2	2.8
60～69歳		100.0 (429)	0.2	6.8	0.7	1.2	-	13.1	21.0	43.8	6.5	21.0	1.9	38.9	3.0
70歳以上		100.0 (559)	0.4	2.0	0.4	0.4	0.4	12.3	19.3	40.3	3.8	19.3	1.4	46.9	2.3
不明	100.0 (107)	6.5	15.0	11.2	9.3	4.7	15.0	15.0	33.6	2.8	11.2	4.7	43.0	4.7	
(再掲) 65歳以上	100.0 (756)	0.4	2.9	0.3	0.3	0.3	13.1	20.4	42.2	4.1	19.6	1.2	45.1	2.4	
平成25年度	100.0 (2,659)	4.6	12.9	5.6	6.4	3.0	16.2	19.3	39.9	8.1	22.0	3.7	36.7	2.8	

8 情報の入手やコミュニケーションの手段

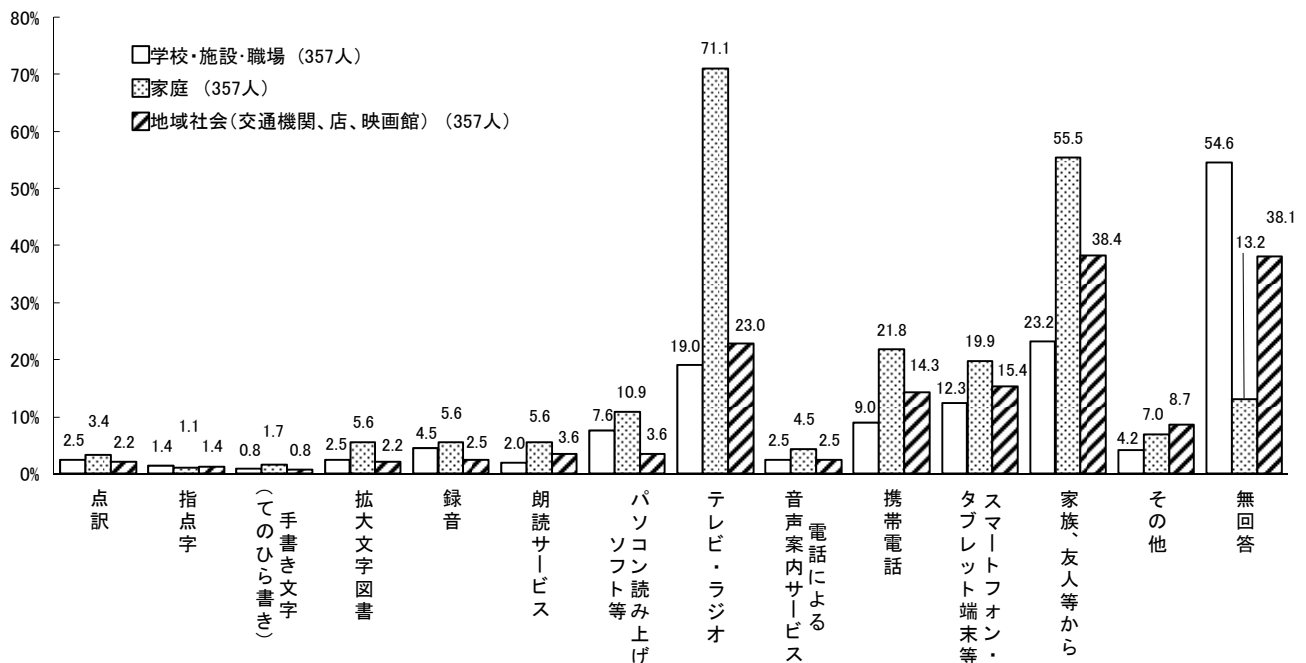
(1) 情報の入手やコミュニケーションの手段（視覚障害者）〔複数回答〕

※視覚障害者 357 人が対象

視覚障害者の情報の入手やコミュニケーションの手段は、「家庭」では「テレビ・ラジオ」の割合が 71.1%、「学校・施設・職場」及び「地域社会（交通機関、店、映画館）」では「家族、友人等から」の割合がそれぞれ 23.2%、38.4%

「学校・施設・職場」、「家庭」、「地域社会（交通機関、店、映画館）」のそれぞれの場所における情報の入手やコミュニケーションの手段について聞いた。「学校・施設・職場」及び「地域社会（交通機関、店、映画館）」では「家族、友人等から」の割合がそれぞれ 23.2%、38.4%となっている。「家庭」では「テレビ・ラジオ」の割合が 71.1%、「家庭、友人等から」が 55.5%となっている。（図Ⅱ-8-1）

図Ⅱ-8-1 情報の入手やコミュニケーションの手段（視覚障害者）〔複数回答〕



(2) 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること（視覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕

※視覚障害者 357 人が対象

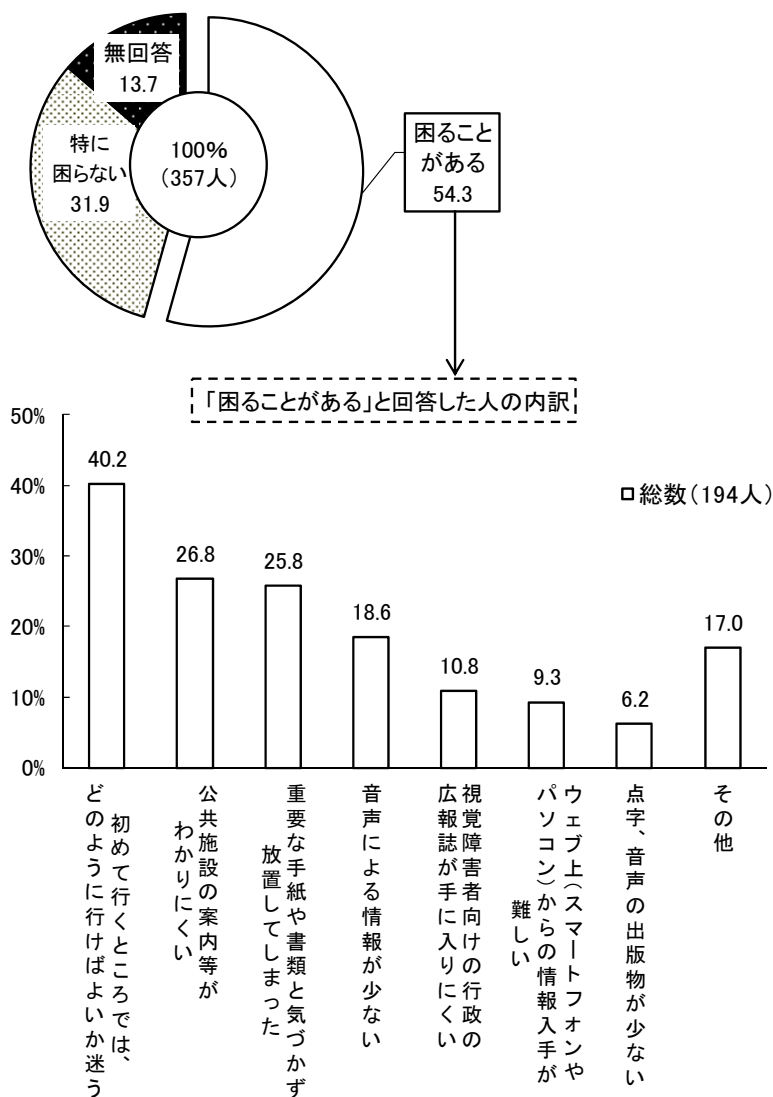
視覚障害者が情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が 40.2%

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」と答えた割合が 54.3%となっている。

困ることの内容では、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が 40.2%となっている。また、「その他」の割合が 17.0%で、その主な内容では「文字が読めない」、「書類の文字が小さい」等の意見が見られた。（図Ⅱ-8-2）

図Ⅱ-8-2 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること（視覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕



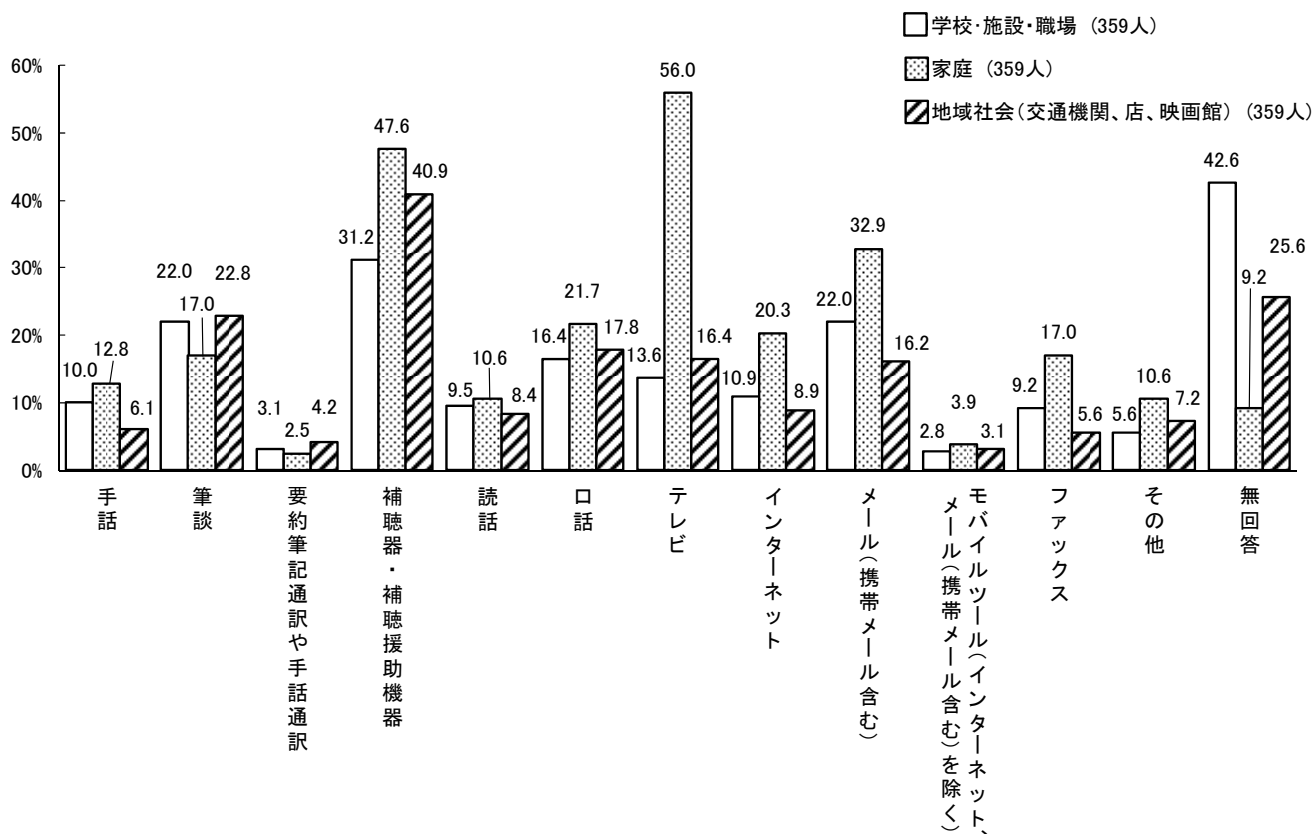
(3) 情報の入手やコミュニケーションの手段（聴覚障害者）〔複数回答〕

※聴覚障害者 359 人が対象

聴覚障害者の情報の入手やコミュニケーションの手段は、「家庭」では「テレビ」の割合が 56.0%、「学校・施設・職場」及び「地域社会（交通機関、店、映画館）」では「補聴器・補聴援助機器」の割合が 31.2%、40.9%

「学校・施設・職場」、「家庭」、「地域社会（交通機関、店、映画館）」のそれぞれの場所における情報の入手やコミュニケーションの手段について聞いた。「学校・施設・職場」及び「地域社会（交通機関、店、映画館）」では「補聴器・補聴援助機器」の割合がそれぞれ 31.2%、40.9%、「家庭」では「テレビ」が 56.0%となっている。（図Ⅱ-8-3）

図Ⅱ-8-3 情報の入手やコミュニケーションの手段（聴覚障害者）〔複数回答〕



(4) 情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ること（聴覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕

※聴覚障害者 359 人が対象

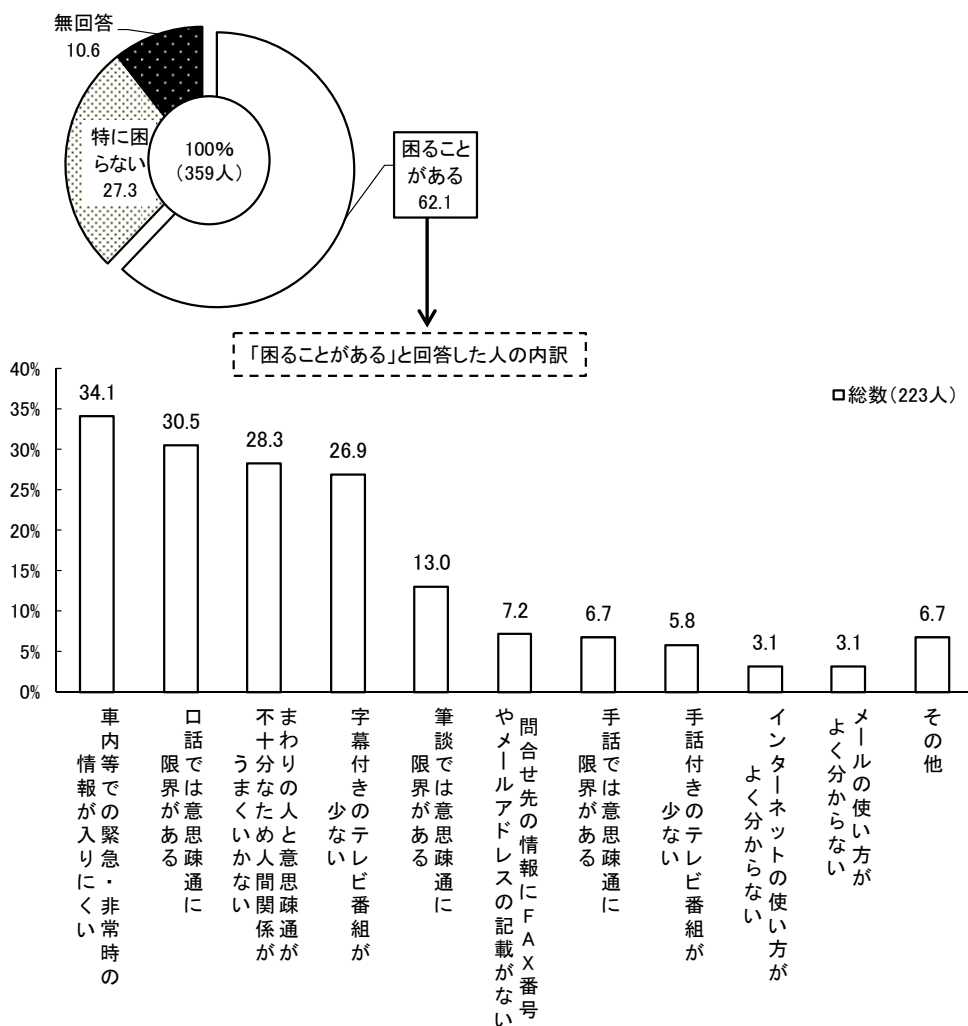
聴覚障害者が情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」及び「口話では意思疎通に限界がある」の割合がいずれも3割を超えている

情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」と答えた割合が62.1%となっている。

困ることの内容では、「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」の割合が34.1%、「口話では意思疎通に限界がある」が30.5%となっている。また、「その他」の割合が6.7%で、その主な内容では「電話の声が聞こえづらい」、「補聴器では聞き取れる音に限界がある」等の意見が見られた。（図Ⅱ-8-4）

図Ⅱ-8-4 情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ること（聴覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕



(5) 意思を伝える場合に困ること〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

障害があるため、意思を伝える場合に困ることは「会話」が28.9%

障害があるため、意思を伝える場合に困ることがあるか聞いたところ、「会話」が28.9%となっている。一方で、「困ることはない」の割合が60.1%となっている。

障害名別にみると、「会話」の割合は、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害が77.0%となっている。

年齢階級別にみると、「会話」の割合は、29歳以下及び30代では4割を超えている(46.8%、48.6%)。(表Ⅱ-8-1)

表Ⅱ-8-1 意思を伝える場合に困ること〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	会話	筆記	その他	は困らないこと	無回答
総数		100.0 (2,490)	28.9	15.7	2.6	60.1	3.5
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (357)	14.3	31.4	3.6	54.6	3.9
	聴覚障害	100.0 (359)	64.6	18.1	3.9	28.1	2.2
	平衡機能障害	100.0 (16)	37.5	43.8	6.3	31.3	6.3
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	77.0	28.5	2.1	16.3	2.5
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	32.8	21.4	4.4	54.8	3.9
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	22.7	14.2	2.5	68.6	3.4
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	35.7	22.7	6.3	49.8	5.9
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	54.6	33.8	7.1	33.3	3.8
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	8.4	4.8	1.0	85.3	3.5
年齢階級別	29歳以下	100.0 (79)	46.8	31.6	5.1	46.8	-
	30～39歳	100.0 (109)	48.6	23.9	2.8	44.0	1.8
	40～49歳	100.0 (209)	34.0	22.0	3.8	52.2	5.3
	50～59歳	100.0 (252)	28.2	20.6	3.6	54.4	3.6
	60～69歳	100.0 (394)	27.7	17.3	2.3	61.2	3.3
	70～79歳	100.0 (736)	21.5	11.7	1.6	68.2	3.7
	80歳以上	100.0 (711)	30.9	12.2	2.7	59.4	3.5
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,683)	26.4	12.8	2.1	63.3	3.4

(6) 情報の入手やコミュニケーションを円滑にするために利用している日常生活用具

〔複数回答〕－障害名別〔複数回答〕

日常生活用具にちじょうせいかつようぐを利用している割合は8.4%りようわりあい

情報を入力したり、コミュニケーションを円滑にするために利用している日常生活用具があるか聞いたところ、「利用しているものがある」の割合が8.4%、「利用したいものはない」が73.4%、「利用したいものはあるが、メニューにない」が4.5%となっている。

障害名別にみると、「視覚障害」及び「音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害」では、「利用しているものがある」の割合が2割を超えている(21.0%、26.8%)。利用している日常生活用具は、「視覚障害」では「盲人用時計」の割合が8.7%、「音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害」では「人工喉頭」が16.7%となっている。(表Ⅱ-8-2)

表Ⅱ-8-2 情報の入手やコミュニケーションを円滑にするために利用している

日常生活用具〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

	総数	利用しているものがある	日常生活用具〔複数回答〕別								
			携帯用会話補助装置	情報・通信支援用具	点字ディスプレイ	点字器	点字タイプライター	ポータブルレコーダー	視覚障害者用文書読上げ装置	視覚障害者用活字読書器	視覚障害者用拡大
総数	100.0 (2,490)	8.4	0.7	0.8	0.3	0.4	0.2	0.8	0.6	1.0	1.2
視覚障害	100.0 (357)	21.0	-	4.2	2.0	2.8	1.7	5.6	4.5	7.3	8.7
聴覚障害	100.0 (359)	16.4	0.3	0.3	-	0.3	0.3	-	-	-	0.3
平衡機能障害	100.0 (16)	18.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	26.8	7.5	0.4	-	-	-	-	-	-	-
肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	2.6	-	1.1	-	-	-	-	-	-	-
肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	1.8	-	0.5	-	-	-	-	-	-	-
肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	1.5	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	4.2	-	1.7	-	-	-	-	-	-	-
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	1.5	-	0.3	-	-	-	0.3	0.3	0.3	-

(次ページに続く)

表Ⅱ-8-2 情報の入手やコミュニケーションを円滑にするために利用している

日常生活用具〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別（続）

	聴覚障害者用通信装置	聴覚障害者用情報受信装置	人工喉頭	福祉電話（貸与）	ファックス（貸与）	視覚障害者用ワードプロセッサ	点字図書	その他	利用したいものはないが、メニューにはない	利用したいものはない	無回答
	総数	1.2	0.8	1.6	0.1	0.8	0.1	0.4	1.3	4.5	73.4
視覚障害	0.6	-	-	-	-	0.8	2.8	3.1	6.4	60.8	12.6
聴覚障害	8.4	5.8	0.6	-	4.5	-	-	1.9	7.0	57.1	19.5
平衡機能障害	6.3	6.3	6.3	-	-	-	-	6.3	18.8	56.3	6.3
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	0.4	0.4	16.7	0.4	1.3	-	-	2.9	4.2	60.7	8.8
肢体不自由(上肢)	0.2	0.4	-	0.4	-	-	-	0.9	5.0	75.3	17.0
肢体不自由(下肢)	-	-	0.2	0.3	0.3	-	-	0.7	6.0	77.1	15.0
肢体不自由(体幹)	-	-	-	0.4	-	-	-	1.1	7.1	70.6	20.8
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	0.4	0.4	-	0.8	-	-	-	1.7	5.8	72.5	17.5
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	-	-	0.1	0.1	0.3	0.1	0.1	0.3	2.7	83.8	12.0

9 障害者総合支援法による障害福祉サービス等

(1) 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

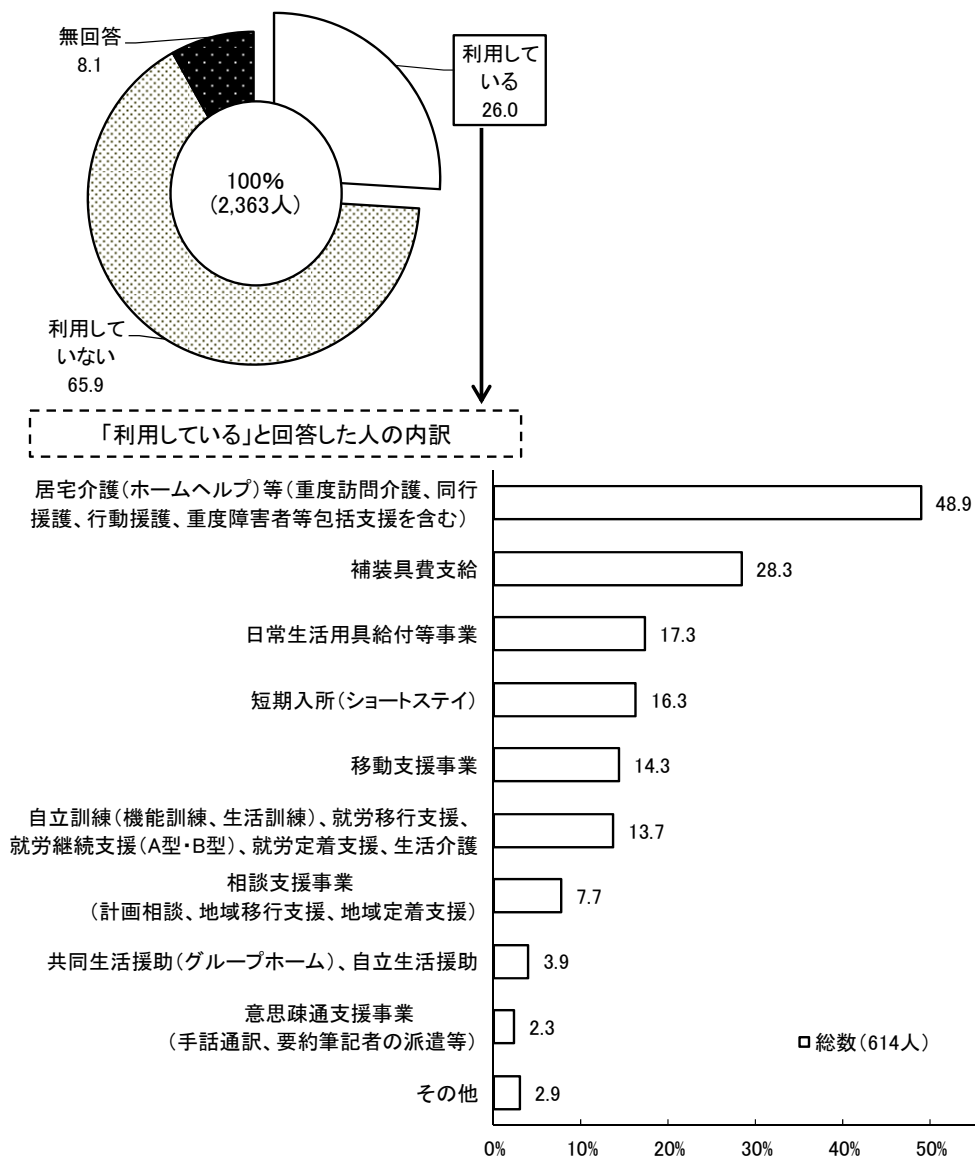
※在宅で生活している2,363人が対象

障害者総合支援法による障害福祉サービスを「利用している」割合は26.0%で、
 利用した内容では「居宅介護（ホームヘルプ）等」の割合が48.9%

過去1年間に障害者総合支援法による障害福祉サービスを利用したか聞いたところ、「利用している」の割合が26.0%、「利用していない」が65.9%となっている。

利用した内容では、「居宅介護（ホームヘルプ）等」の割合が48.9%、「補装具費支給」が28.3%となっている。（図Ⅱ-9-1）

図Ⅱ-9-1 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕



(2) 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）を障害名別にみると、「利用している」割合は、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）が63.7%となっている。利用したサービス内容では「居宅介護（ホームヘルプ）等」の割合が40.1%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下、30代及び40代では、「利用している」割合がいずれも4割を超えている（45.5%、48.1%、41.4%）。（表Ⅱ-9-1）

表Ⅱ-9-1 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	障害者総合支援法によるサービス											障害者総合支援法によるサービスを利用していない	無回答	
		利用者総数	居宅介護（ホームヘルプ）等	短期入所（ショートステイ）	自立訓練（機能訓練、生活訓練）	自立生活援助（グループホーム）	共同生活援助	補装具費支給	相談・支援事業（計画相談、地域移行）	筆記者の派遣等	意思疎通支援事業（手話通訳、要約）	日常生活用具給付等事業			移動支援事業
総数	100.0 (2,363)	26.0	12.7	4.2	3.6	1.0	7.4	2.0	0.6	4.5	3.7	0.8	65.9	8.1	
身体障害者手帳の障害名（複数回答）別	視覚障害	100.0 (341)	33.4	18.2	2.6	3.2	0.3	5.9	1.8	0.6	5.6	6.2	-	59.5	7.0
	聴覚障害	100.0 (345)	22.9	4.9	1.2	2.0	0.6	11.3	0.6	3.8	3.5	0.9	0.6	68.1	9.0
	平衡機能障害	100.0 (14)	7.1	7.1	-	-	-	-	-	-	-	7.1	-	71.4	21.4
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (233)	22.7	8.6	3.9	4.3	0.9	5.2	3.0	-	4.7	2.1	2.1	67.8	9.4
	肢体不自由(上肢)	100.0 (417)	39.6	21.8	9.8	7.7	2.4	9.8	4.6	-	6.0	7.0	1.0	51.8	8.6
	肢体不自由(下肢)	100.0 (574)	31.4	17.6	6.1	3.8	1.6	8.7	3.0	-	4.9	3.7	1.0	61.1	7.5
	肢体不自由(体幹)	100.0 (229)	52.8	29.3	16.2	8.7	2.6	12.7	4.8	-	11.4	12.7	1.7	42.4	4.8
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (212)	63.7	40.1	18.9	14.6	6.1	17.9	11.3	-	10.4	17.5	1.4	30.7	5.7	
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (696)	14.7	7.0	1.1	0.7	0.1	4.9	0.4	-	2.4	1.3	0.3	76.9	8.5	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (77)	45.5	22.1	15.6	13.0	2.6	14.3	13.0	1.3	10.4	23.4	-	45.5	9.1
	30～39歳	100.0 (106)	48.1	17.0	14.2	15.1	2.8	21.7	9.4	0.9	4.7	13.2	2.8	43.4	8.5
	40～49歳	100.0 (191)	41.4	18.8	8.4	6.8	4.2	15.2	6.3	0.5	7.9	11.5	1.6	49.2	9.4
	50～59歳	100.0 (239)	31.4	12.6	2.9	5.0	1.3	10.5	2.5	1.3	6.3	3.3	-	61.5	7.1
	60歳以上	100.0 (1,750)	21.4	11.4	2.9	1.9	0.5	4.9	0.5	0.5	3.6	1.5	0.7	70.6	8.0
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,600)	21.1	11.2	2.8	1.8	0.3	4.8	0.3	0.5	3.5	1.5	0.7	70.9	7.9

(3) 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

－介護保険制度の利用の有無別

※在宅で生活している40歳以上の2,180人が対象

障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）を介護保険制度の利用の有無別にみると、介護保険制度を「利用している」人では、障害者総合支援法によるサービスを「利用している」人の割合が44.2%となっている。一方、介護保険制度を「利用していない」人では、障害者総合支援法によるサービスを「利用している」人の割合が16.8%となっている。（表Ⅱ-9-2）

表Ⅱ-9-2 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

－介護保険制度の利用の有無別

	総数	障害者総合支援法による障害福祉サービスの利用												無回答	
		利用している	居宅介護（ホームヘルプ）等 （重度訪問介護、同行支援、行動援 護、重度障害者等包括支援を含む）	短期入所（ショートステイ）	・就労移行支援、就労定着支援、生活介護 （B型）	自立訓練（機能訓練、生活訓練） （A型）	自立生活援助（グループホーム）	共同生活援助（グループホーム）	補装具費支給	相談支援事業（計画相談、地域移行 支援、地域定着支援）	筆記者の派遣等	意思疎通支援事業（手話通訳、要約 筆記者の派遣等）	日常生活用具給付等事業		移動支援事業
総数	100.0 (2,180)	24.2	12.2	3.3	2.7	0.9	6.4	1.2	0.6	4.3	2.6	0.7	67.8	8.0	
介護保険制度の利用の有無別	利用している	100.0 (602)	44.2	29.7	8.1	4.8	0.5	5.1	1.0	0.3	6.3	2.8	1.8	46.8	9.0
	ホームヘルプサービス （訪問介護）	100.0 (241)	60.2	54.4	5.8	4.1	0.4	3.7	-	0.4	6.2	3.3	1.7	33.2	6.6
	訪問入浴介護	100.0 (88)	60.2	51.1	13.6	5.7	-	4.5	1.1	-	5.7	4.5	-	31.8	8.0
	訪問看護	100.0 (100)	56.0	47.0	11.0	7.0	1.0	5.0	2.0	-	6.0	3.0	-	32.0	12.0
	訪問リハビリテーション	100.0 (99)	58.6	43.4	12.1	8.1	-	8.1	-	1.0	8.1	3.0	2.0	36.4	5.1
	デイサービス （通所介護）	100.0 (209)	40.7	23.0	16.3	6.7	0.5	3.8	1.4	0.5	6.2	2.9	1.0	51.7	7.7
	デイケア （通所リハビリテーション）	100.0 (117)	38.5	18.8	11.1	8.5	-	2.6	1.7	0.9	9.4	1.7	3.4	54.7	6.8
	ショートステイ （短期入所生活介護）	100.0 (55)	70.9	38.2	60.0	9.1	-	5.5	3.6	-	5.5	3.6	-	27.3	1.8
	その他	100.0 (39)	38.5	25.6	2.6	-	-	2.6	-	2.6	12.8	10.3	-	51.3	10.3
	在宅サービスは受けて いない	100.0 (64)	25.0	6.3	1.6	4.7	-	7.8	-	-	7.8	1.6	1.6	64.1	10.9
利用していない	100.0 (1,520)	16.8	5.5	1.6	1.9	1.0	7.0	1.3	0.7	3.6	2.4	0.3	77.2	5.9	

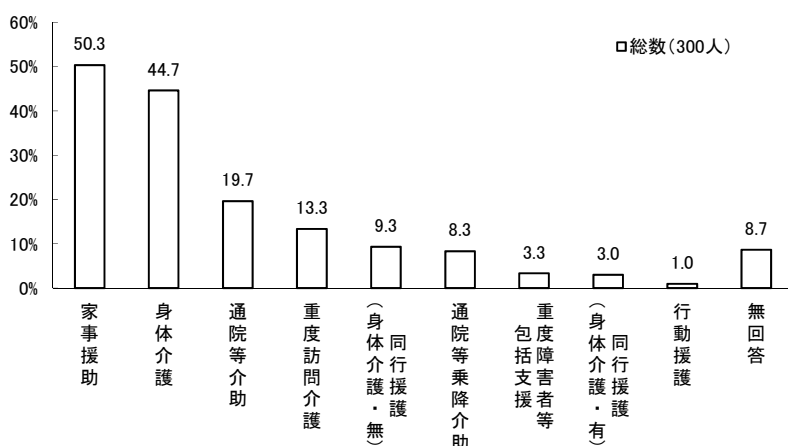
(4) 居宅介護等のサービスの種類〔複数回答〕

※居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者包括支援を含む）を利用している 300 人が対象

利用した居宅介護等のサービスの種類は「家事援助」が 50.3%

障害者総合支援法による障害福祉サービスで居宅介護等を利用した人に、利用したサービスの種類を聞いたところ、「家事援助」が 50.3%、「身体介護」が 44.7%となっている。（図Ⅱ-9-2）

図Ⅱ-9-2 居宅介護等のサービスの種類〔複数回答〕



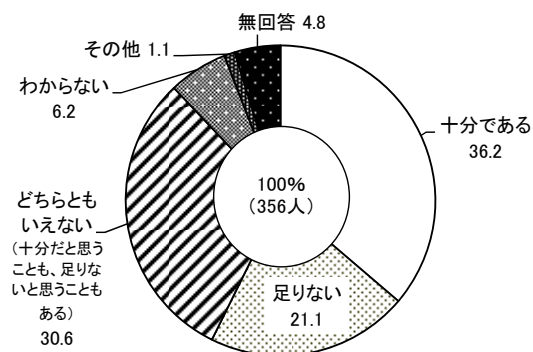
(5) サービス支給量は十分か（居宅介護等、短期入所）

※居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者包括支援を含む）、短期入所（ショートステイ）を利用している 356 人が対象

サービス支給量が「十分である」と思っている人の割合が 36.2%

障害者総合支援法による障害福祉サービスで居宅介護（ホームヘルプ）等及び短期入所（ショートステイ）を利用した人に支給量は十分か聞いたところ、「十分である」が 36.2%、「足りない」が 21.1%、「どちらともいえない」が 30.6%となっている。（図Ⅱ-9-3）

図Ⅱ-9-3 サービス支給量は十分か（居宅介護等、短期入所）



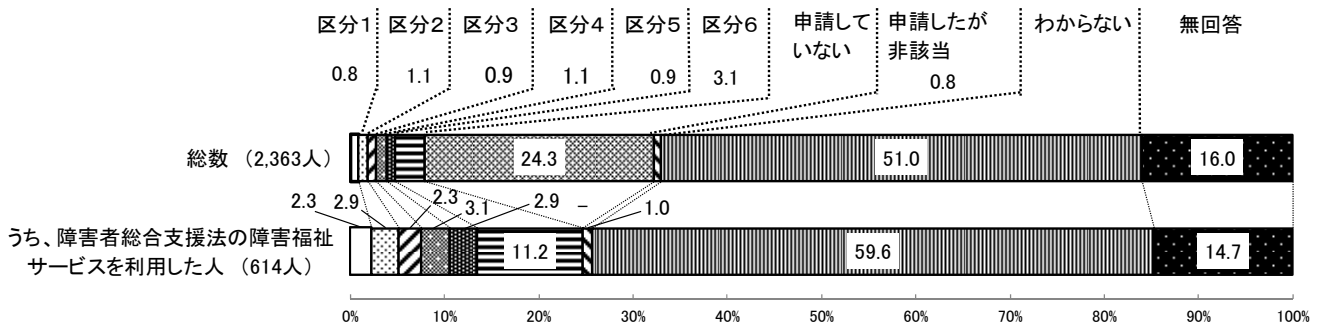
(6) 障害者総合支援法における障害支援区分

※在宅で生活している（福祉ホーム、グループホームを含む）2,363人が対象

障害支援区分は「区分6」の割合が3.1%

障害支援区分を聞いたところ、「区分6」の割合が3.1%となっている。一方で、「申請していない」の割合が24.3%、「わからない」が51.0%となっている。（図Ⅱ-9-4）

図Ⅱ-9-4 障害者総合支援法における障害支援区分



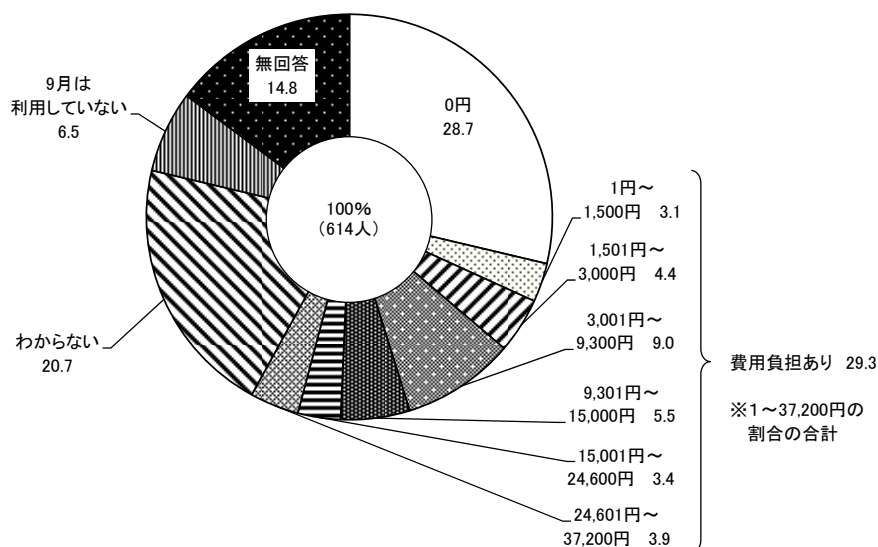
(7) 障害者総合支援法における障害福祉サービスの費用負担

※過去1年間に障害者総合支援法のサービスを利用した614人が対象

障害者総合支援法による障害福祉サービスの費用負担は「0円」の割合が28.7%

障害者総合支援法による障害福祉サービスの平成30年9月の費用負担額（食費等実費負担は除く）を聞いたところ、「0円」の割合が28.7%となっている。一方で、「費用負担がある人（1円～37,200円）」の割合が29.3%となっている。（図Ⅱ-9-5）

図Ⅱ-9-5 障害者総合支援法における障害福祉サービスの費用負担



(8) 介護保険制度の利用の有無－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※調査基準日現在 40 歳以上の 2,302 人が対象

介護保険制度を利用している人は 28.9%

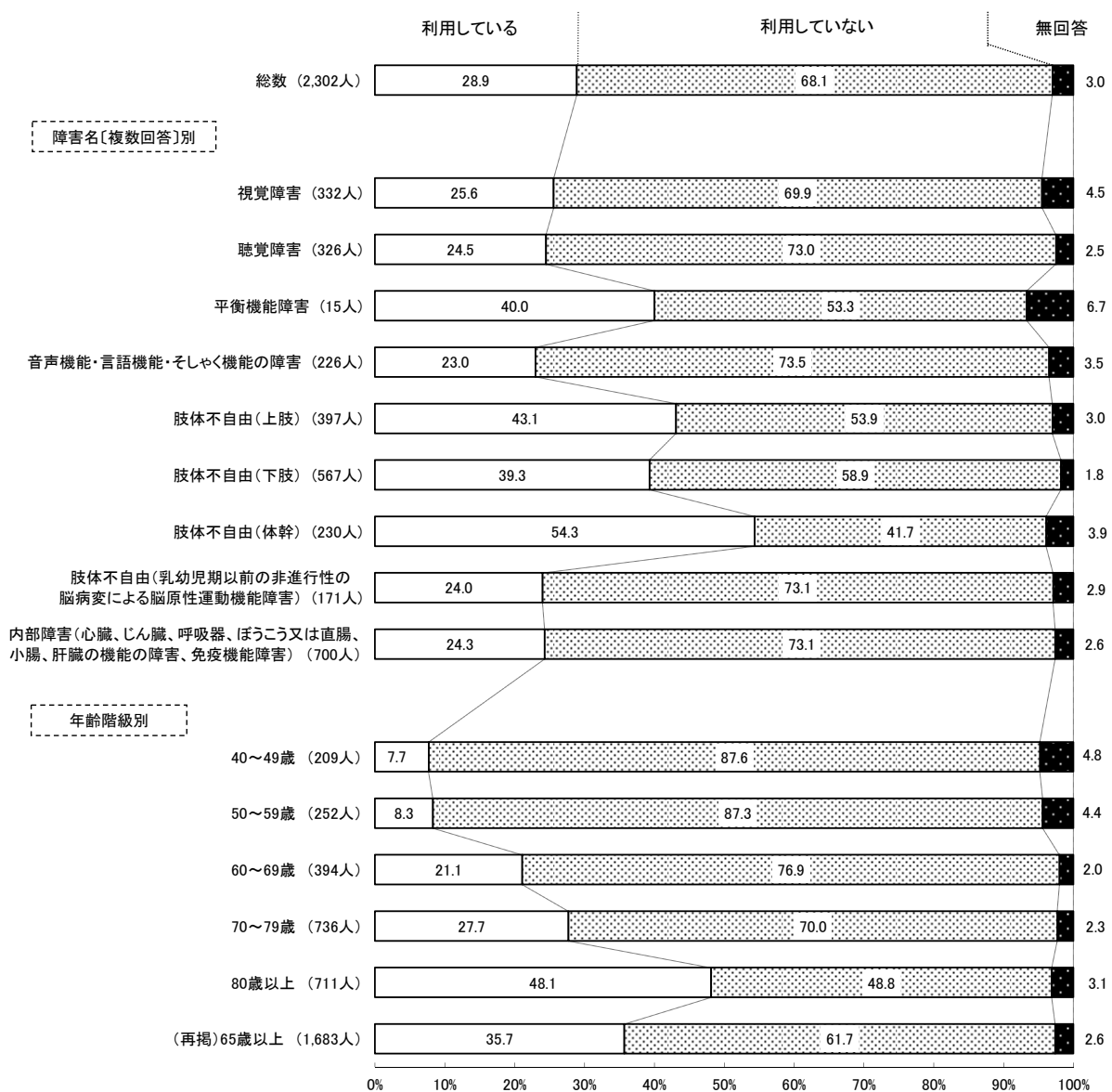
介護保険制度の利用状況を聞いたところ、「利用している」の割合が 28.9%、「利用していない」が 68.1%となっている。

障害名別にみると、肢体不自由（体幹）では「利用している」の割合が 54.3%となっている。

年齢階級別にみると、80 歳以上では、「利用している」の割合が 48.1%となっている。

(図Ⅱ-9-6)

図Ⅱ-9-6 介護保険制度の利用の有無－障害名〔複数回答〕、年齢階級別



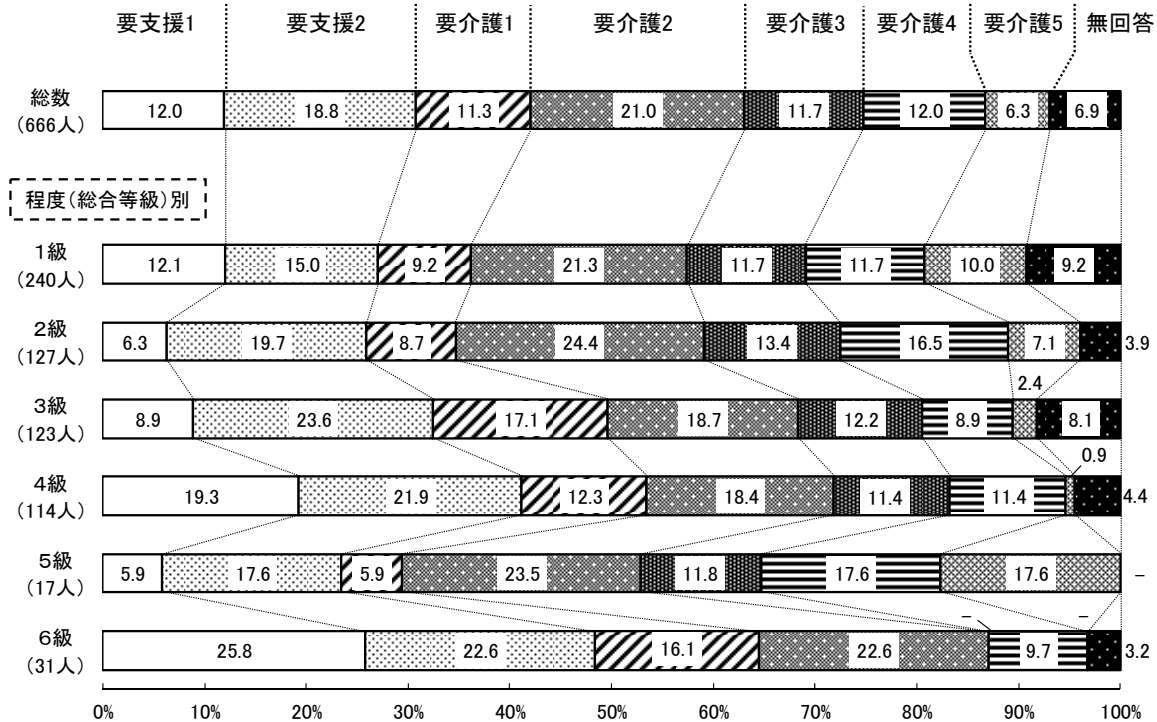
(9) 介護保険制度の要介護度－身体障害者手帳の程度（総合等級）別

※介護保険制度を利用している 666 人が対象

介護保険を利用している人の要介護度は「要介護2」の割合が 21.0%

介護保険制度を利用している人の要介護度を聞いたところ、「要介護2」の割合が 21.0%、「要支援2」が 18.8%となっている。（図Ⅱ-9-7）

図Ⅱ-9-7 介護保険制度の要介護度－身体障害者手帳の程度（総合等級）別



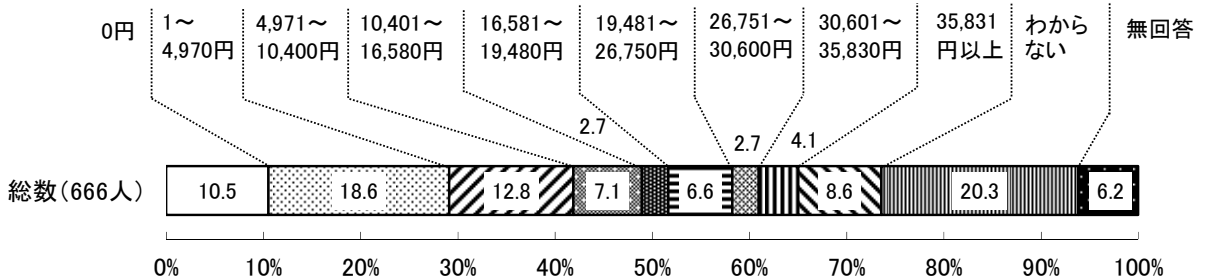
(10) 介護保険法におけるサービスの費用負担

※介護保険制度を利用している 666 人が対象

介護保険法におけるサービスの費用負担は「1～4,970円」の割合が 18.6%

介護保険法におけるサービスの費用負担額は「1～4,970円」の割合が 18.6%、「4,971～10,400円」が 12.8%、「0円」が 10.5%となっている。（図Ⅱ-9-8）

図Ⅱ-9-8 介護保険法におけるサービスの費用負担



(11) 介護保険で受けている在宅サービス〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別

※介護保険制度を利用している 666 人が対象

介護保険で受けている在宅サービスは「ホームヘルプサービス」の割合が 36.8%

介護保険制度を利用している人に、どのような内容の在宅サービスを受けているか聞いたところ、「ホームヘルプサービス（訪問介護）」の割合が 36.8%、「デイサービス（通所介護）」が 31.8%となっている。

障害名別にみると、「ホームヘルプサービス（訪問介護）」の割合は、「視覚障害」及び「肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）」では 5 割を超えている（50.6%、53.7%）。

介護保険の要介護度別にみると、「訪問看護」の割合は、要介護 5 の人が 45.2%となっている。（表Ⅱ-9-3）

表Ⅱ-9-3 介護保険で受けている在宅サービス〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別

	総数	ホームヘルプサービス（訪問介護）	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	デイサービス（通所介護）	デイケア（通所リハビリテーション）	ショートステイ（短期入所生活介護）	その他	在宅サービスは受けていない	無回答	
総数	100.0 (666)	36.8	13.4	15.3	14.9	31.8	17.9	8.3	6.6	15.3	4.4	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (85)	50.6	12.9	15.3	8.2	24.7	5.9	5.9	1.2	17.6	4.7
	聴覚障害	100.0 (80)	32.5	12.5	8.8	6.3	46.3	18.8	12.5	7.5	22.5	2.5
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (100)	26.9	11.5	19.2	13.5	26.9	23.1	11.5	7.7	13.5	5.8
	肢体不自由(上肢)	100.0 (171)	39.2	18.1	15.2	21.6	39.8	29.8	13.5	4.1	9.4	3.5
	肢体不自由(下肢)	100.0 (223)	36.8	13.5	13.5	17.9	30.9	24.2	9.4	4.5	14.3	4.5
	肢体不自由(体幹)	100.0 (125)	28.0	16.0	20.8	24.0	34.4	21.6	11.2	4.0	16.0	7.2
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (41)	53.7	24.4	19.5	9.8	26.8	4.9	14.6	14.6	7.3	7.3
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (170)	34.1	12.9	16.5	11.2	28.2	11.2	4.1	9.4	19.4	2.9
介護保険の要介護度別	要支援1	100.0 (80)	28.8	-	8.8	5.0	25.0	11.3	-	6.3	28.8	2.5
	要支援2	100.0 (125)	43.2	5.6	8.8	10.4	22.4	19.2	2.4	4.0	14.4	4.0
	要介護1	100.0 (75)	32.0	6.7	12.0	10.7	38.7	30.7	9.3	4.0	5.3	4.0
	要介護2	100.0 (140)	32.1	15.7	15.7	12.9	41.4	21.4	11.4	7.9	10.7	0.7
	要介護3	100.0 (78)	32.1	24.4	12.8	17.9	30.8	14.1	7.7	5.1	17.9	9.0
	要介護4	100.0 (80)	37.5	22.5	26.3	30.0	35.0	18.8	15.0	8.8	16.3	3.8
	要介護5	100.0 (42)	54.8	31.0	45.2	28.6	28.6	11.9	19.0	14.3	16.7	9.5

注) 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数のため、省略した。

(12) 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容

－障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別

※介護保険でホームヘルプサービスを受けている 245 人が対象

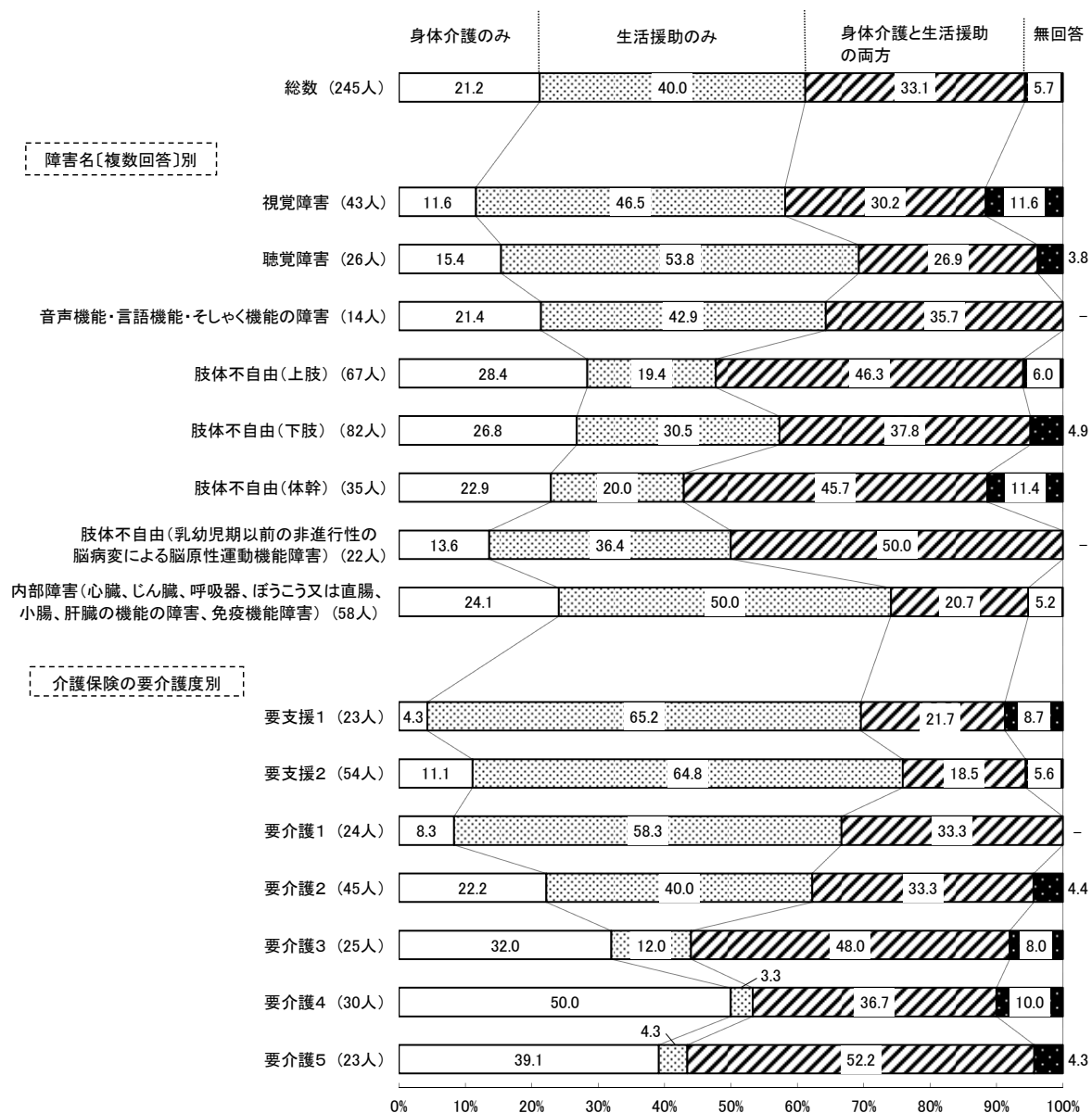
介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容は「生活援助のみ」の割合が 40.0%

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容を聞いたところ、「生活援助のみ」の割合が 40.0%、「身体介護と生活援助の両方」が 33.1%となっている。

介護保険の要介護度別にみると、要介護 5 の人では「身体介護と生活援助の両方」の割合が 5 割を超えている。（図 II-9-9）

図 II-9-9 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容

－障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別



注) 障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、該当者がいないため、省略した。

(13) 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていること〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※介護保険でホームヘルプサービスを受けている 245 人が対象

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていることは「1回の訪問介護の時間が短い」の割合が23.3%

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていることがあるか聞いたところ、「困っていることがある」の割合が41.6%、「困っていることは特にない」が53.1%となっている。困っていることの内容は、「1回の訪問介護の時間が短い」の割合が23.3%、「希望するサービスが受けられない」が9.4%となっている。

障害名別にみると、「困っていることがある」の割合は、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）が77.3%で最も高くなっている。（表Ⅱ-9-4）

表Ⅱ-9-4 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていること〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	困っていることがある	1回の訪問介護の時間が短い	訪問介護が1日に何回かに分けられている	家族が受けるので訪問介護が受けられない	希望するサービスが受けられない	時間延長を希望しても受けられない	訪問介護員が代わってしまふ	外出をしたらなくても対応	その他	困っていないことは	無回答	
													割合
総数	100.0 (245)	41.6	23.3	3.7	0.8	9.4	8.6	9.0	7.3	9.0	53.1	5.3	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (43)	46.5	25.6	7.0	-	14.0	9.3	9.3	14.0	11.6	46.5	7.0
	聴覚障害	100.0 (26)	38.5	26.9	3.8	-	3.8	11.5	-	3.8	7.7	61.5	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (14)	50.0	28.6	-	-	14.3	-	7.1	14.3	7.1	50.0	-
	肢体不自由(上肢)	100.0 (67)	46.3	29.9	10.4	3.0	9.0	7.5	9.0	6.0	9.0	50.7	3.0
	肢体不自由(下肢)	100.0 (82)	46.3	26.8	8.5	2.4	9.8	9.8	8.5	11.0	13.4	47.6	6.1
	肢体不自由(体幹)	100.0 (35)	45.7	31.4	2.9	-	17.1	20.0	14.3	11.4	11.4	48.6	5.7
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (22)	77.3	40.9	9.1	-	9.1	22.7	18.2	-	18.2	22.7	-
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (58)	29.3	10.3	1.7	-	5.2	1.7	6.9	1.7	5.2	67.2	3.4
年齢階級別	40～59歳	100.0 (14)	42.9	21.4	7.1	-	14.3	21.4	-	14.3	-	50.0	7.1
	60～69歳	100.0 (37)	51.4	29.7	5.4	-	13.5	10.8	10.8	10.8	5.4	48.6	-
	70～79歳	100.0 (73)	46.6	26.0	5.5	2.7	6.8	12.3	15.1	8.2	13.7	47.9	5.5
	80歳以上	100.0 (121)	35.5	19.8	1.7	-	9.1	4.1	5.8	5.0	8.3	57.9	6.6
	(再掲)65歳以上	100.0 (223)	41.3	22.9	2.7	0.9	9.4	7.6	9.4	7.2	9.9	53.4	5.4

注) 障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、該当者がいないため、省略した。

10 施設入所（施設入所者対象）

※調査基準日現在、施設に入所している 121 人が対象

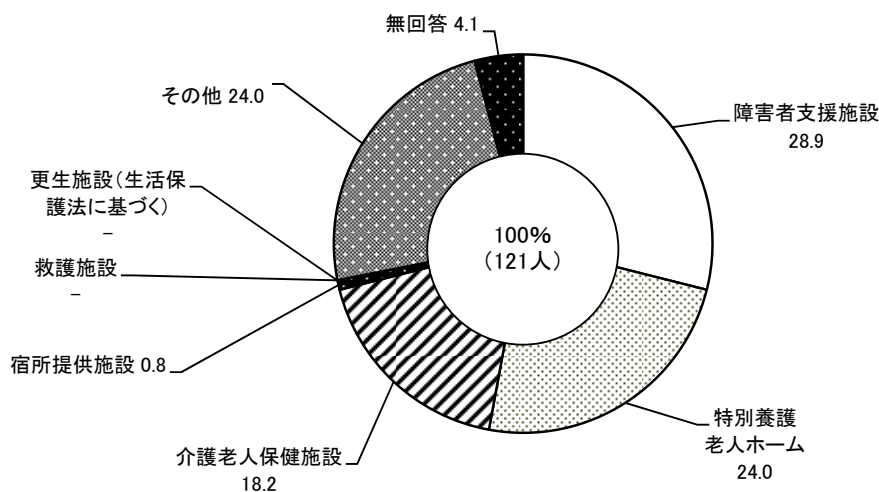
（1）入所している施設の種類の種類

現在入所している施設は「障害者支援施設」の割合が 28.9%

調査基準日現在、入所している施設を聞いたところ、「障害者支援施設」の割合が 28.9%、「特別養護老人ホーム」が 24.0%、「介護老人保健施設」が 18.2%となっている。

（図Ⅱ-10-1）

図Ⅱ-10-1 入所している施設の種類の種類



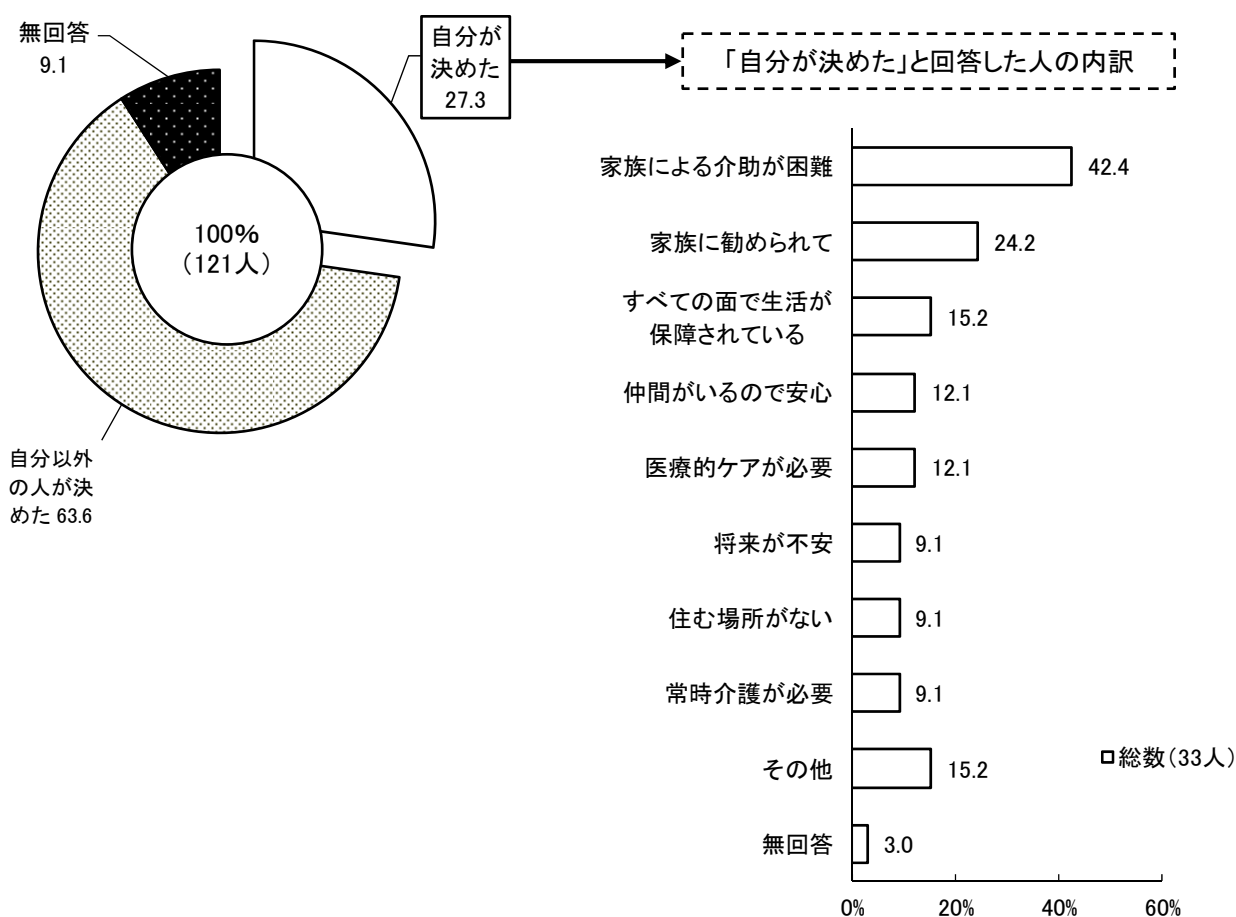
(2) 入所を決めた人とその理由

入所を「自分が決めた」人は27.3%。入所を決めた理由は「家族による介助が困難」の割合が42.4%

入所を決めた人は誰か聞いたところ、「自分が決めた」割合が27.3%、「自分以外の人が決めた」が63.6%となっている。

また、自分が施設入所を決めた人(33人)にその理由を聞いたところ、「家族による介助が困難」の割合が42.4%、「家族に勧められて」が24.2%となっている。(図Ⅱ-10-2)

図Ⅱ-10-2 入所を決めた人とその理由

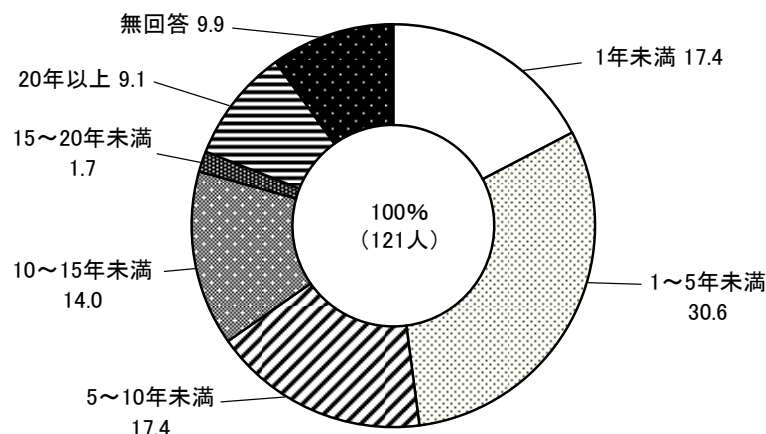


(3) 入所年数

今の施設に入ってから^{いま しせつ はい}の年数^{ねんすう}は、「1～5年未^{ねんみ}満^{まん}」の割合^{わりあい}が30.6%

今の施設に入ってから^{いま しせつ はい}の年数^{ねんすう}を聞いたところ、「1～5年未^{ねんみ}満^{まん}」の割合^{わりあい}が30.6%となっている。(図Ⅱ-10-3)

図Ⅱ-10-3 入所年数



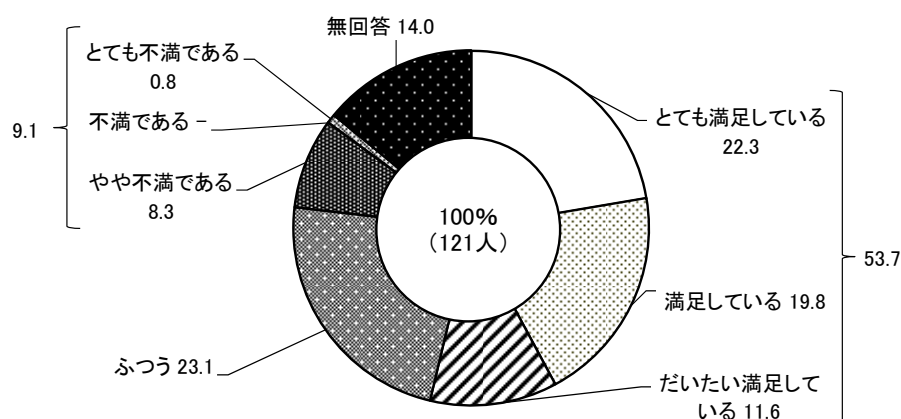
(4) 施設での生活に満足しているか

施設^{しせつ}での生活^{せいかつ}に満足^{まんぞく}している（「とても満足^{まんぞく}している」+「満足^{まんぞく}している」+「だいたい満足^{まんぞく}している」）割合^{わりあい}は53.7%。そのうち、「とても満足^{まんぞく}している」割合^{わりあい}は22.3%

今の施設での生活に満足しているか聞いたところ、「とても満足している」と答えた割合は22.3%で、「満足している」(19.8%)及び「だいたい満足している」(11.6%)と合わせると、53.7%となっている。

一方で、不満である（「やや不満である」(8.3%)、「不満である」(回答者なし)、「とても不満である」(0.8%)の合計）と答えた割合は9.1%となっている。(図Ⅱ-10-4)

図Ⅱ-10-4 施設での生活に満足しているか



11 その他の福祉サービス等

(1) 将来暮らしたいところ一年齢階級、現在の生活の場別

将来暮らしたいところは「家族が住んでいる家」の割合が最も高いが、29歳以下では「家族から独立して生活」が2割を超えている

将来どこで暮らしたいか聞いたところ、「家族が住んでいる家」の割合が55.9%で最も高くなっている。

年齢階級別にみると、29歳以下では「家族から独立して生活（施設入所、グループホーム等での生活を除く）」の割合が27.8%となっている。

現在の生活の場別にみると、現在施設に入所している人では「施設に入所して生活」の割合が5割を超えている。（表Ⅱ-11-1）

表Ⅱ-11-1 将来暮らしたいところ一年齢階級、現在の生活の場別

		総数	施設に入所して生活	家族が住んでいる家	グループホーム	ム（施設から独立して生活を除く）	その他	わからない	無回答
総数		100.0 (2,490)	10.1	55.9	2.1	9.6	3.4	15.9	2.9
年齢階級別	29歳以下	100.0 (79)	5.1	32.9	5.1	27.8	1.3	21.5	6.3
	30～39歳	100.0 (109)	10.1	46.8	7.3	11.9	5.5	13.8	4.6
	40～49歳	100.0 (209)	8.1	45.5	8.6	14.4	1.9	17.7	3.8
	50～59歳	100.0 (252)	9.1	48.0	2.0	11.9	4.4	21.0	3.6
	60～69歳	100.0 (394)	7.4	58.9	1.0	10.7	5.1	14.5	2.5
	70～79歳	100.0 (736)	11.4	59.8	1.1	5.7	2.4	17.5	2.0
	80歳以上	100.0 (711)	11.7	60.1	0.8	8.6	3.5	12.4	3.0
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,683)	10.8	59.6	1.0	7.7	3.4	15.0	2.6
現在の生活の場別	在宅で生活している (福祉ホーム、グループホームを含む)	100.0 (2,363)	8.0	57.7	2.1	10.0	3.5	16.0	2.7
	施設に入所している	100.0 (121)	51.2	22.3	3.3	1.7	2.5	12.4	6.6

(2) 将来暮らしたいところ－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別
 将来暮らしたいところを障害名別にみると、「施設に入所して生活」の割合は、平衡機能障害では25.0%、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では17.1%、肢体不自由（体幹）では13.0%となっている。

現在一緒に生活している人別にみると、「家族が住んでいる家」の割合は、「その他の親族」と生活している人、「子供」と生活している人及び「配偶者」と生活している人ではいずれも7割を超えている（80.6%、79.5%、77.6%）。（表Ⅱ-11-2）

表Ⅱ-11-2 将来暮らしたいところ

－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

		総数	施設に入所して生活	家族が住んでいる家	グループホーム	家族から独立して生活（施設入所、グループホーム等での生活を除く）	その他	わからない	無回答
総数		100.0 (2,490)	10.1	55.9	2.1	9.6	3.4	15.9	2.9
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (357)	12.6	58.5	1.4	9.0	3.4	12.3	2.8
	聴覚障害	100.0 (359)	11.7	52.9	1.7	8.4	3.6	19.2	2.5
	平衡機能障害	100.0 (16)	25.0	50.0	-	6.3	-	12.5	6.3
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	7.5	61.1	1.7	11.7	1.7	13.8	2.5
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	12.2	49.1	5.2	10.7	2.0	17.0	3.7
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	11.3	54.1	3.6	11.6	3.1	14.1	2.3
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	13.0	50.6	4.1	8.2	3.0	16.4	4.8
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	17.1	34.2	11.3	15.8	3.8	14.2	3.8
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	7.4	60.1	0.6	8.8	4.8	15.8	2.5
現在一緒に生活している人〔複数回答〕別	親	100.0 (322)	6.5	55.0	6.5	12.1	0.6	14.9	4.3
	配偶者	100.0 (1,129)	5.2	77.6	0.5	1.1	1.2	11.9	2.6
	子供	100.0 (653)	3.5	79.5	0.5	1.7	1.4	11.0	2.5
	兄弟姉妹	100.0 (125)	9.6	60.0	4.0	8.8	1.6	12.8	3.2
	その他の親族	100.0 (103)	4.9	80.6	1.9	1.9	1.9	7.8	1.0
	一人で暮らしている	100.0 (599)	14.0	18.7	1.5	28.9	9.3	25.4	2.2
	その他	100.0 (35)	14.3	14.3	34.3	8.6	2.9	20.0	5.7

注) 現在一緒に生活している人〔複数回答〕別は、在宅者を対象とした設問のため、総数は2,363人である。

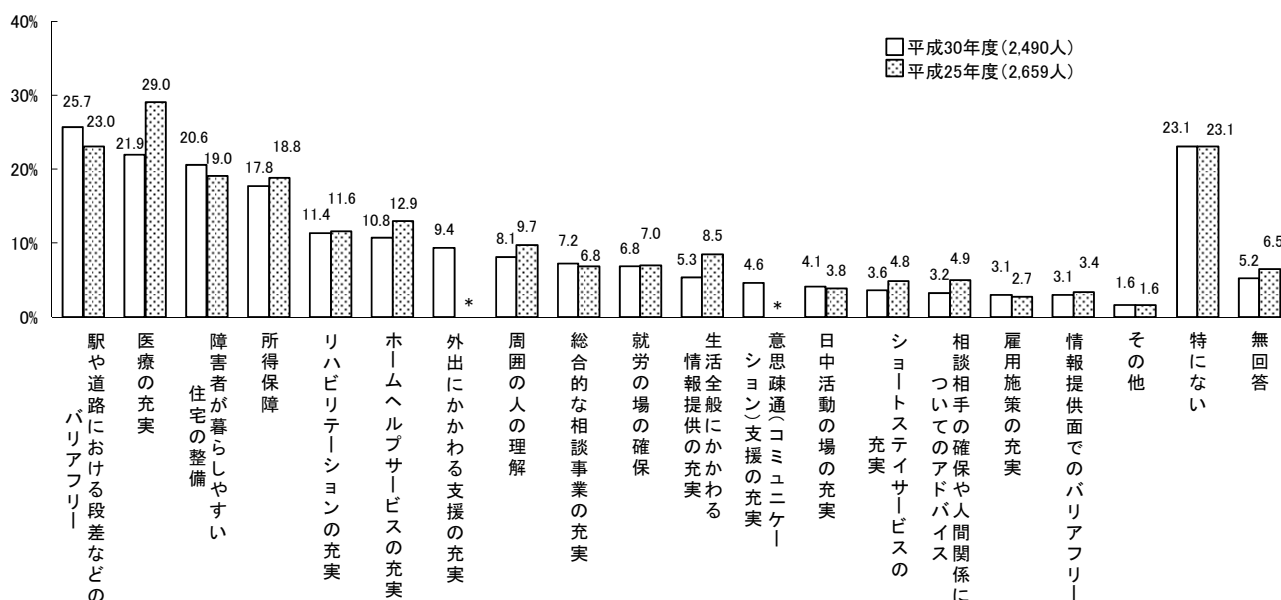
(3) 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

地域生活をする上で「駅や道路における段差などのバリアフリー」が必要と答えた割合は、平成25年度調査よりも2.7ポイント増加し25.7%

地域生活をしたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何か聞いたところ、「駅や道路における段差などのバリアフリー」の割合が25.7%、「医療の充実」が21.9%、「障害者が暮らしやすい住宅の整備」が20.6%となっている。

平成25年度調査と比べて、「駅や道路における段差などのバリアフリー」の割合は2.7ポイント増加し、25.7%となっている。一方で、平成25年度調査と比べて、「医療の充実」の割合は7.1ポイント減少し、21.9%となっている。（図Ⅱ-11-1）

図Ⅱ-11-1 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕



注) *は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

(4) 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

地域生活をする上で必要な福祉サービス等を障害名別にみると、聴覚障害では、「意思疎通（コミュニケーション）支援の充実」の割合が16.2%、「情報提供面でのバリアフリー」が8.9%、「生活全般にかかわる情報提供の充実」が9.5%となっている。

平日の日中主に過ごしたところ別にみると、通所施設では、「ショートステイサービスの充実」の割合が24.1%、「外出にかかわる支援の充実」が16.5%となっている。（表Ⅱ-11-3）

表Ⅱ-11-3 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

	総数	障害者が暮らしやすい住宅の整備	駅や道路における段差などのバリアフリー	就労の場の確保	雇用施策の充実	所得保障	総合的な相談事業の充実	ホームヘルプサービスの充実	日中活動の場の充実	ショートステイサービスの充実	外出にかかわる支援の充実	
総数	100.0 (2,490)	20.6	25.7	6.8	3.1	17.8	7.2	10.8	4.1	3.6	9.4	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (357)	19.6	36.1	10.6	2.2	19.9	6.7	12.0	2.8	2.5	17.1
	聴覚障害	100.0 (359)	22.6	15.0	8.6	4.2	15.6	7.5	8.1	3.6	2.5	6.1
	平衡機能障害	100.0 (16)	6.3	18.8	6.3	-	25.0	18.8	12.5	-	-	12.5
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	15.1	17.6	3.8	2.5	19.2	6.7	6.3	5.9	2.9	7.5
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	24.5	29.7	9.2	3.9	17.7	8.7	12.9	5.9	5.7	10.5
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	24.8	33.5	6.5	4.1	16.0	7.4	12.6	4.7	4.7	9.3
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	31.2	26.8	4.8	3.3	19.3	5.9	16.7	6.3	8.2	12.3
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	29.6	27.1	9.2	5.0	23.8	10.0	20.8	5.4	8.8	12.1
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	16.5	21.3	5.6	2.4	18.5	7.3	8.8	3.9	2.2	7.1	
平日の日中主に過ごしたところ別	自分の家	100.0 (1,766)	21.1	26.8	4.2	1.9	16.0	7.1	12.2	3.8	2.8	9.4
	職場(福祉的就労の施設を除く)	100.0 (354)	15.3	22.6	18.9	8.5	27.1	6.8	3.4	2.3	0.8	7.3
	職場(福祉的就労の施設)	100.0 (38)	28.9	23.7	23.7	13.2	23.7	10.5	23.7	13.2	10.5	5.3
	学校	100.0 (18)	16.7	38.9	44.4	16.7	11.1	5.6	-	22.2	-	-
	通所施設(生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)	100.0 (133)	27.8	28.6	3.8	0.8	18.0	3.8	13.5	9.8	24.1	16.5
	入所施設	100.0 (121)	19.8	13.2	0.8	-	16.5	6.6	6.6	2.5	-	11.6
	その他	100.0 (27)	25.9	22.2	11.1	7.4	25.9	22.2	11.1	-	-	-

(次ページへ続く)

表Ⅱ-11-3 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別（続）

		意思疎通（コミュニケーション）支援の充実	情報提供面でのバリアフリー	生活全般にかかわる情報提供の充実	相談相手の確保や人間関係についてのアドバイス	周囲の人の理解	医療の充実	リハビリテーションの充実	その他	特になし	無回答
総数		4.6	3.1	5.3	3.2	8.1	21.9	11.4	1.6	23.1	5.2
身体障害者手帳の障害名（複数回答）別	視覚障害	2.5	5.0	6.2	4.5	9.5	18.8	2.8	1.7	17.6	5.9
	聴覚障害	16.2	8.9	9.5	2.8	9.7	19.5	6.7	1.4	21.4	5.8
	平衡機能障害	-	-	-	6.3	18.8	31.3	25.0	-	18.8	18.8
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	11.3	0.8	5.9	3.8	14.2	24.7	13.0	0.8	28.0	4.6
	肢体不自由（上肢）	2.2	1.3	3.3	3.1	7.6	18.6	19.0	1.7	19.2	5.7
	肢体不自由（下肢）	2.0	2.1	3.4	3.8	7.5	18.1	19.1	2.3	19.6	4.6
	肢体不自由（体幹）	1.5	1.5	3.0	3.3	6.3	24.5	18.2	2.2	14.5	6.3
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	4.6	2.5	5.8	5.8	9.6	18.3	12.1	1.7	10.4	5.8
内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害）	0.8	1.4	4.6	2.4	6.0	28.8	9.8	1.4	29.8	4.8	
平日の日中主に過ごしたところ別	自分の家	4.1	2.5	5.5	2.4	7.2	22.0	11.8	1.6	25.0	4.5
	職場（福祉的就労の施設を除く）	5.6	6.8	5.4	4.5	15.0	25.1	5.9	0.8	19.2	5.1
	職場（福祉的就労の施設）	5.3	2.6	-	10.5	7.9	13.2	5.3	2.6	7.9	5.3
	学校	22.2	5.6	16.7	-	11.1	16.7	16.7	-	11.1	-
	通所施設（生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く）	5.3	0.8	5.3	6.8	6.8	21.1	18.0	3.8	12.0	6.8
	入所施設	7.4	0.8	2.5	4.1	3.3	19.0	14.0	2.5	28.9	9.9
	その他	-	7.4	3.7	7.4	7.4	22.2	11.1	3.7	22.2	7.4

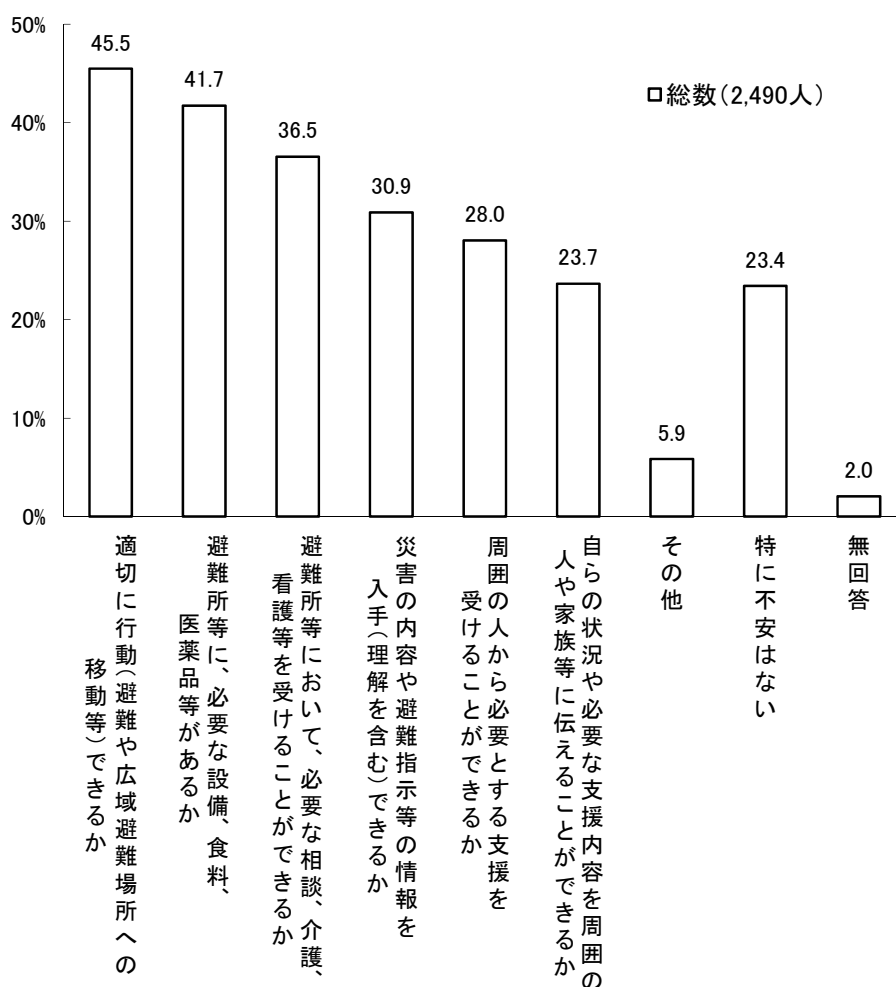
12 災害関係

(1) 災害時に不安を感じる事〔複数回答〕

災害時に不安を感じることは、「適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか」が45.5%、「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品等があるか」が41.7%

災害時に不安を感じることを聞いたところ、「適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか」の割合が45.5%、「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品等があるか」が41.7%となっている。（図Ⅱ-12-1）

図Ⅱ-12-1 災害時に不安を感じる事〔複数回答〕



(2) 災害時に不安を感じる事〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

災害時に不安を感じることを障害名別にみると、聴覚障害では「災害の内容や避難指示等の情報を入手（理解を含む）できるか」の割合が50.4%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下では「適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか」の割合が54.4%、40代では「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品等があるか」が53.6%となっている。（表Ⅱ-12-1）

表Ⅱ-12-1 災害時に不安を感じる事〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

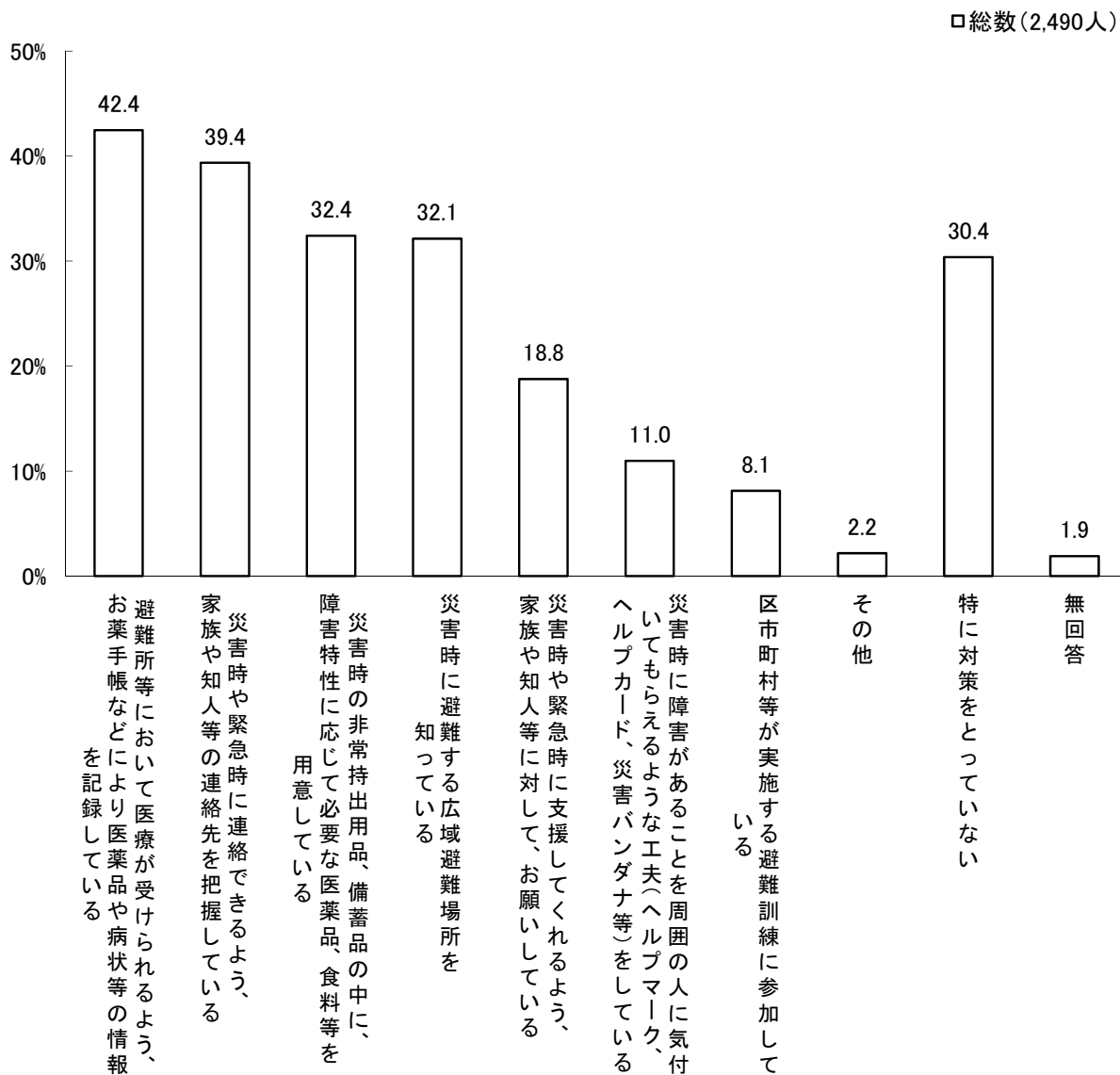
	総数	災害の内容や避難指示等の情報を入手（理解を含む）できるか	適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか	周囲の状況や家族等に伝えることができるか	自らの状況や必要な支援内容を受けられるか	周囲のことが必要とする支援を受けられるか	介護、看護等を受けて、必要な相談、避難所等において、必要な相談、避難所等があるか	医薬品等があるか	避難所等に、必要な設備、食料、その他	特に不安はない	無回答
総数	100.0 (2,490)	30.9	45.5	23.7	28.0	36.5	41.7	5.9	23.4	2.0	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (357)	33.1	52.4	19.0	27.5	33.6	34.7	8.4	23.5	2.2
	聴覚障害	100.0 (359)	50.4	39.6	28.4	32.0	36.5	33.4	4.7	22.3	1.9
	平衡機能障害	100.0 (16)	25.0	43.8	25.0	31.3	43.8	56.3	12.5	25.0	12.5
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	28.0	36.0	38.5	23.8	31.8	38.1	2.1	26.4	2.5
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	29.9	54.1	26.6	34.3	40.8	46.7	7.9	19.0	2.8
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	28.9	56.0	25.2	35.6	39.5	45.4	6.2	19.4	2.0
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	32.7	61.0	32.7	43.1	49.8	51.7	7.4	15.2	4.5
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	38.3	59.2	37.9	47.9	52.5	48.8	8.8	16.7	0.8
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	23.2	36.1	15.8	19.6	35.9	48.3	5.0	25.5	1.4	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (79)	43.0	54.4	31.6	48.1	49.4	48.1	10.1	11.4	-
	30～39歳	100.0 (109)	36.7	49.5	31.2	46.8	46.8	42.2	5.5	14.7	1.8
	40～49歳	100.0 (209)	34.4	44.5	25.4	35.4	38.8	53.6	3.3	13.9	3.8
	50～59歳	100.0 (252)	31.7	39.7	28.2	30.2	35.7	36.9	8.3	23.0	2.0
	60～69歳	100.0 (394)	25.9	42.4	23.4	26.1	36.8	43.4	4.8	24.6	3.3
	70～79歳	100.0 (736)	31.3	47.7	21.9	24.3	34.2	42.8	5.8	24.3	1.0
	80歳以上	100.0 (711)	29.7	45.6	21.5	24.9	35.4	37.1	5.9	27.4	2.3
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,683)	29.9	46.5	22.0	24.5	34.9	40.3	5.8	25.8	1.7

(3) 災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

「避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している」の割合が42.4%であるが、「特に対策をとっていない」割合も30.4%にのぼる

災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか聞いたところ、「避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している」の割合が42.4%、「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」が39.4%となっている。一方で、「特に対策をとっていない」の割合が30.4%となっている。(図Ⅱ-12-2)

図Ⅱ-12-2 災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕



(4) 災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているかを障害名別にみると、内部障害では「避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している」の割合が約5割となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下及び30代では「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」の割合がそれぞれ43.0%、45.9%、70代及び80歳以上では「避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している」の割合がそれぞれ46.9%、44.4%となっている。（表Ⅱ-12-2）

表Ⅱ-12-2 災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	災害時の非常持出品、備蓄品、食料等を用意している	避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している	災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している	災害時や緊急時に支援してくれるよう、家族や知人等に対して、お願いしている	災害時に避難する広域避難場所を知っている	区市町村等が実施する避難訓練に参加している	災害時に障害があることを周囲の人に気付けてもらえるよう工夫（ヘルプマーク、ヘルプカード、災害バンドナ等）をしている	その他	特に対策をとっていない	無回答	
総数	100.0 (2,490)	32.4	42.4	39.4	18.8	32.1	8.1	11.0	2.2	30.4	1.9	
身体障害者手帳の障害名別	視覚障害	100.0 (357)	32.8	41.2	39.8	22.1	27.5	9.8	14.8	1.7	31.7	2.8
	聴覚障害	100.0 (359)	25.6	30.9	40.1	16.4	29.8	7.0	11.4	2.5	32.9	2.5
	平衡機能障害	100.0 (16)	18.8	31.3	25.0	12.5	31.3	-	6.3	-	37.5	12.5
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	26.8	44.8	37.2	18.0	29.7	8.8	15.5	0.4	30.5	2.1
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	31.2	43.7	36.7	20.7	31.7	6.8	11.8	3.3	31.2	2.2
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	33.2	44.3	41.2	22.2	35.5	6.7	10.8	2.1	27.9	1.6
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	33.5	44.2	34.9	20.4	28.3	7.1	13.0	2.6	30.9	3.0
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	34.6	39.2	33.8	22.9	35.4	12.5	15.4	4.6	30.4	0.8
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	36.8	49.7	39.7	15.0	33.3	7.8	8.5	2.0	28.1	1.0
	年齢階級別	29歳以下	100.0 (79)	27.8	38.0	43.0	22.8	32.9	8.9	13.9	-	34.2
30～39歳		100.0 (109)	36.7	35.8	45.9	26.6	38.5	10.1	17.4	-	21.1	0.9
40～49歳		100.0 (209)	34.9	35.9	37.8	17.7	25.4	7.2	14.4	2.4	33.0	2.4
50～59歳		100.0 (252)	25.0	38.1	40.9	15.9	31.7	7.9	15.1	2.8	31.0	2.4
60～69歳		100.0 (394)	34.8	39.6	38.8	16.0	32.2	9.4	12.2	2.8	29.4	2.8
70～79歳		100.0 (736)	34.0	46.9	40.1	18.2	34.8	10.1	10.5	2.3	29.3	1.5
80歳以上		100.0 (711)	31.2	44.4	37.4	20.5	30.4	5.3	7.0	2.0	31.9	1.7
(再掲)65歳以上		100.0 (1,683)	33.0	44.9	39.3	19.2	32.9	8.0	9.3	2.1	30.3	1.6